

入間市ヤングケアラー実態調査 結果報告書



令和3年10月

目次

1 調査の概要	1
2 小学生の調査結果	2
3 中学生の調査結果	20
4 高校生の調査結果	38
5 小学校教員・養護教諭の調査結果	48
6 考察	51
7 今後の方向性	53
8 参考文献	54
9 付録	

ヤングケアラー実態調査結果

1 調査の概要

(1) 調査の目的

潜在化しているヤングケアラーの存在及び実態を把握するため、ヤングケアラー実態調査を行う。併せて、ヤングケアラーが担っているケアの状況、悩みごと、支援ニーズ等を把握し、必要な施策に反映する。

(2) 調査対象

- ・市立小学校 16 校の 4 年生から 6 年生 : 3,502 人
- ・市立中学校 11 校及び私立中学校 1 校の 1 年生から 3 年生 : 3,808 人
- ・市内高等学校 4 校の 1 年生・2 年生 : 2,588 人
- ・小学 1 年生から 3 年生の担任及び小学校の養護教諭 : 129 人 計 10,027 人

(3) 調査方法

- ・各自のタブレット端末またはスマートフォンにより Web アンケートを無記名で行った。
※ヤングケアラーに関する動画を作成し、ケアとお手伝いの違いを説明してから調査を行った。
- ・調査票各設問の単純集計及びクロス集計を行い、実態調査結果に関する詳細な分析を行った。
- ・市内在住者のヤングケアラーと思われる高校生は 8 人と少数であったことから、高校生の調査結果は単純集計のみとし、クロス集計を用いた分析は行わないこととした。

(4) 調査期間

- ・小中学生:令和 3 年 7 月 7 日～7 月 16 日※私立中学校の中学生は高校生と同時期に調査
- ・高校生:令和 3 年 7 月 7 日～7 月 31 日
- ・担任教員等:令和 3 年 7 月 7 日～7 月 16 日

(5) 回答状況

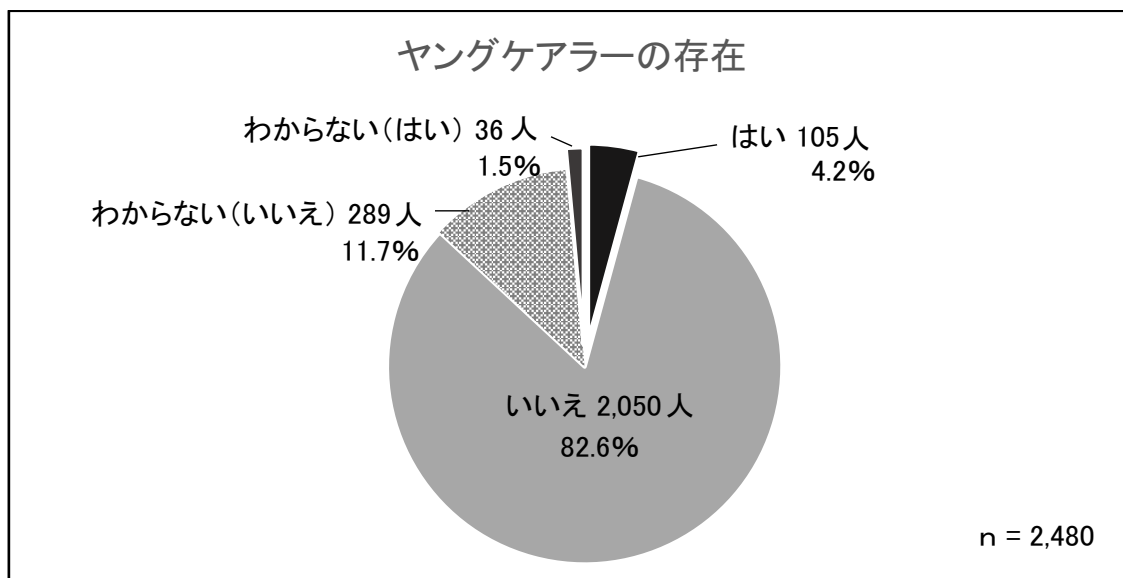
調査対象者	回答者数	回収率
小学 4～6 年生	2,480 人	70.8%
中学 1～3 年生	1,907 人	50.1%
高校 1・2 年生	834 人	32.2%
小学 1～3 年生の担任・養護教諭	56 人	43.4%
合計	5,277 人	52.6%

2 小学生の調査結果

(1) ヤングケアラーの存在について

自分が「ヤングケアラー」だと思うかの問いに対し、回答者 2,480 人の内「はい」と回答したのは 105 人(4.2%)、「いいえ」2,050 人(82.6%)であった。

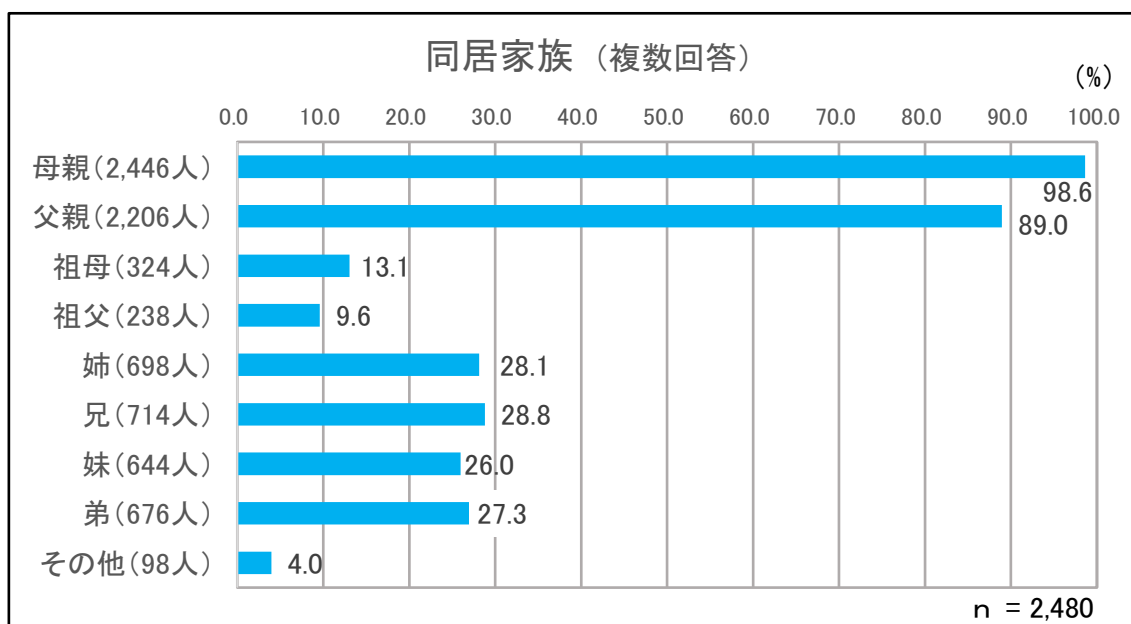
ヤングケアラーか「わからない」と回答したが、ケアの状況から「ヤングケアラーである」と判断した回答者を含めると、小学生におけるヤングケアラーは 141 人(5.7%)であった。



(2) 家族の状況について

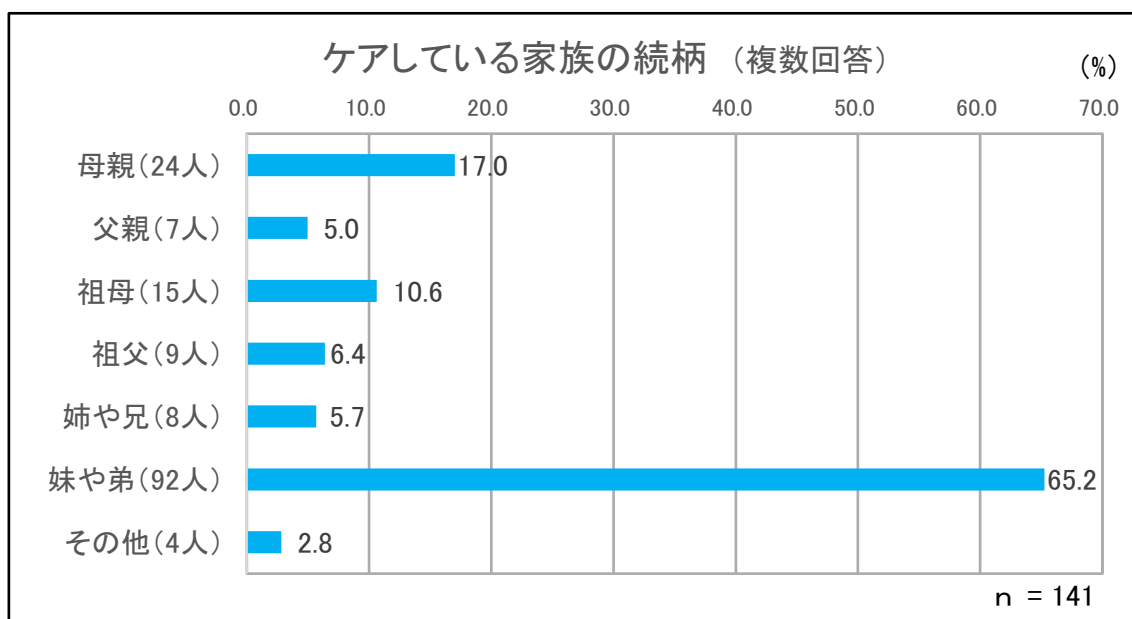
① 同居家族

同居の家族は、「母親」が 98.6%と最も高く、次いで「父親」89.0%、「兄」28.8%の順であった。



② ケアしている家族

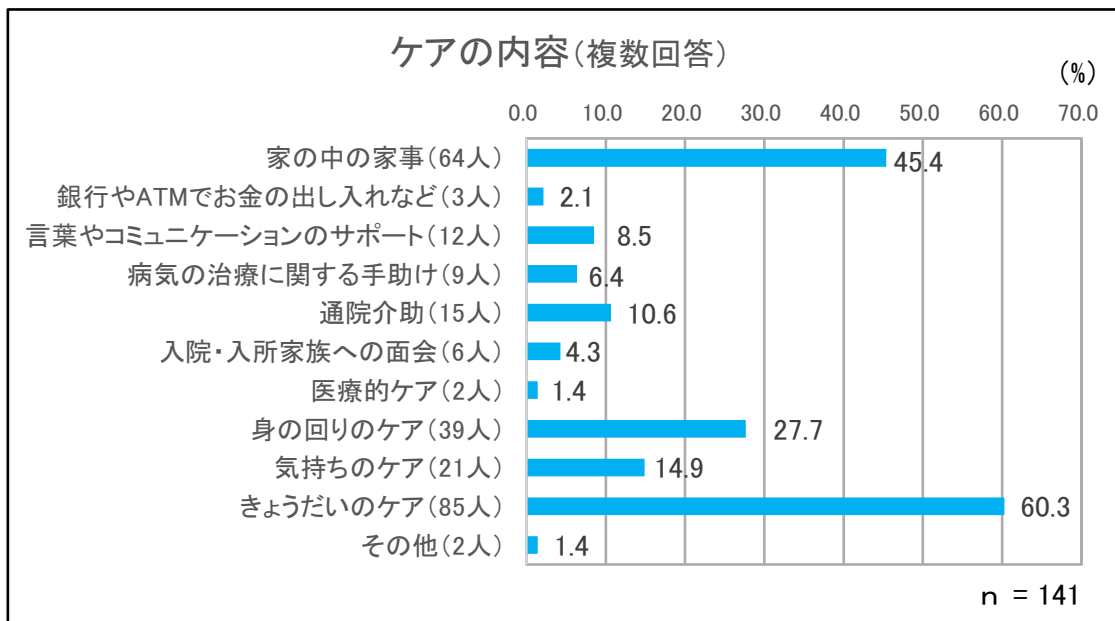
ケアしている家族は、「妹や弟」が 65.2%と最も高く、次いで「母親」17.0%、「祖母」10.6%の順であった。



(3) ケアの状況について

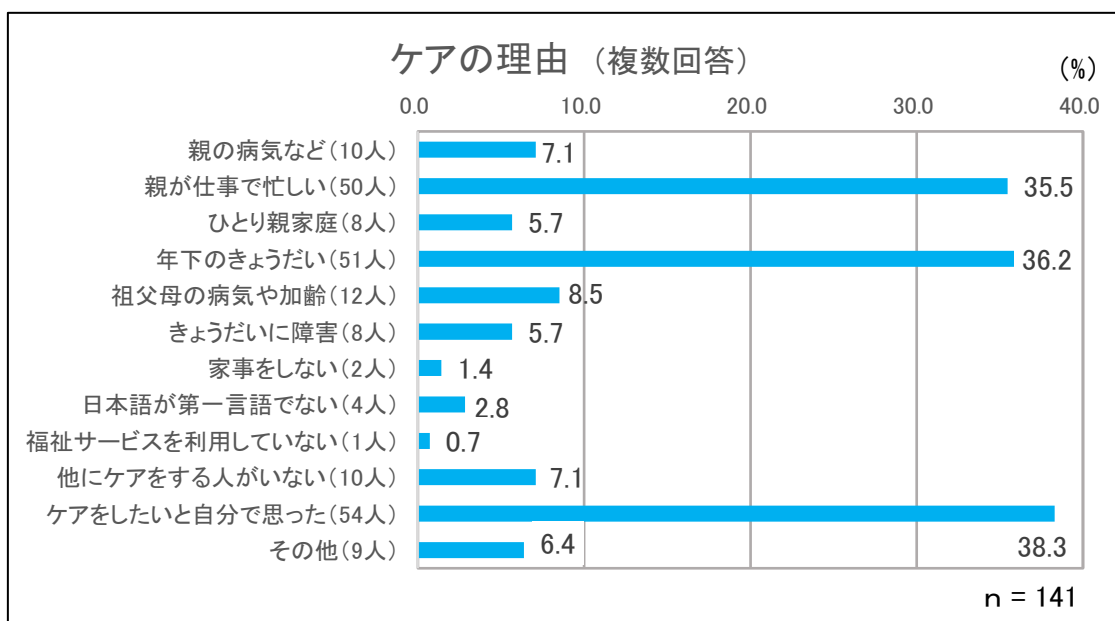
① ケアの内容

ケアの内容は、「(自分一人で、あるいは親と一緒に)きょうだいのケア」が 60.3%と最も高く、次いで「家の中の家事(食事の片付け、洗濯、掃除、買い物など)」45.4%、「身の回りのケア(衣服の脱ぎ着の手伝い、お風呂やトイレの手伝い、歩行の手助けなど)」27.7%の順であった。



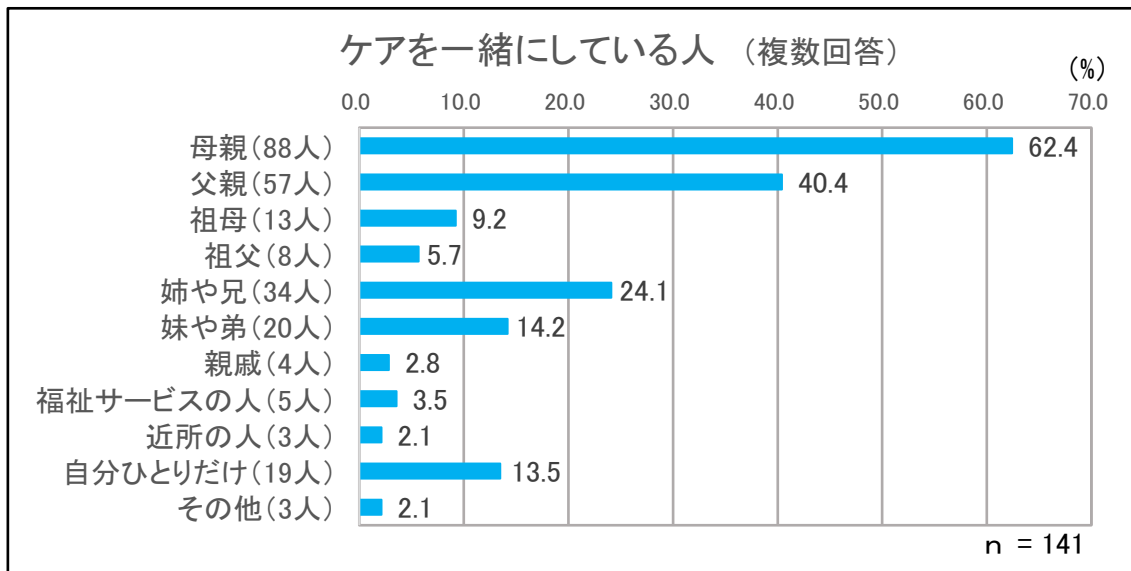
② ケアの理由

ケアの理由については、「ケアをしたいと自分で思った」が 38.3%と最も高く、次いで「年下のきょうだい」36.2%、「親が仕事で忙しい」35.5%、「祖父母の病気や加齢」8.5%の順であった。



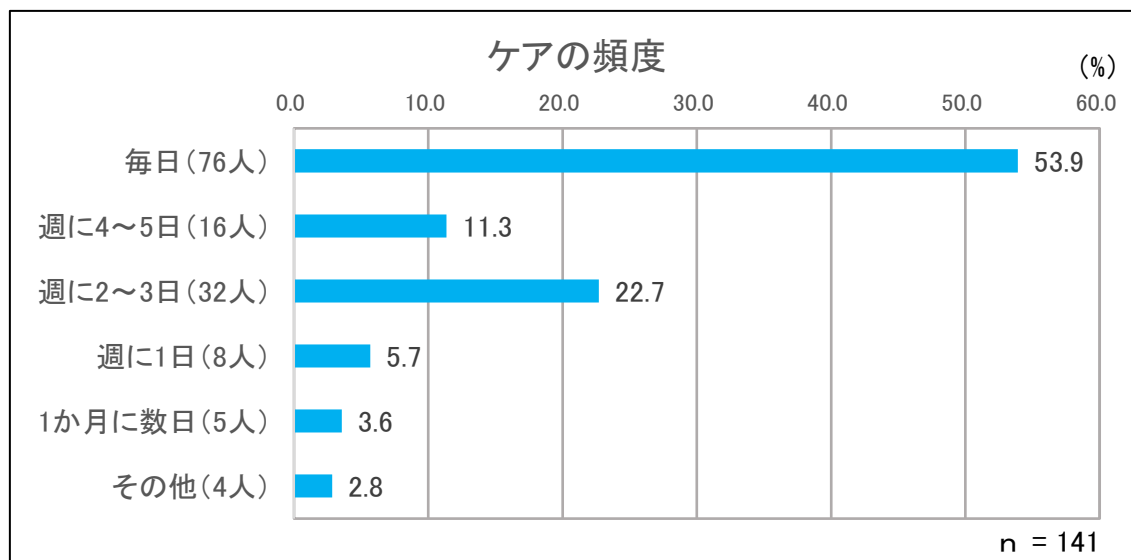
③ ケアを一緒にしている人

ケアを一緒にしている人は、「母親」が 62.4%と最も高く、次いで「父親」40.4%、「姉や兄」24.1%の順であった。「妹や弟」と一緒にケアをしているのは 14.2%、「自分ひとりだけ」は 13.5%であった。



④ ケアの頻度

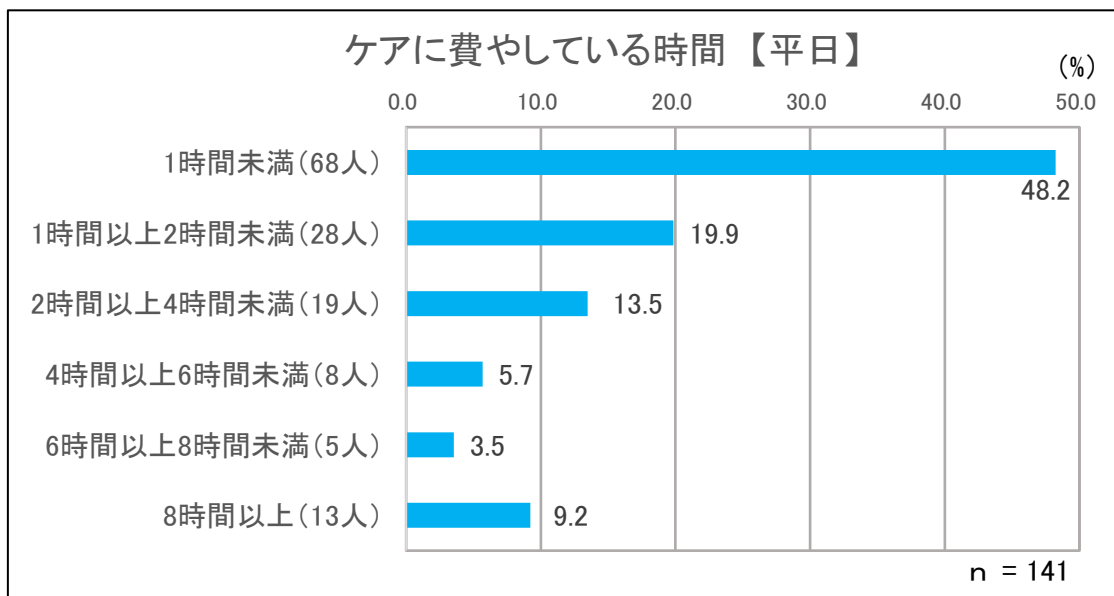
ケアの頻度は、「毎日」が 53.9%と最も高く、次いで「週に 2~3 日」22.7%、「週に 4~5 日」11.3%の順であった。



⑤ ケアに費やしている時間

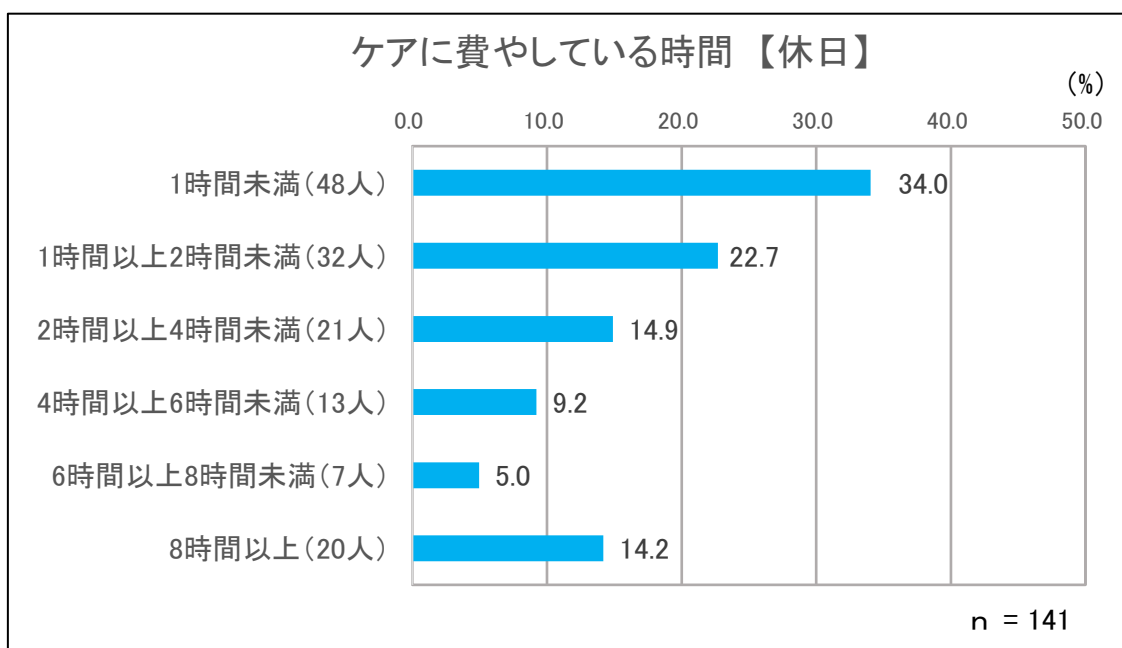
【平日】

学校のある平日にケアに費やしている時間は、「1 時間未満」が 48.2%と最も高く、次いで「1 時間以上 2 時間未満」19.9%、「2 時間以上 4 時間未満」13.5%の順であった。「8 時間以上」ケアを行っていると回答した児童は 9.2%であった。



【休日】

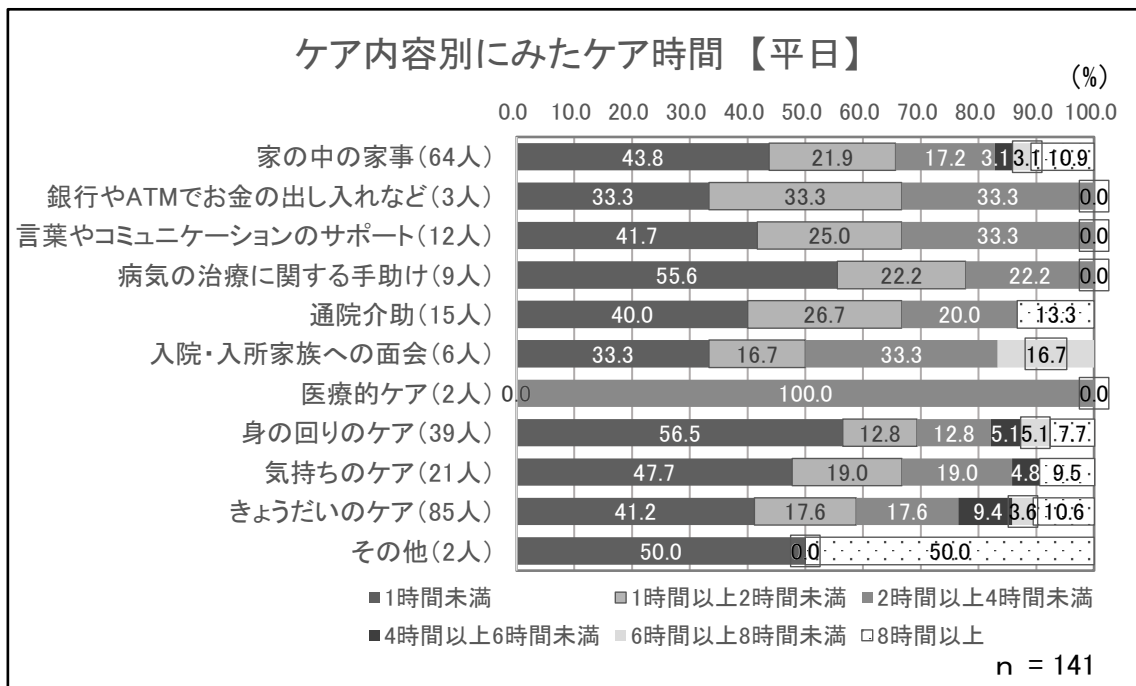
休日にケアに費やしている時間は、「1 時間未満」が 34.0%と最も高く、次いで「1 時間以上 2 時間未満」22.7%、「2 時間以上 4 時間未満」14.9%の順であった。「8 時間以上」ケアを行っていると回答した児童は 14.2%であった。



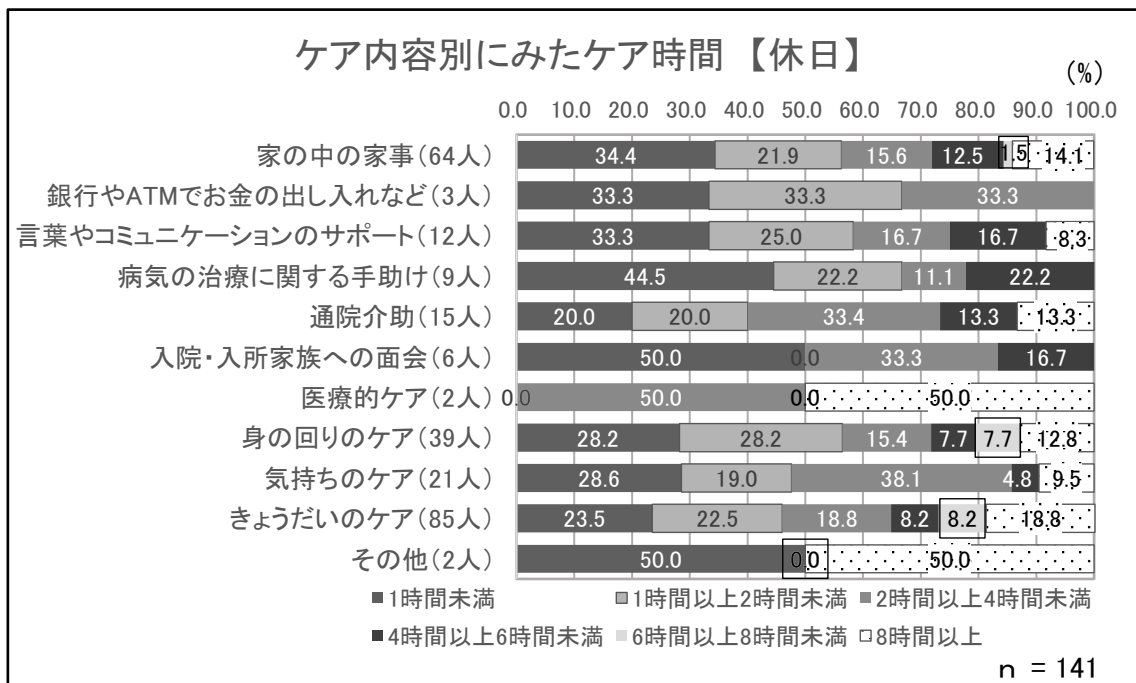
⑥ ケア内容別にみたケア時間

多くのケアにおいて、平日よりも休日のほうが長時間ケアを行っている。通院介助に平日2時間以上費やしている児童は33.3%であるのに対し、休日は60%に増加している。

【平日】



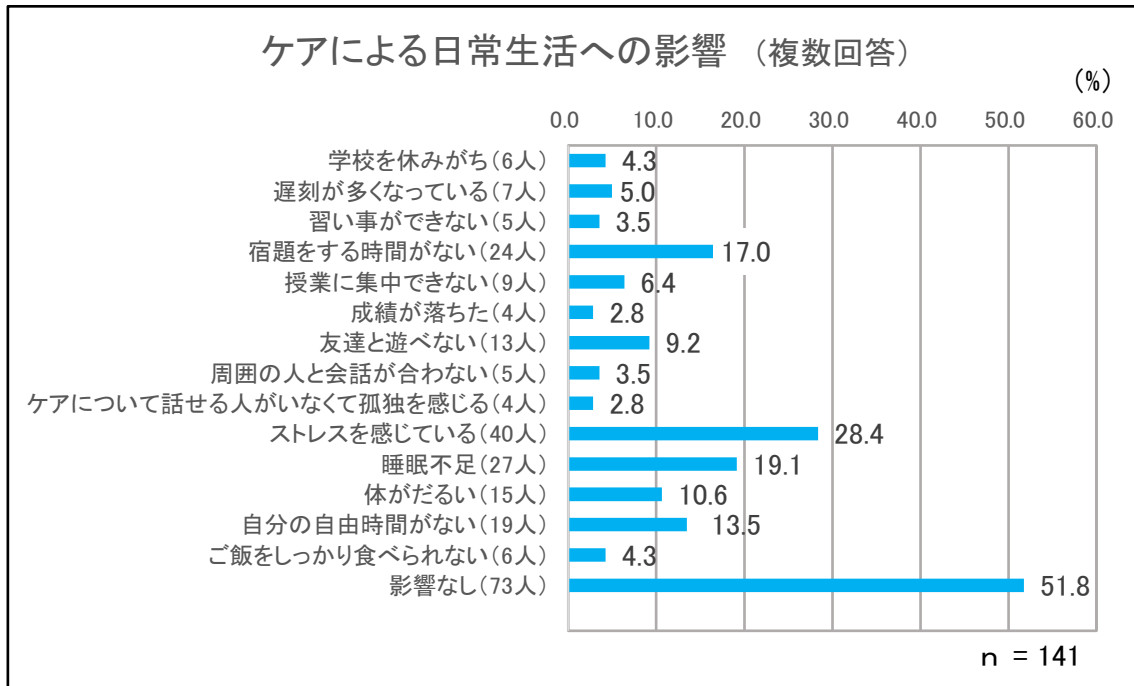
【休日】



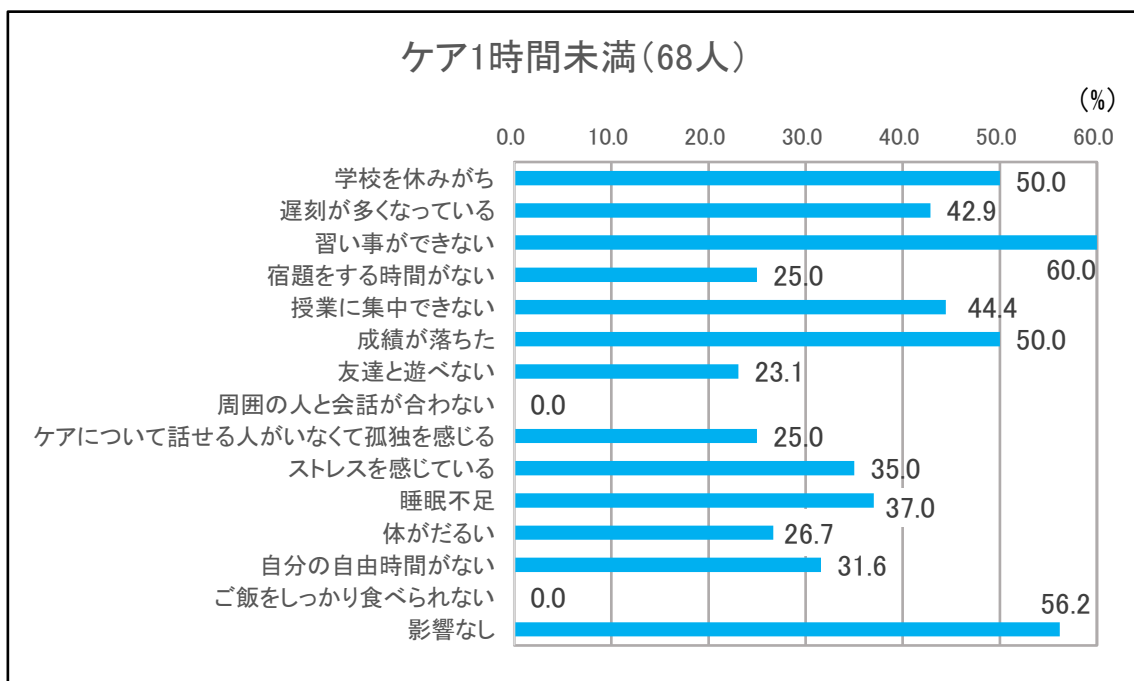
(4) ケアの影響

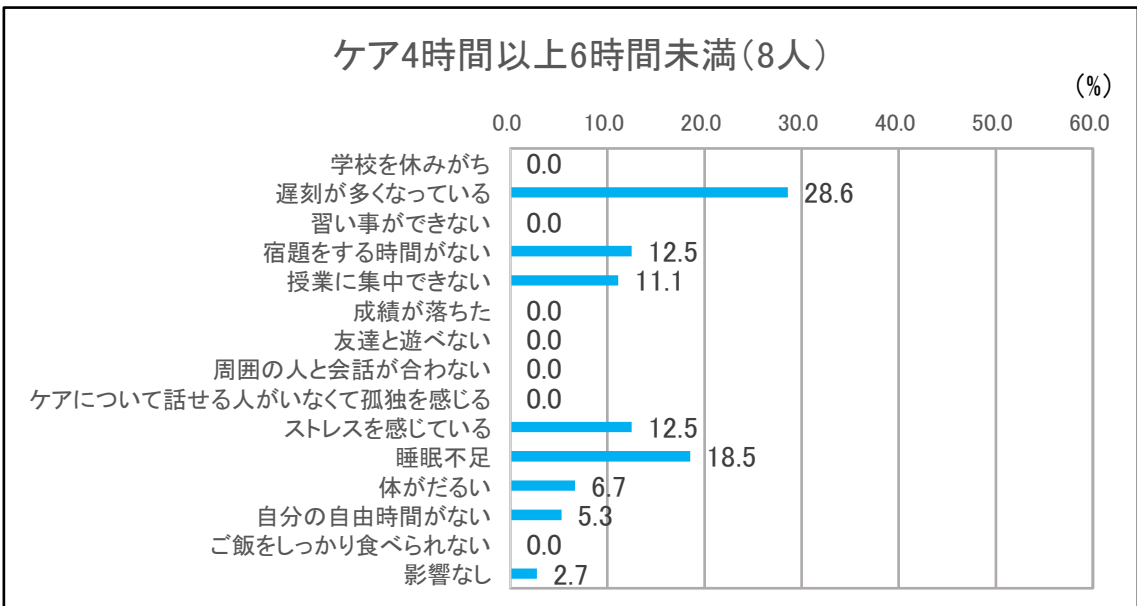
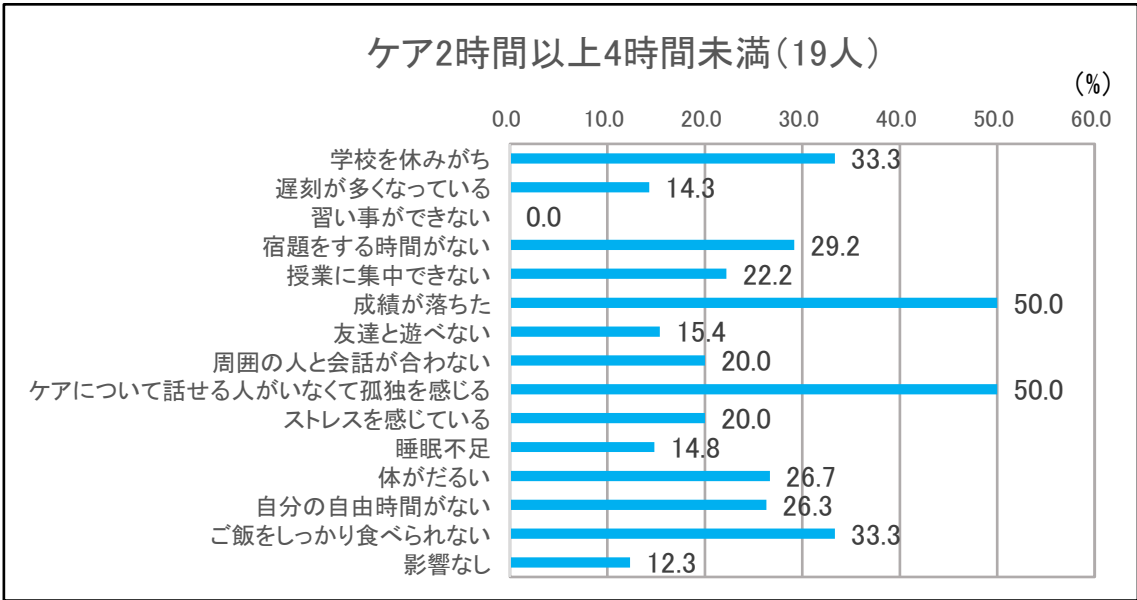
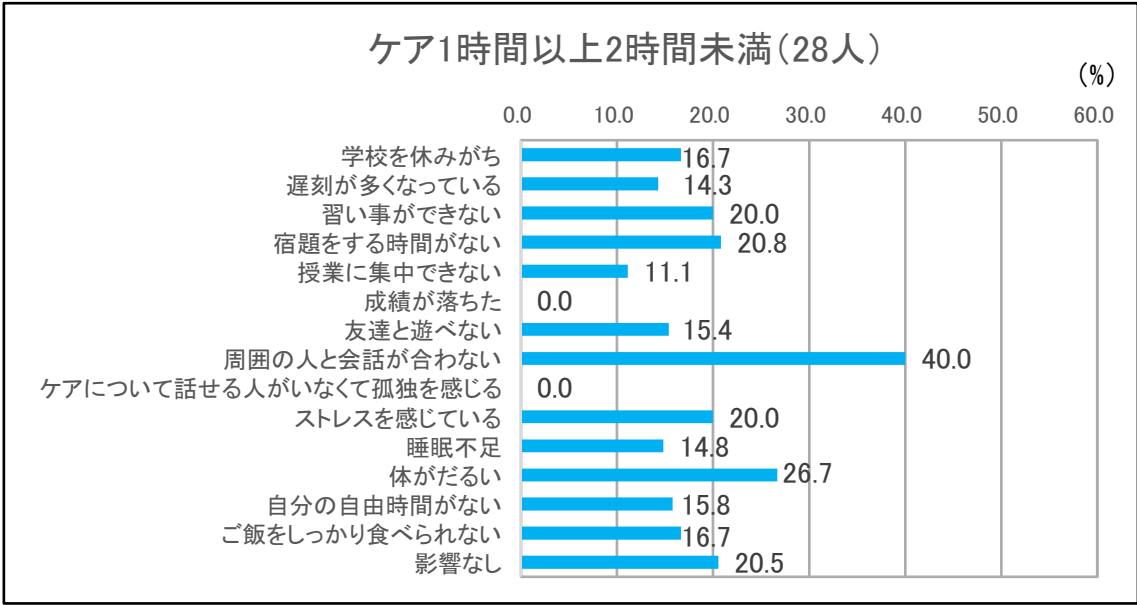
① ケアによる日常生活への影響

ケアによる日常生活への影響については、「影響なし」が51.8%と最も高く、次いで「ストレスを感じている」28.4%、「睡眠不足」19.1%、「宿題をする時間がない」17.0%の順であった。

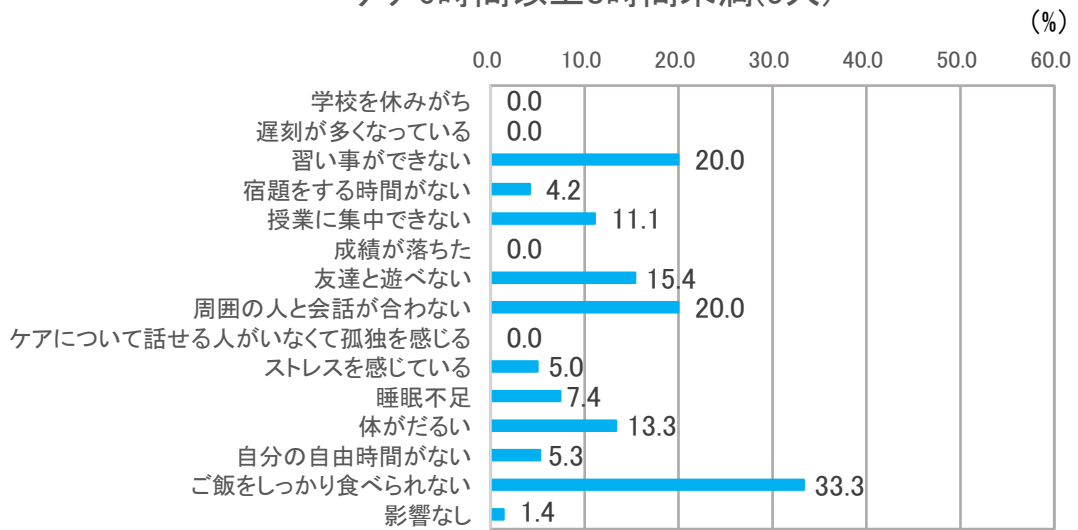


② 1日あたりのケア時間と生活への影響【平日】(複数回答)

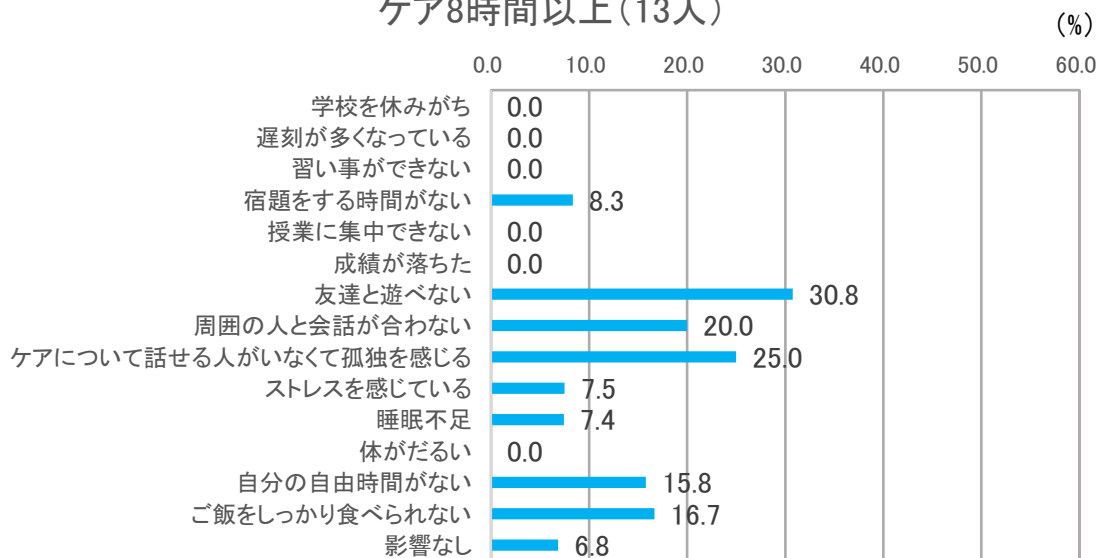




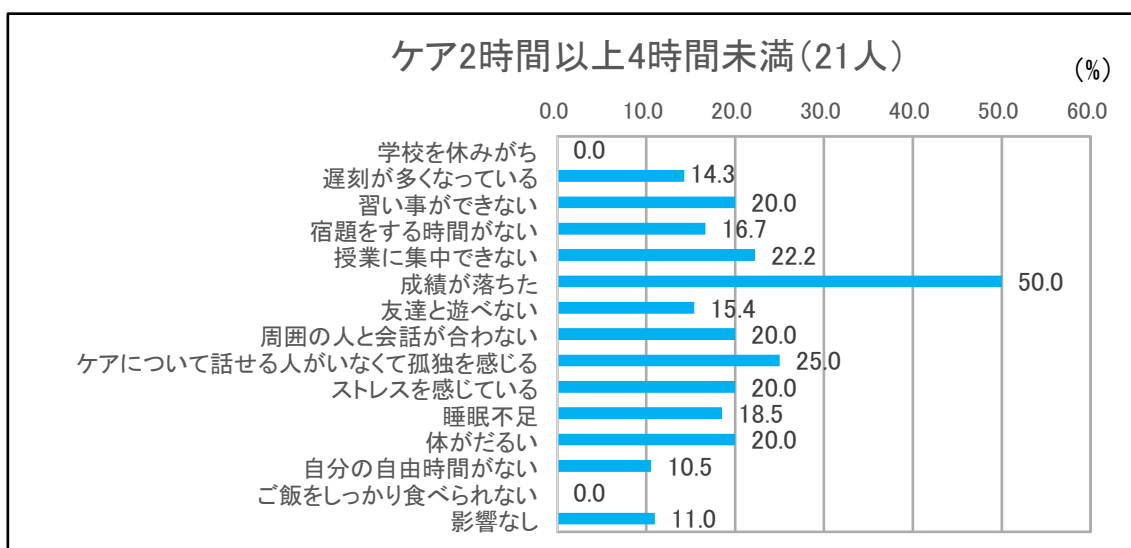
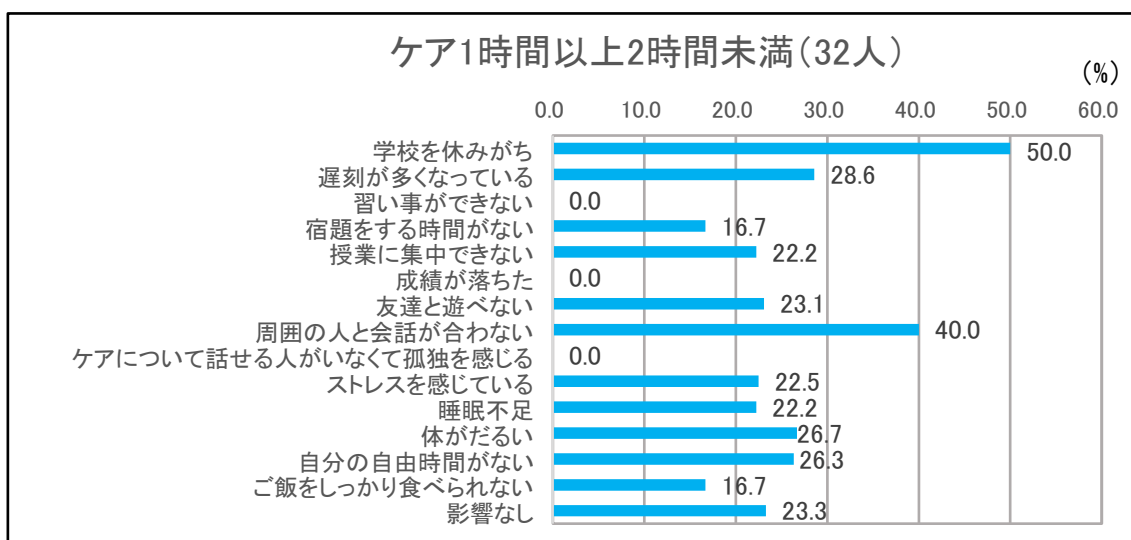
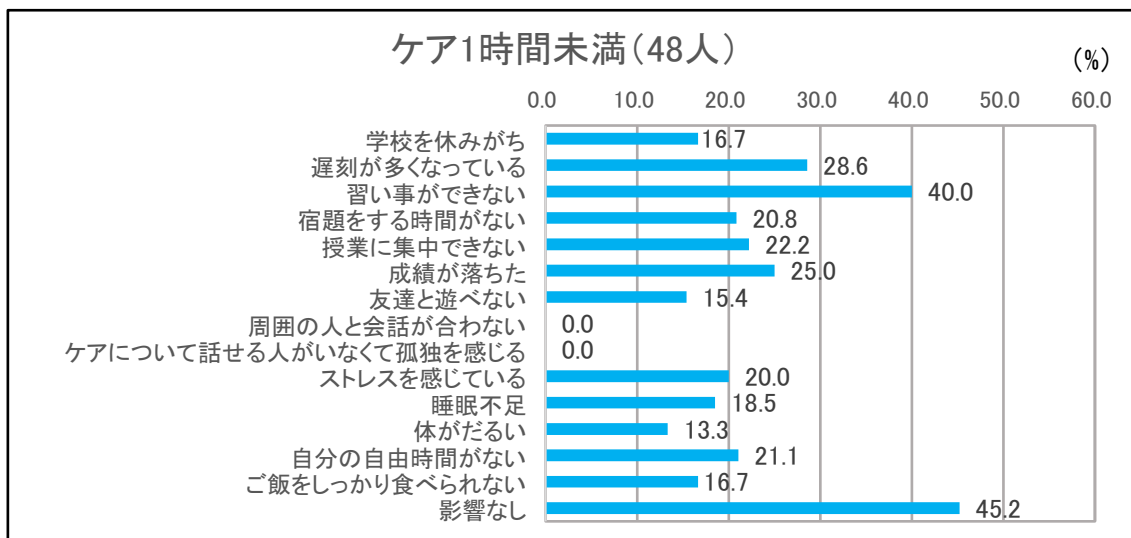
ケア6時間以上8時間未満(5人)

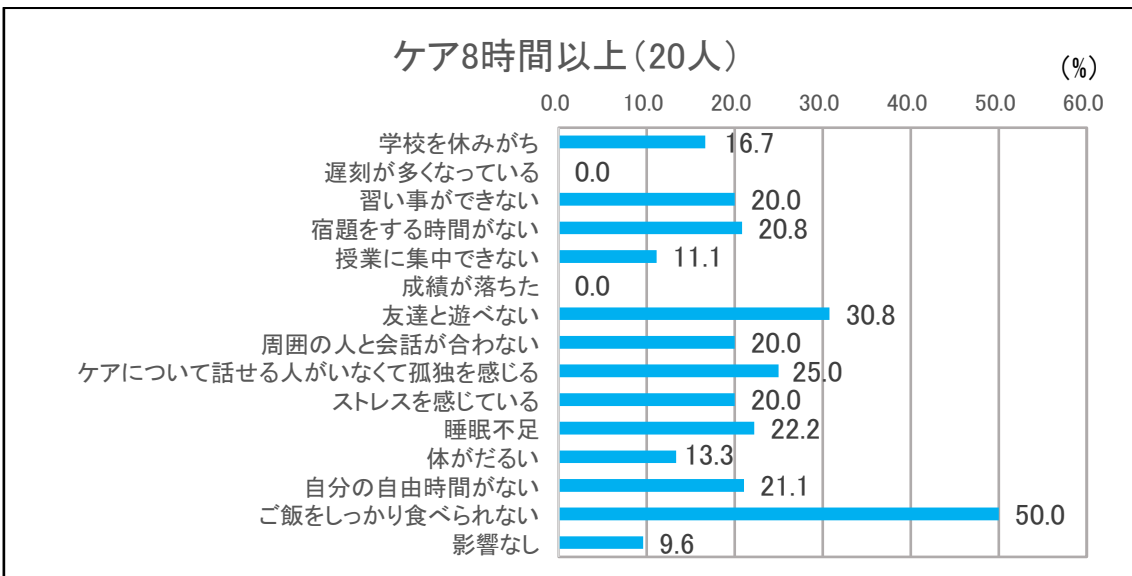
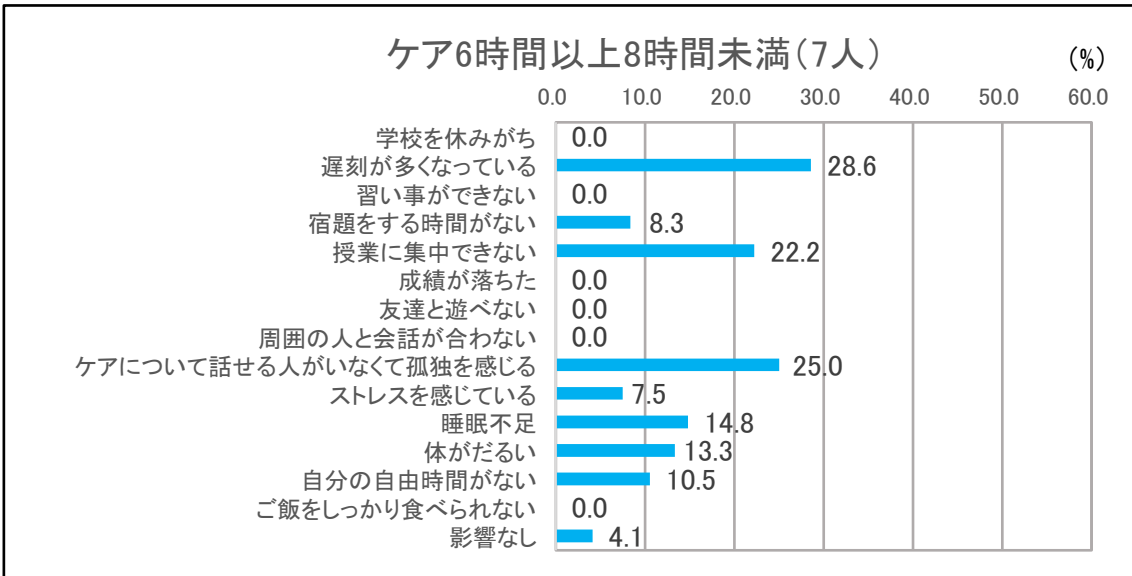
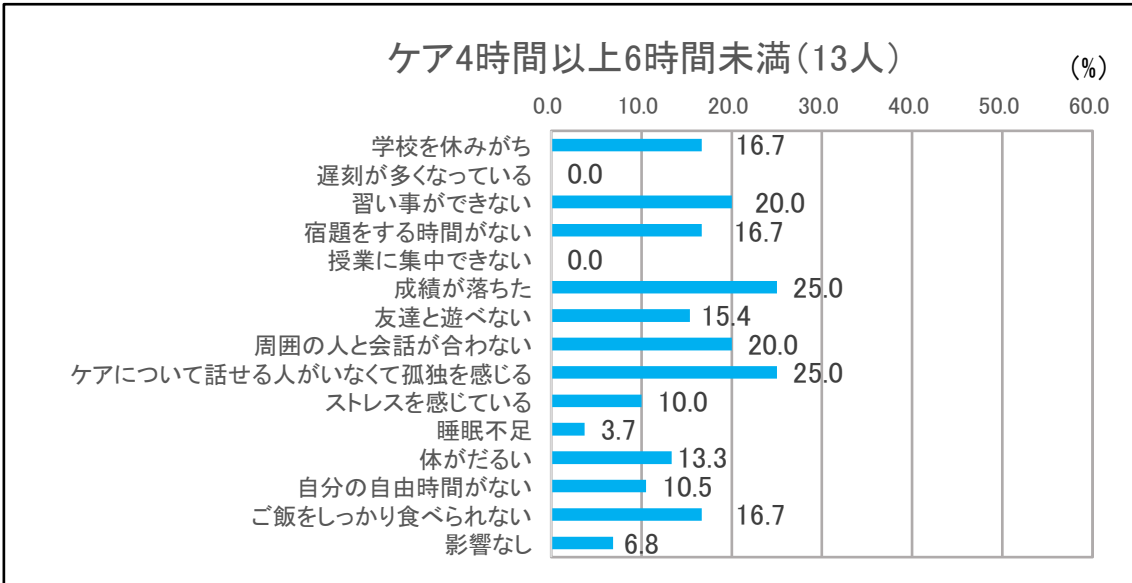


ケア8時間以上(13人)



③ 1日あたりのケア時間と生活への影響【休日】(複数回答)

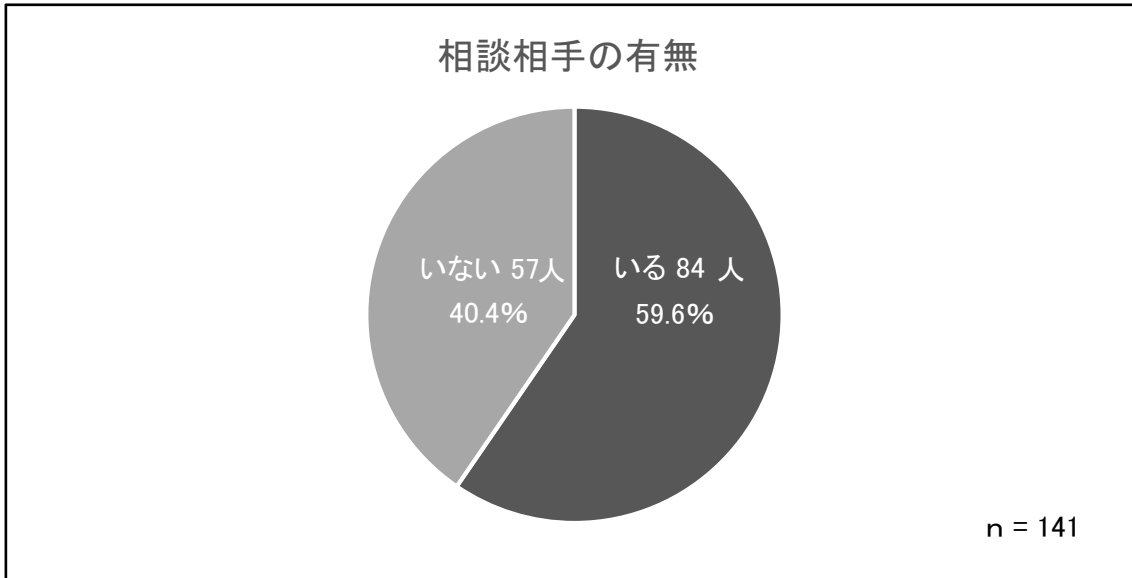




(5) 相談の状況・必要なサポート

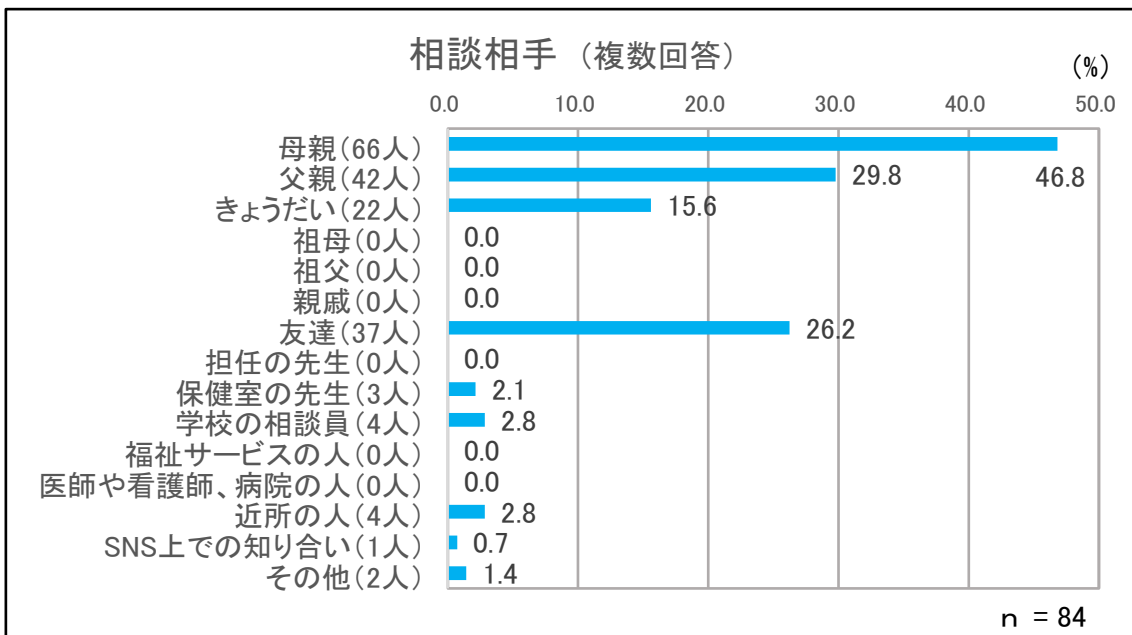
① 相談相手の有無

ケアについての悩みや不満を話せる人の有無については、「いる」が 59.6%、「いない」が 40.4%であった。



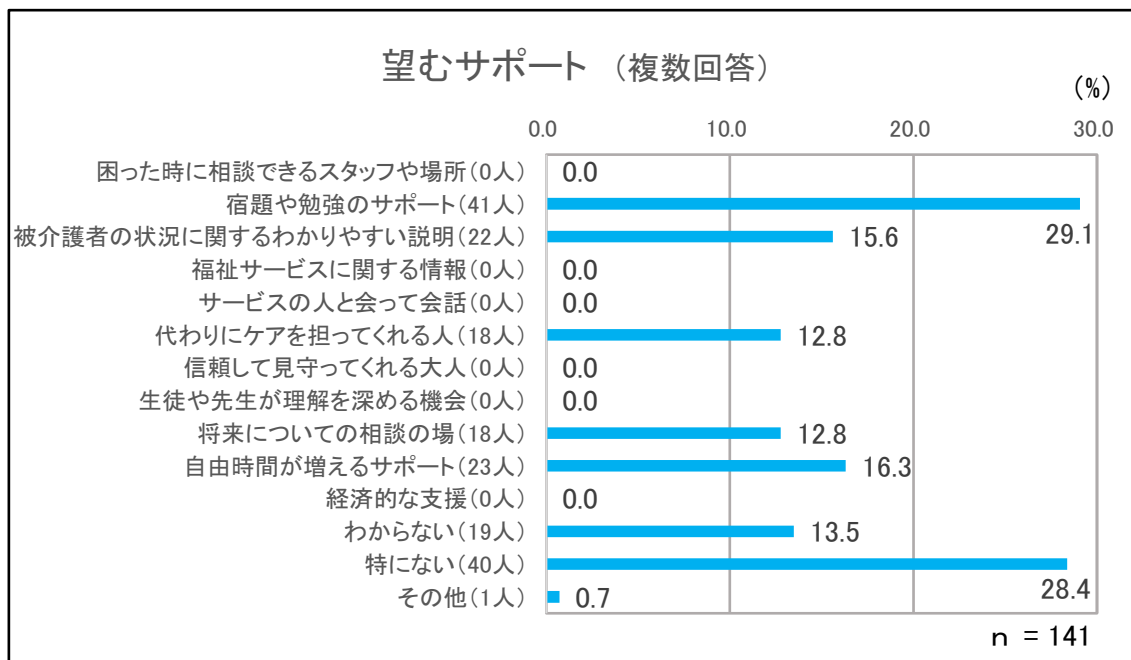
② 相談相手

相談相手は、「母親」が 46.8%と最も高く、次いで「父親」29.8%、「友達」26.2%の順であった。



③ 望むサポート

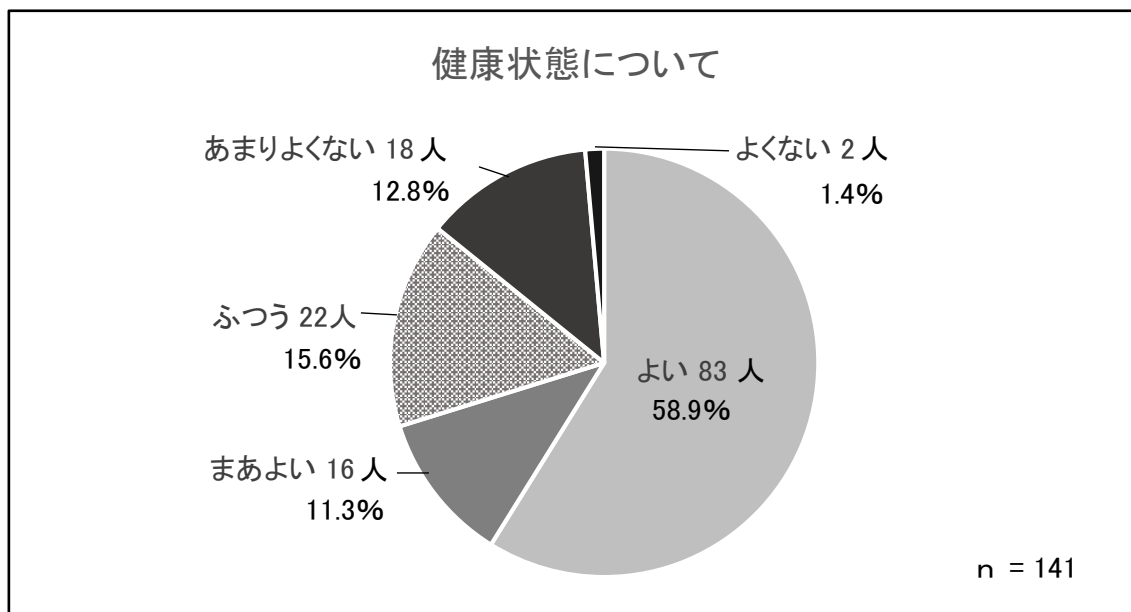
ケアに関してあったらいいと思うサポートは、「宿題や勉強のサポート」が 29.1%と最も高く、次いで「特にない」28.4%、「自由時間が増えるサポート」16.3%、「被介護者の状況に関するわかりやすい説明」15.6%の順であった。



(6) ヤングケアラー本人の状況

① 健康状態について

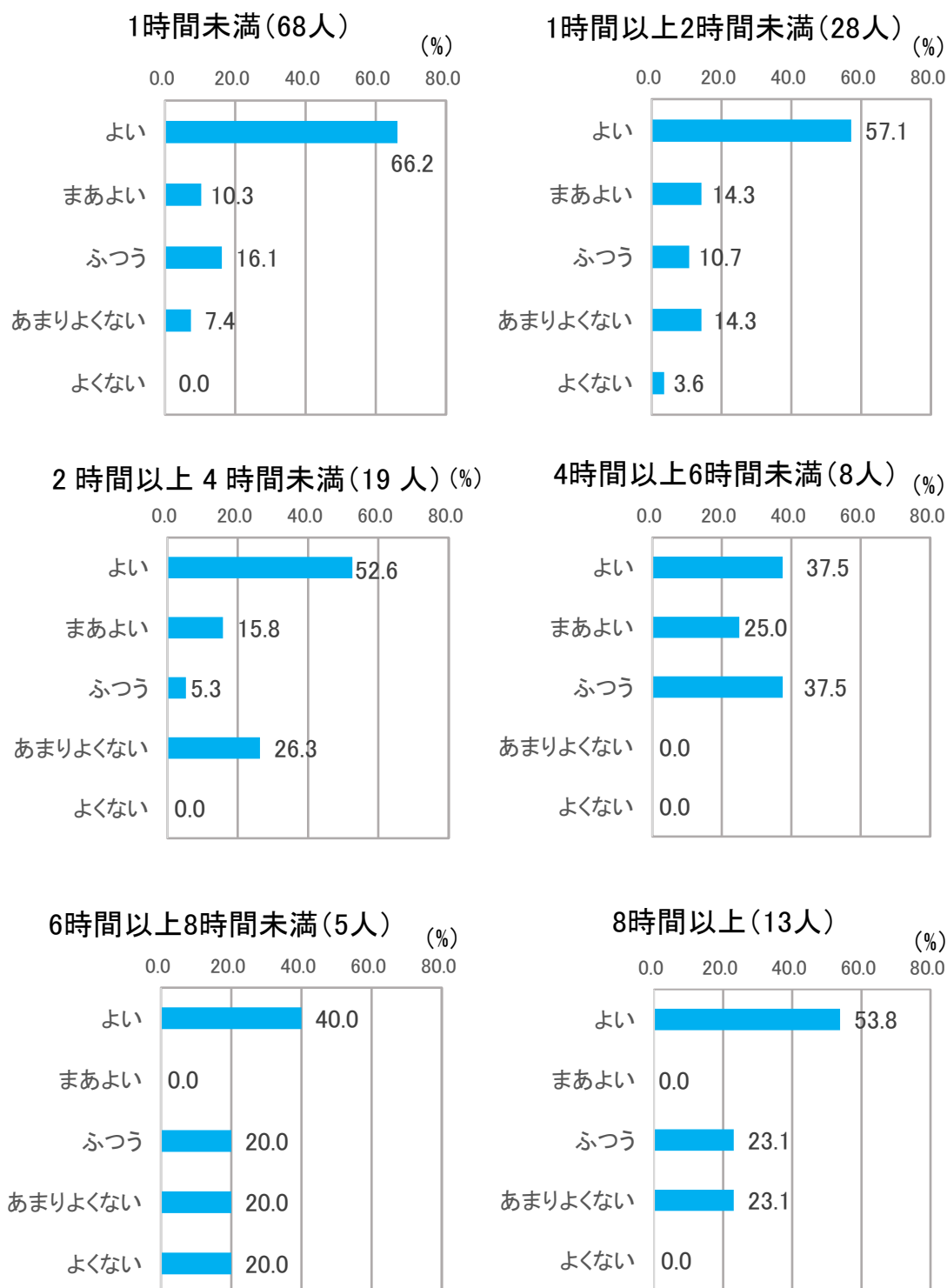
現在の健康状態は、「よい」が 58.9%と最も高く、次いで「ふつう」が 15.6%、「あまりよくない」12.8%、「まあよい」11.3%の順であった。



② 時間別にみた健康状態

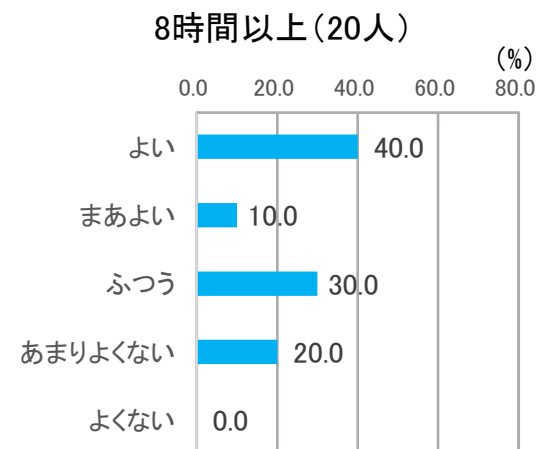
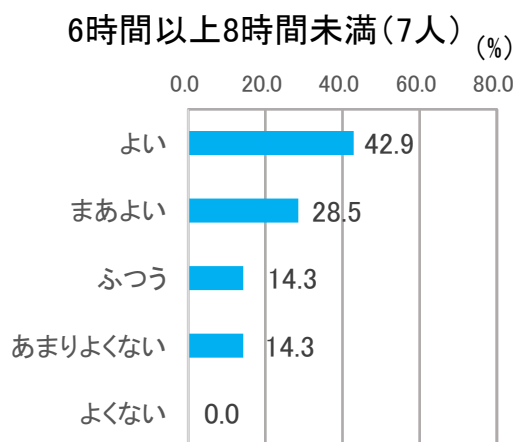
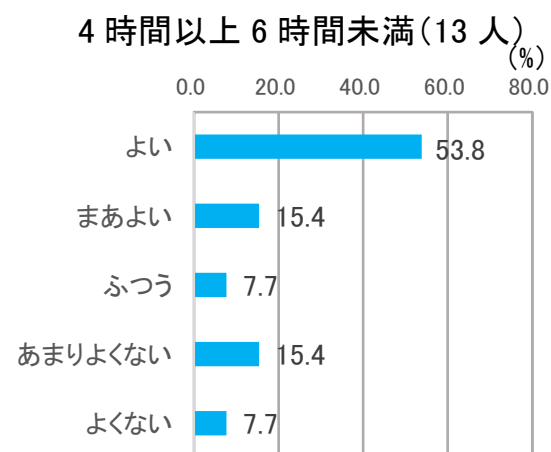
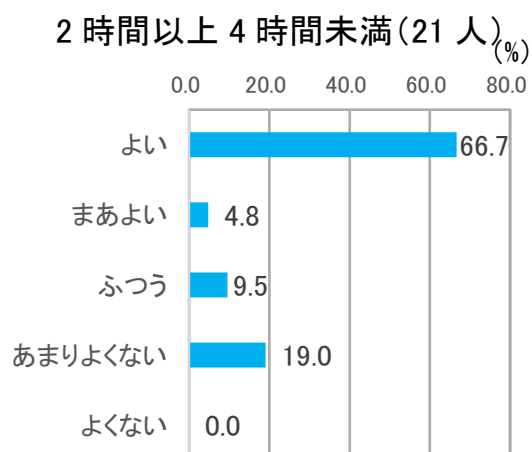
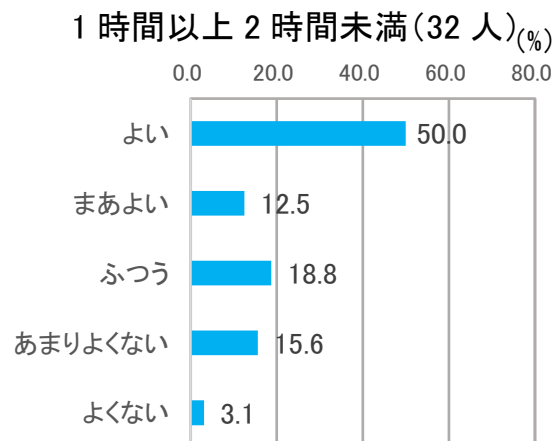
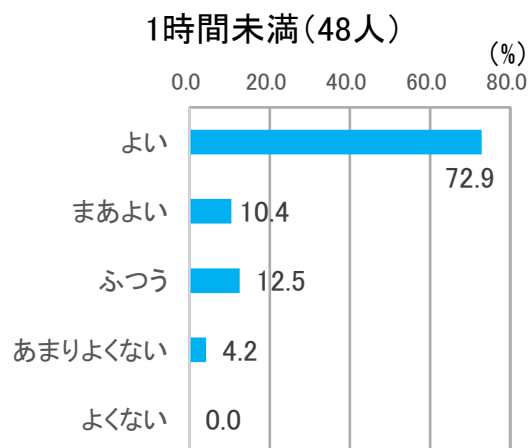
【平日】

健康状態が「よい」、「まあよい」を合わせると、「1時間未満」が76.5%と最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」71.4%、「2時間以上4時間未満」68.4%の順で割合が高くなっている。



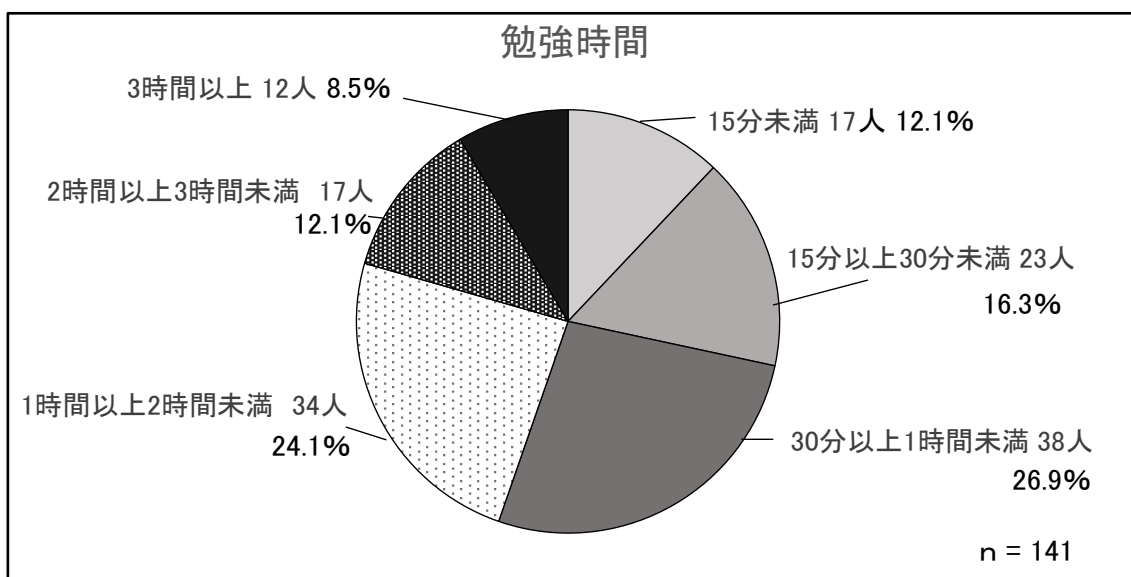
【休日】

健康状態が「よい」、「まあよい」を合わせると、「1時間未満」が83.3%と最も高く、次いで「2時間以上4時間未満」71.5%、「6時間以上8時間未満」が71.4%の順であった。



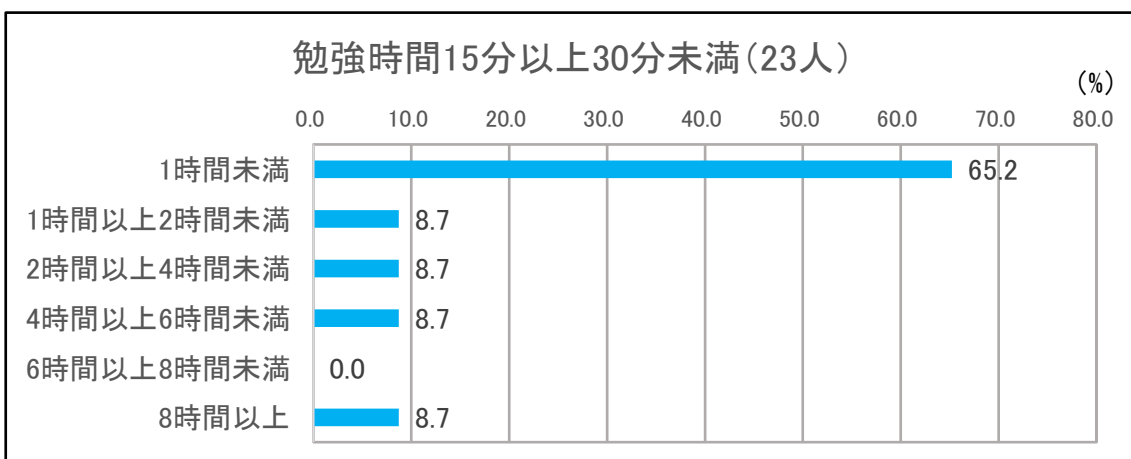
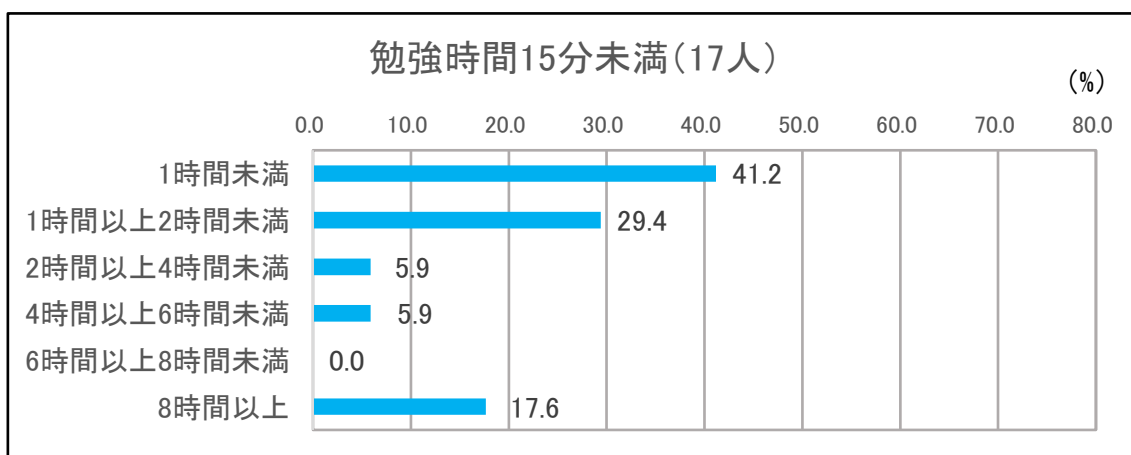
③ 平日の勉強時間

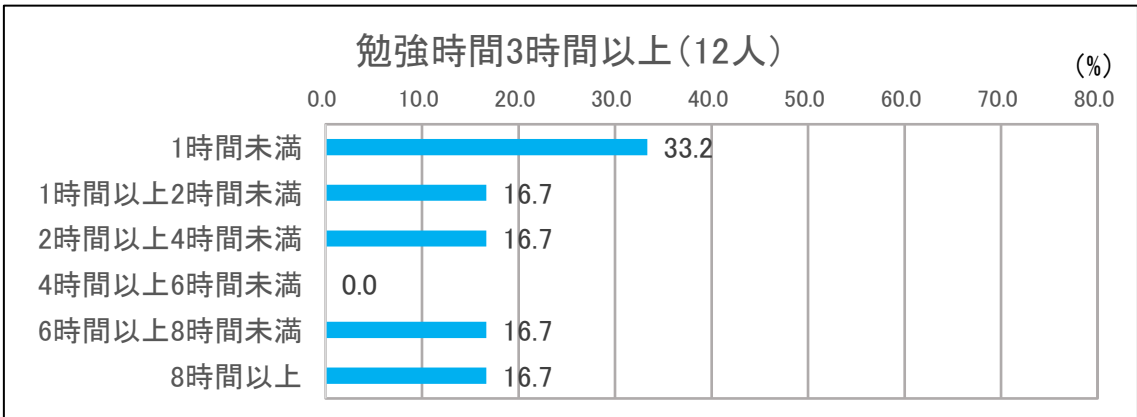
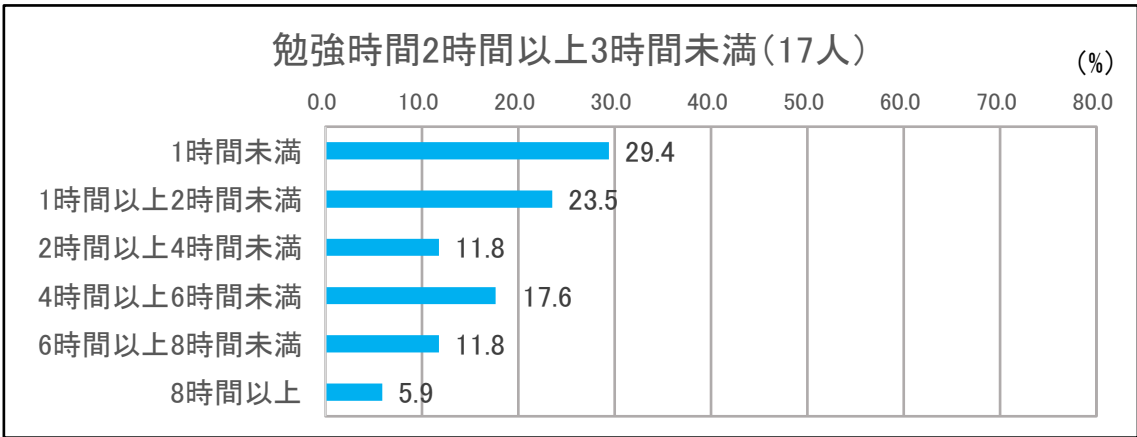
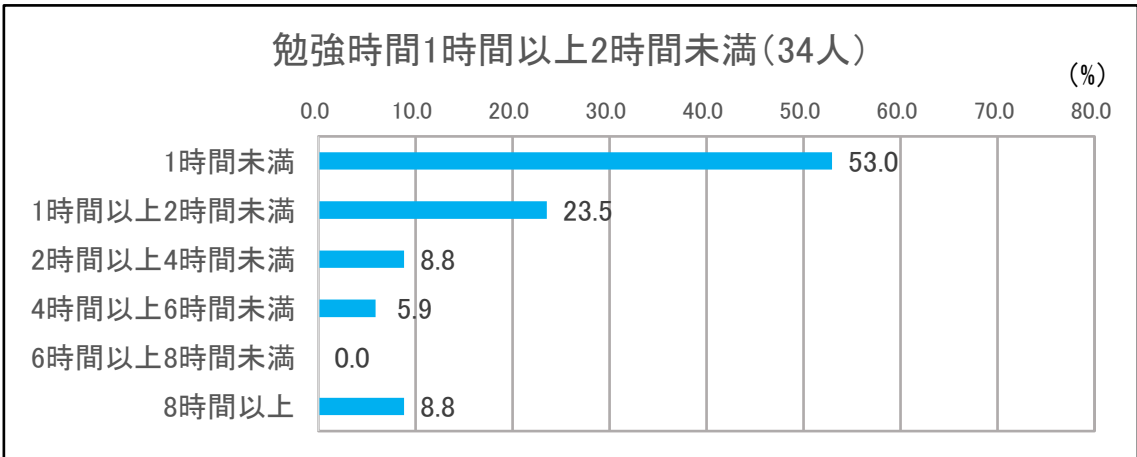
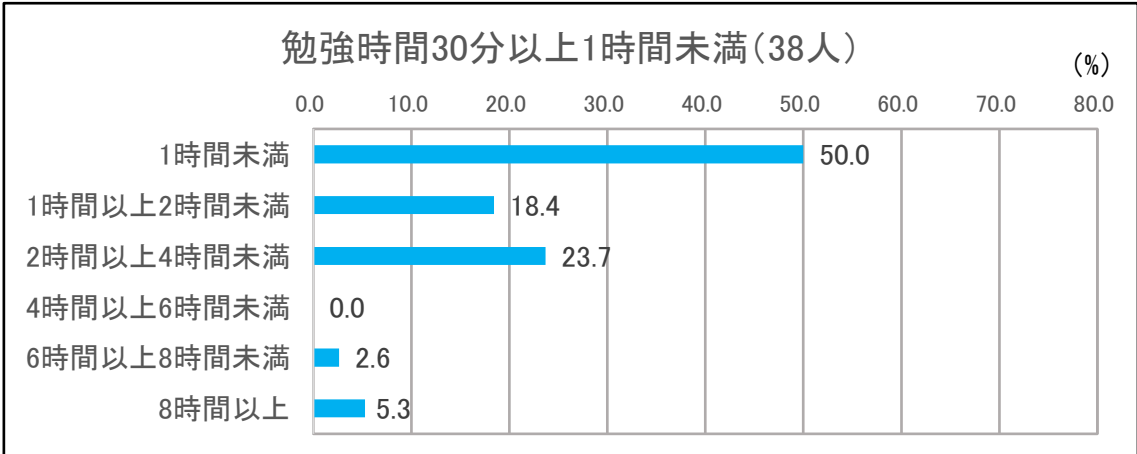
平日の勉強時間は、「30分以上1時間未満」が26.9%と最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」24.1%、「15分以上30分未満」16.3%の順であった。



④ ケア時間別にみた平日の勉強時間

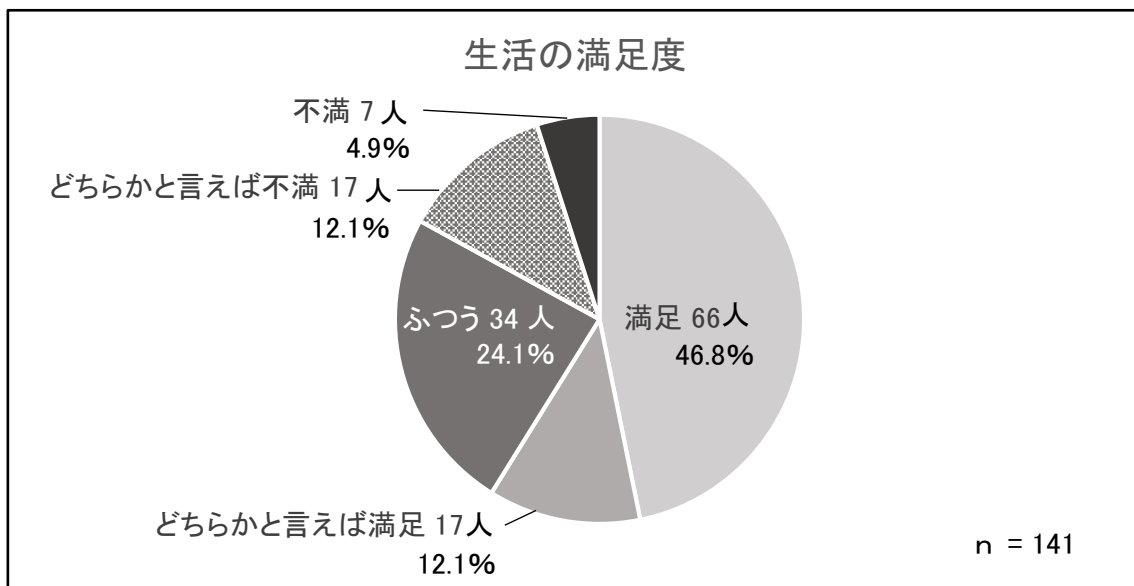
全ての勉強時間の区分において、ケア時間「1時間未満」が最も多かった。





⑤ 生活の満足度

今の生活の満足度は、「満足」が46.8%と最も高く、次いで「ふつう」24.1%、「どちらかと言えば満足」と「どちらかと言えば不満」12.1%の順であった。



(7)自由意見

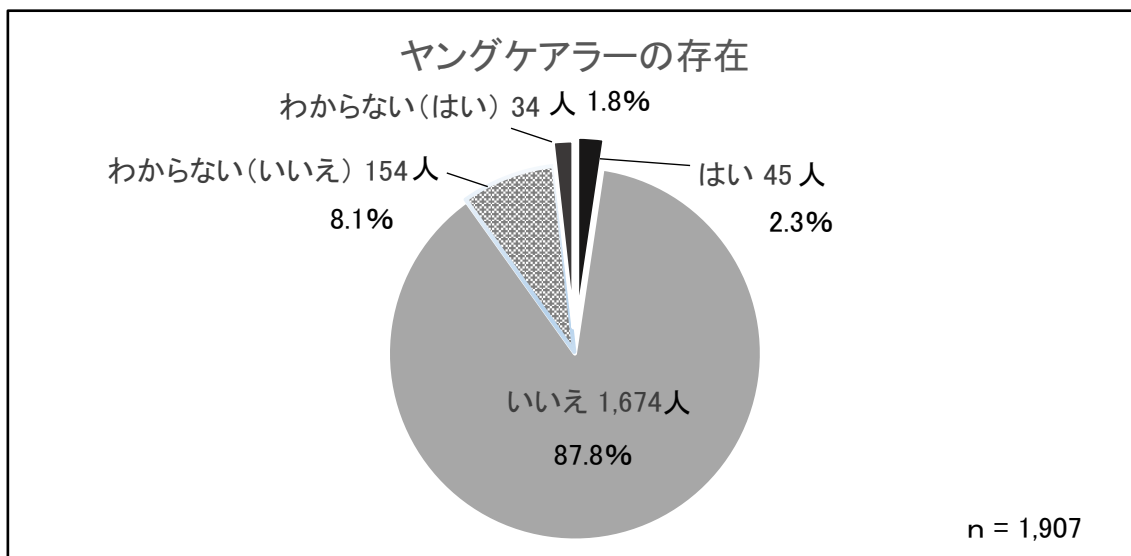
- ヤングケアラーという言葉を知ったので、ニュースを見てちゃんと勉強をしたいです。
- ヤングケアラーについてよく知れて良かったです。
- 自分が、ヤングケアラーだと確信できました。妹、弟をお世話しているため、あまり睡眠がとれていないけれど家族もいっしょにやってくれるので、大丈夫だと思います。
- 妹のお世話をしているのに、ママもパパもかまってくれないからストレスが溜まるし、悲しい。
- 私はヤングケアラーではないけれど、動画を見て、お手伝いとお世話には大きな違いがあることが分かりました。また、ヤングケアラーの方々はとても大変だと分かりました。
- 家政婦さんのようにヤングケアラーの代わりにしてくれる「お世話係」のような人がいてくれるとヤングケアラーは学校に行けてとても助かると思います。
- ケアによって、「勉強ができない」や「学校に行けない」ということについて、そのような人に対する支援が大切だと思いました。
- ケアしていることについて、あまり話さないことだから、スッキリしました。
- もしクラスにヤングケアラーがいたらその子の悩みなどを聞いて力になりたいです。
- 私はヤングケアラーではないし、身近な友達にヤングケアラーは多分いないので、意識したことはありませんでした。私なら1日で根をあげてしまうと思います。

3 中学生の調査結果

(1) ヤングケアラーの存在について

自分が「ヤングケアラー」だと思うかの問いに対し、回答者 1,907 人の内「はい」と回答したのは 45 人(2.3%)、「いいえ」1,674 人(87.8%)であった。

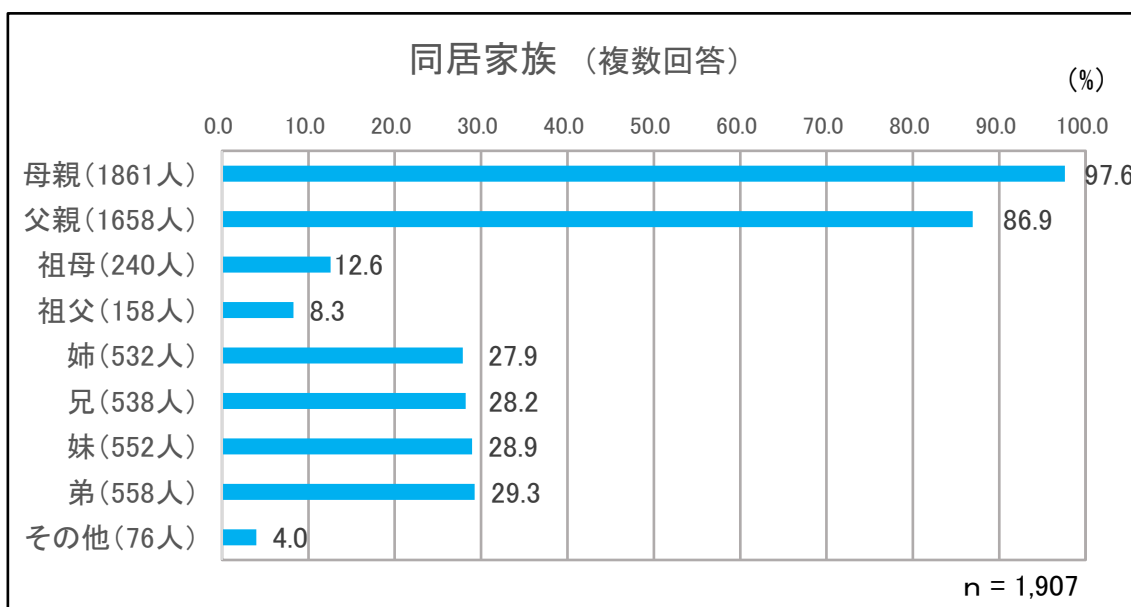
ヤングケアラーか「わからない」と回答したが、ケアの状況から「ヤングケアラーである」と判断した回答者を含めると、中学生におけるヤングケアラーの割合は 79 人(4.1%)であった。



(2) 家族の状況について

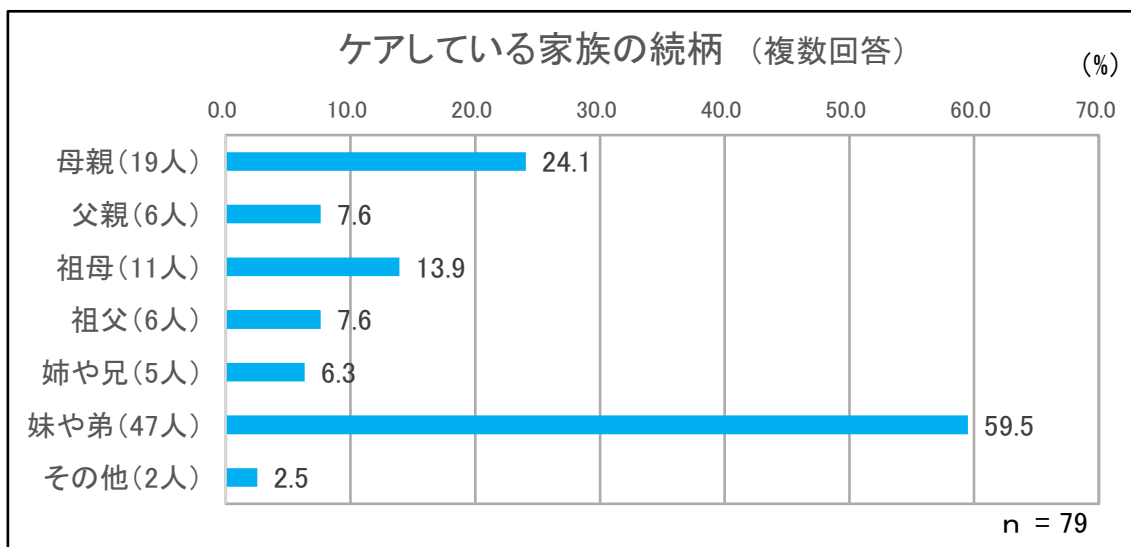
① 同居家族

同居の家族は、「母親」が 97.6%と最も高く、次いで「父親」86.9%、「弟」29.3%の順であった。



② ケアしている家族

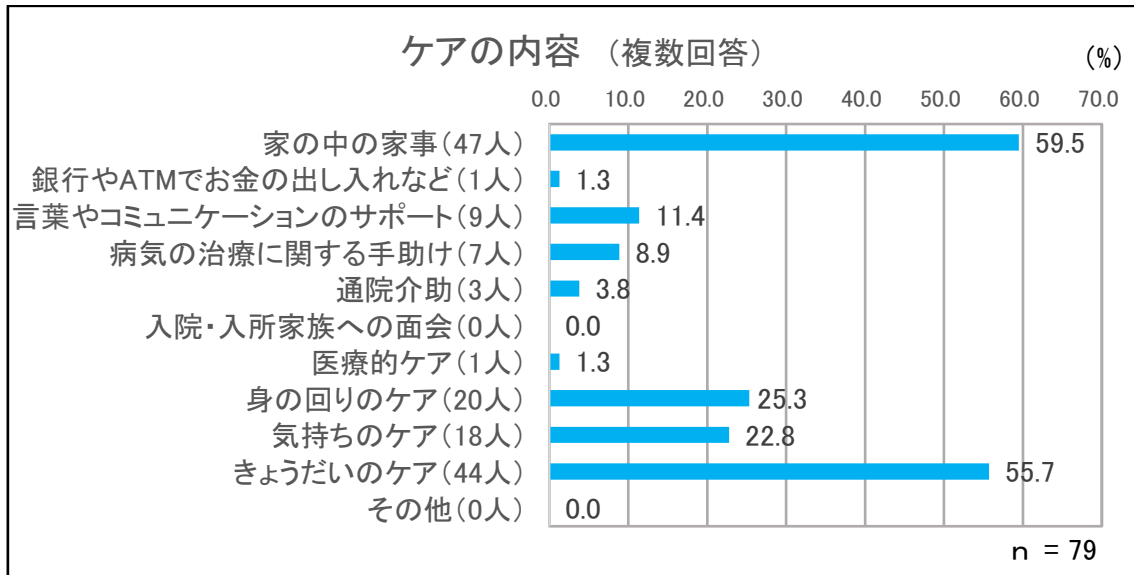
ケアしている家族は、「妹や弟」が 59.5%と最も高く、次いで「母親」24.1%、「祖母」13.9%の順であった。



(3) ケアの状況について

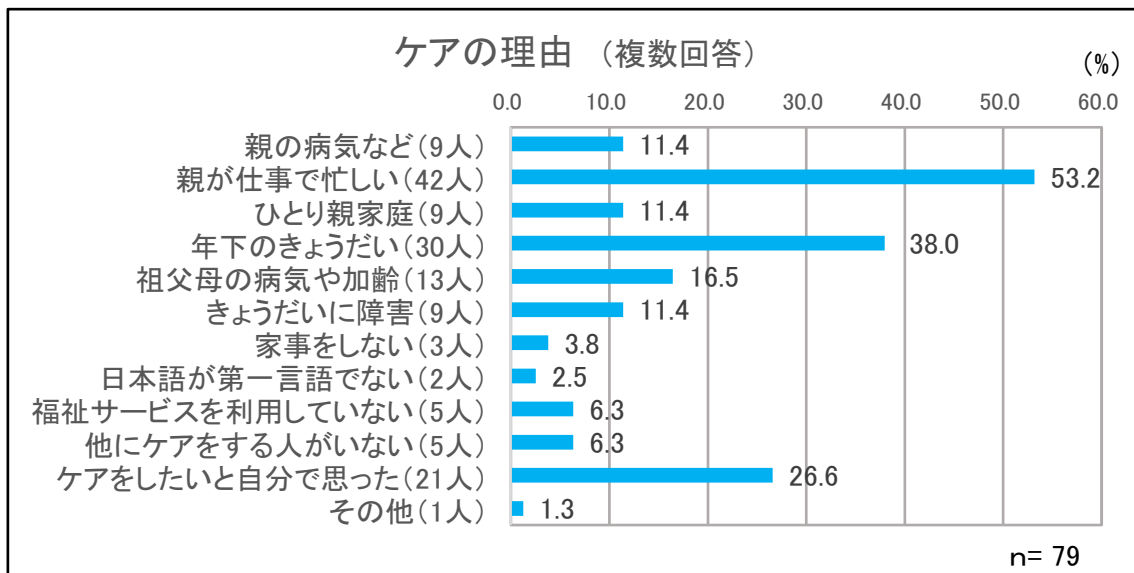
① ケアの内容

ケアの内容は、「家の中の家事」が 59.5%と最も高く、次いで「きょうだいのケア」55.7%、「身の回りのケア」25.3%の順であった。



② ケアの理由

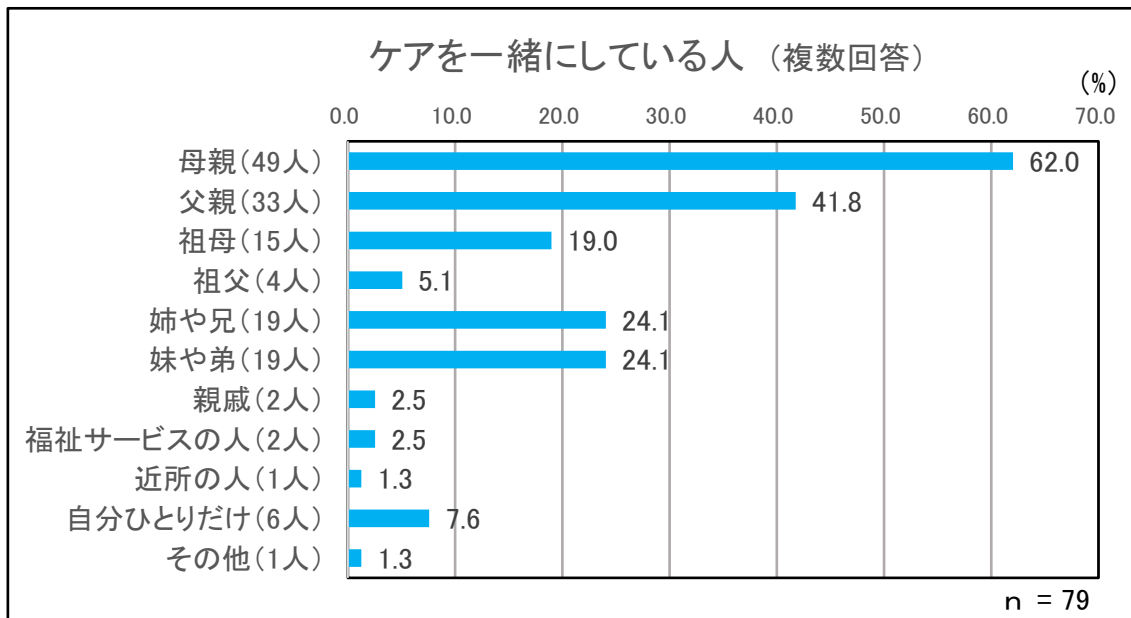
ケアの理由については、「親が仕事で忙しい」が 53.2%と最も高く、次いで「年下のきょうだい」38.0%、「ケアをしたいと自分で思った」26.6%の順であった。



③ ケアを一緒にしている人

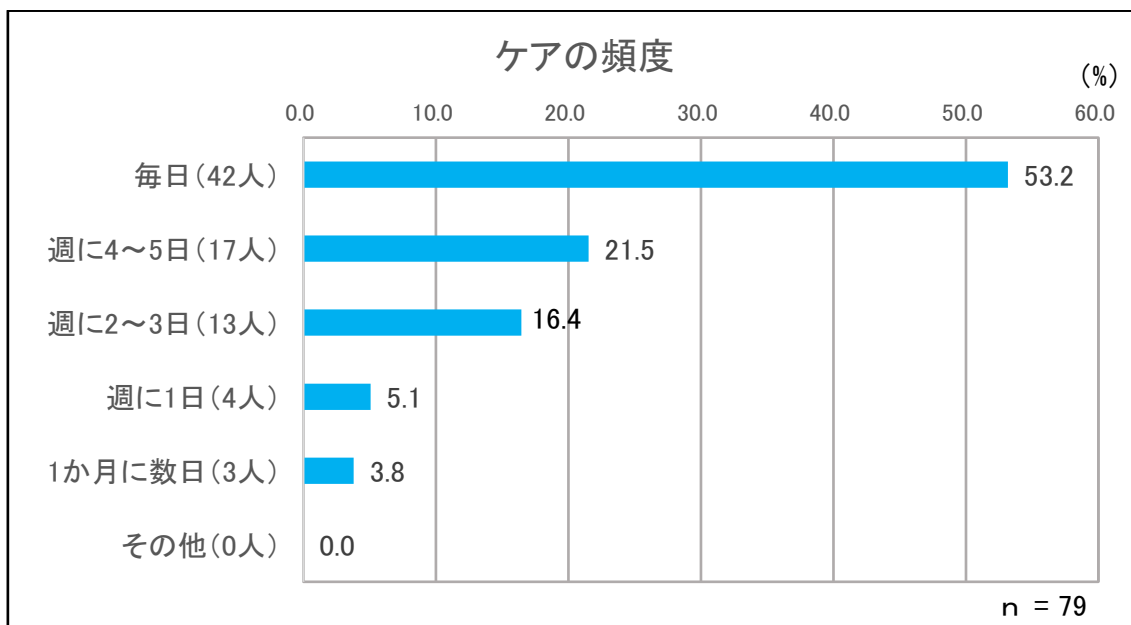
ケアを一緒にしている人は、「母親」が 62.0%と最も高く、次いで「父親」41.8%、「姉や兄」と「妹や弟」24.1%の順であった。

「妹や弟」と一緒にケアしているのは 24.1%、「自分ひとりだけ」は 7.6%であった。



④ ケアの頻度

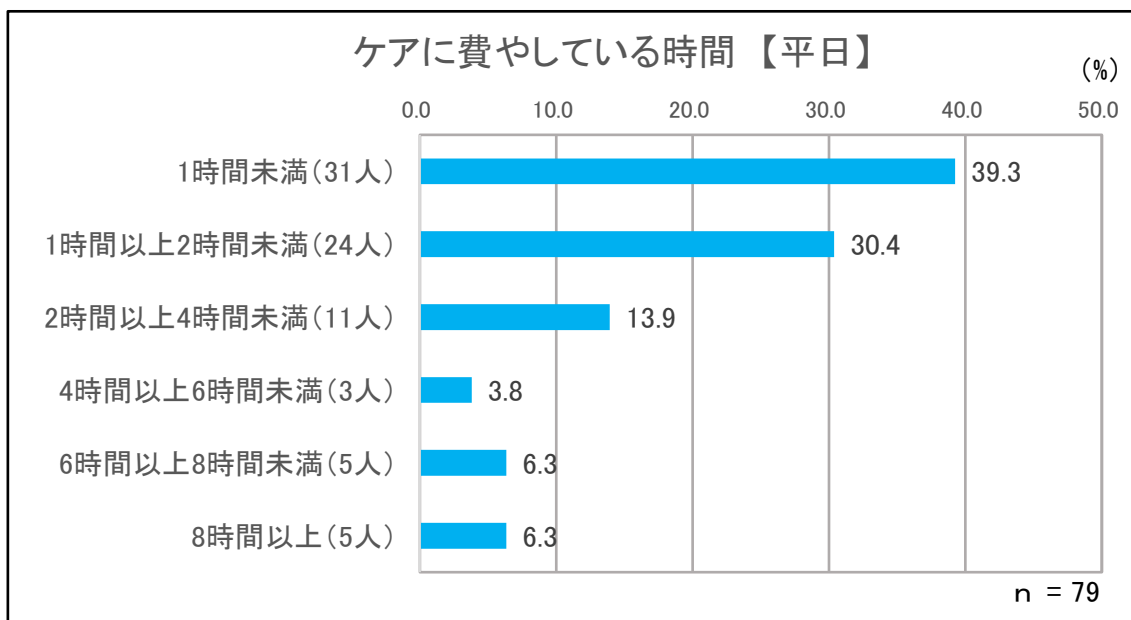
ケアの頻度は、「毎日」が 53.2%と最も高く、次いで「週に 4~5 日」21.5%、「週に 2~3 日」16.4%の順であった。



⑤ ケアに費やしている時間

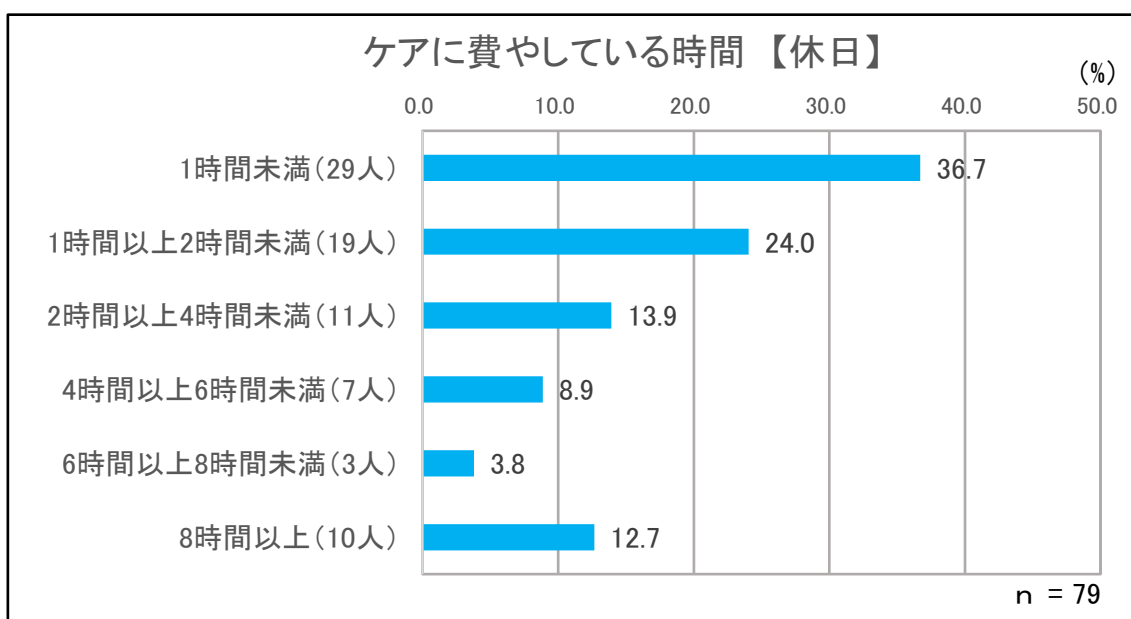
【平日】

学校のある平日にケアに費やしている時間は、「1 時間未満」が 39.3%と最も高く、次いで「1 時間以上 2 時間未満」30.4%、「2 時間以上 4 時間未満」13.9%の順であった。「8 時間以上」ケアを行っていると回答した児童は 6.3%であった。



【休日】

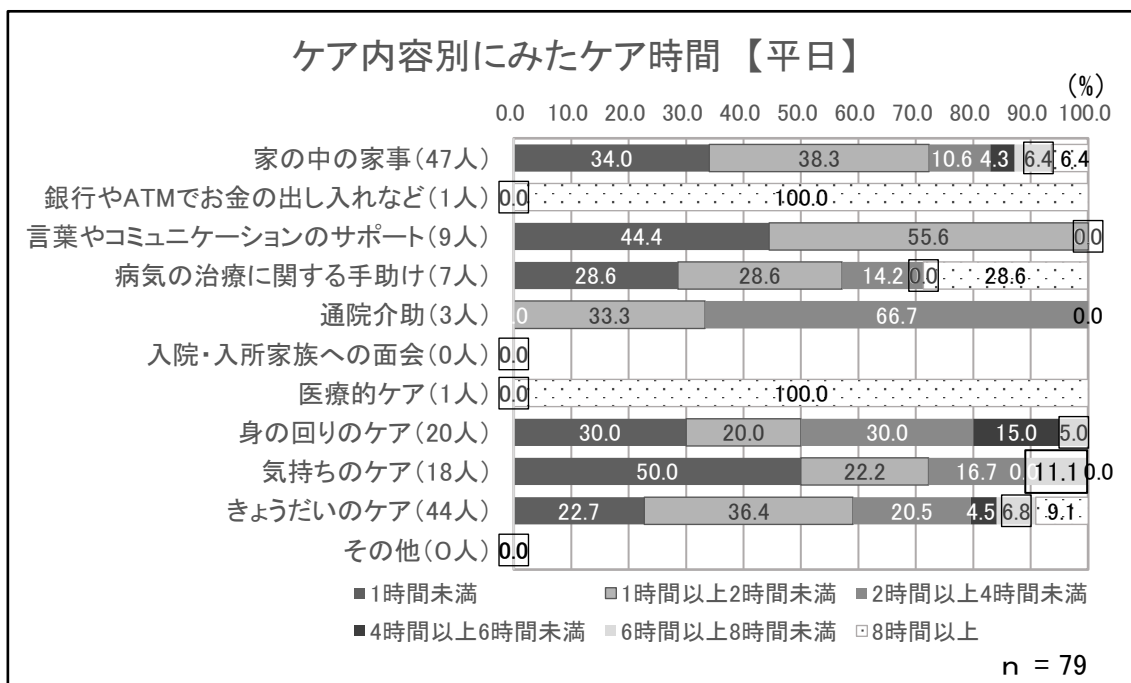
休日にケアに費やしている時間は、「1 時間未満」が 36.7%と最も高く、次いで「1 時間以上 2 時間未満」24.0%、「2 時間以上 4 時間未満」13.9%の順であった。「8 時間以上」ケアを行っていると回答した児童は 12.7%であった。



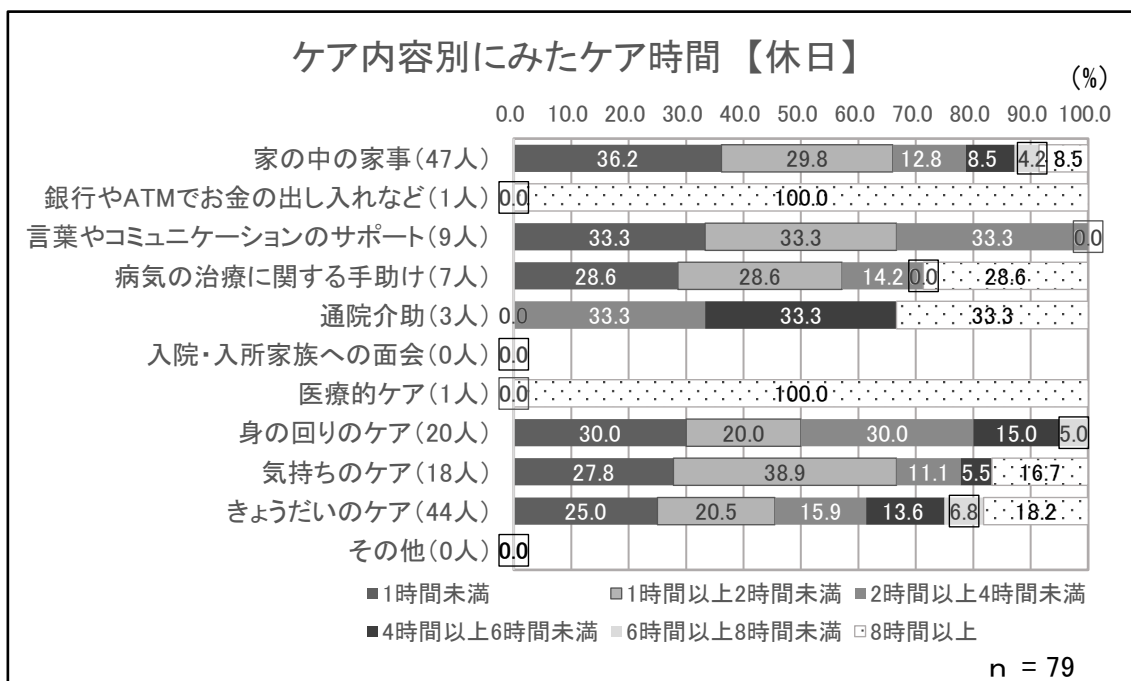
⑥ ケア内容別にみたケア時間

多くのケアにおいて、平日よりも休日のほうが長時間ケアを行っている。特に「きょうだいのケア」は、平日に2時間以上費やしている割合が40.9%であるのに対し、休日は、54.5%であった。

【平日】



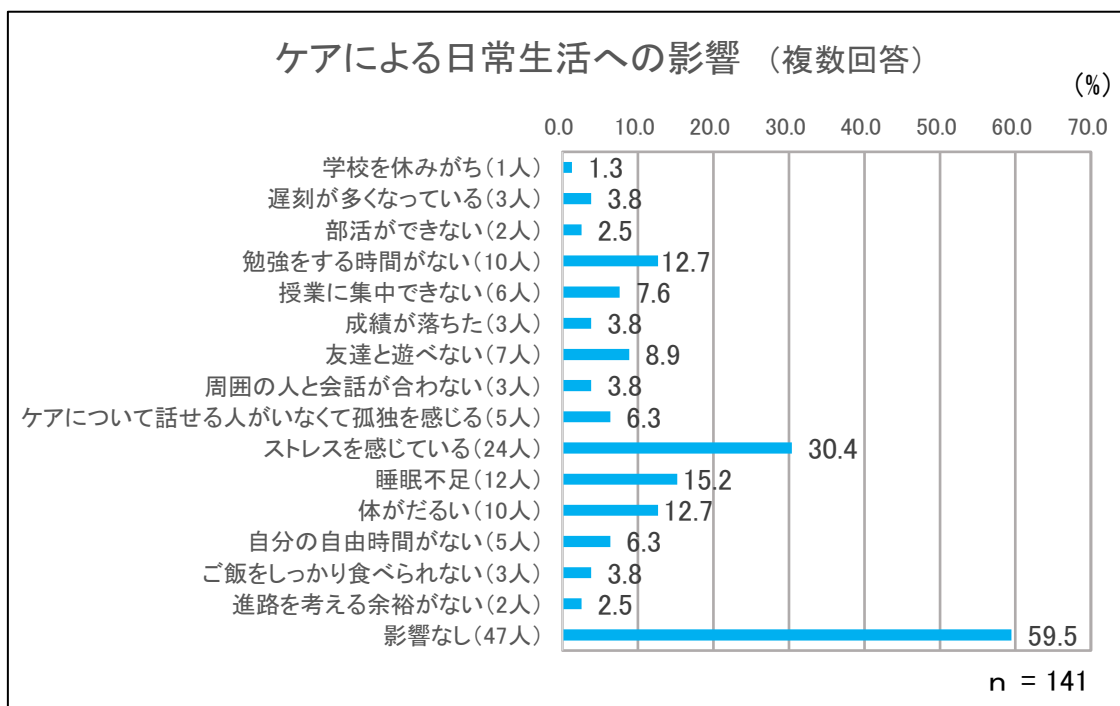
【休日】



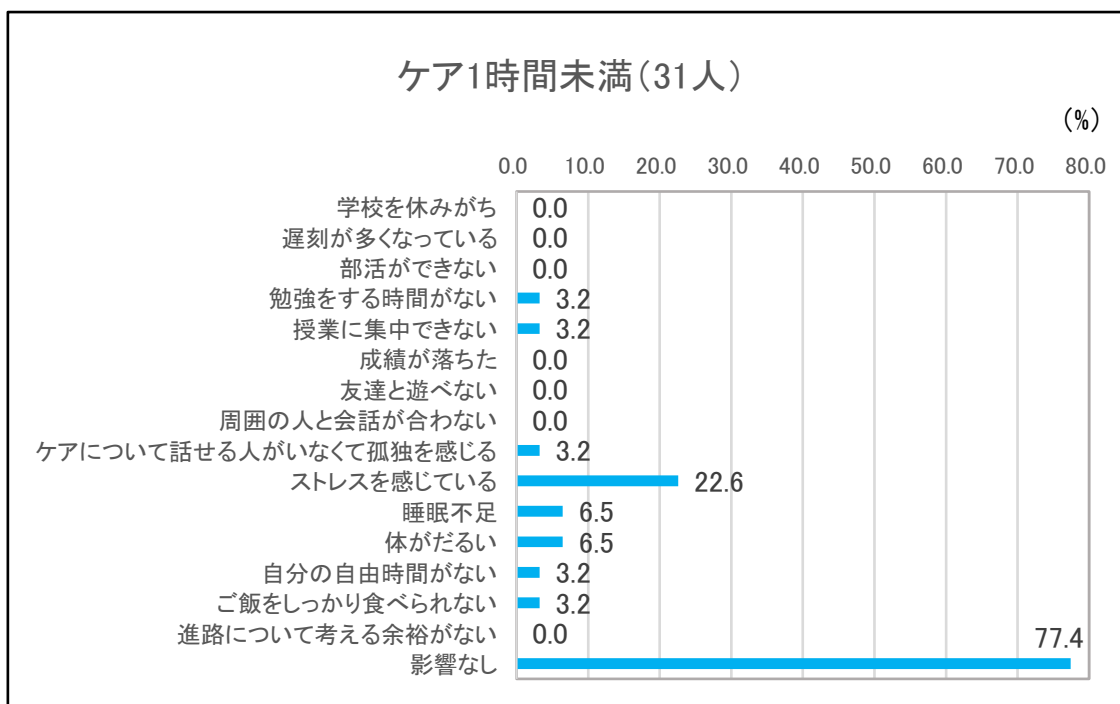
(4) ケアの影響

① ケアによる日常生活への影響

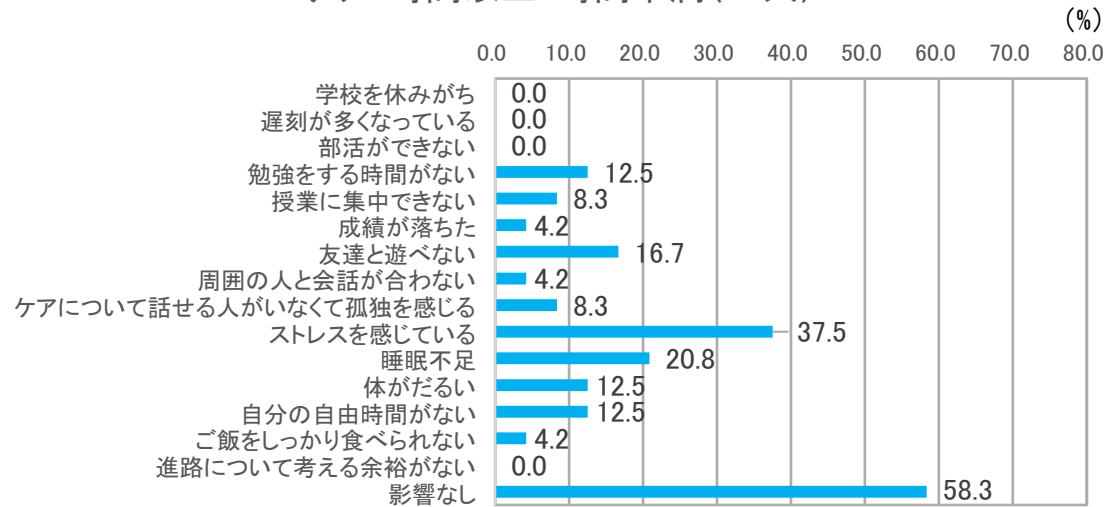
ケアによる日常生活への影響については、「影響なし」が 59.5%と最も高く、次いで「ストレスを感じている」30.4%、「睡眠不足」15.2%、「勉強をする時間がない」と「体がだるい」12.7%の順であった。



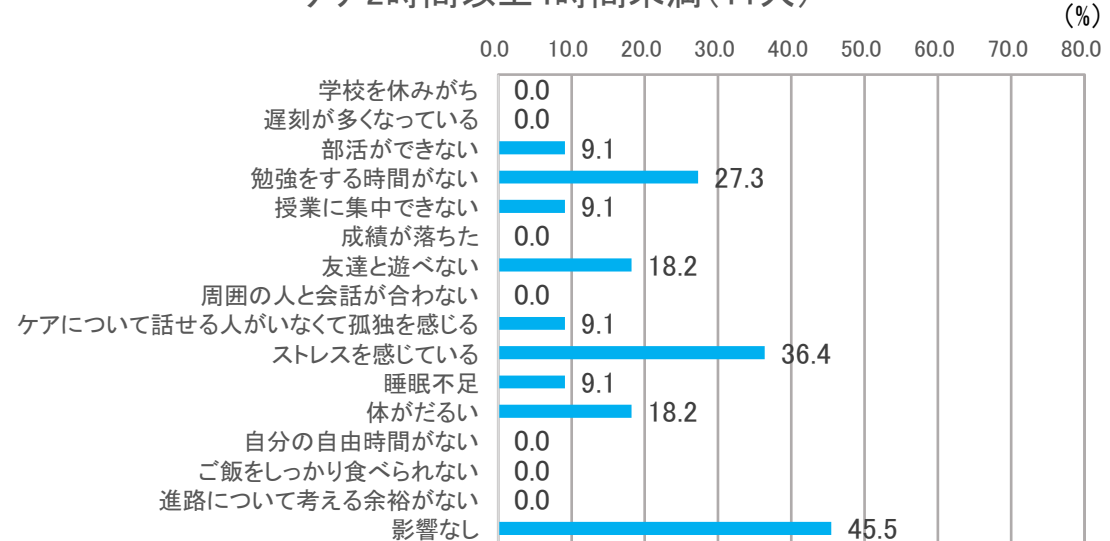
② 1日あたりのケア時間と生活への影響【平日】(複数回答)



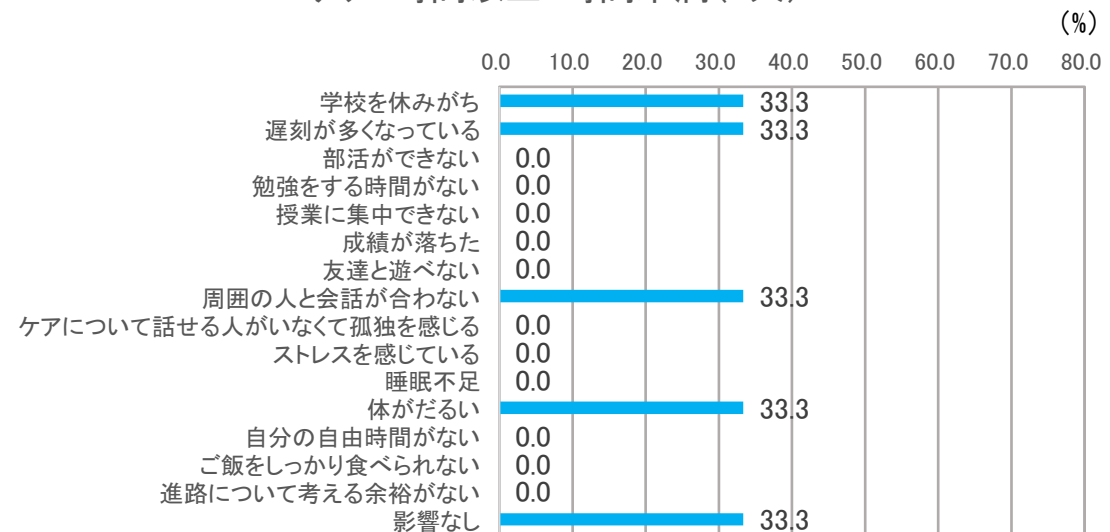
ケア1時間以上2時間未満(24人)



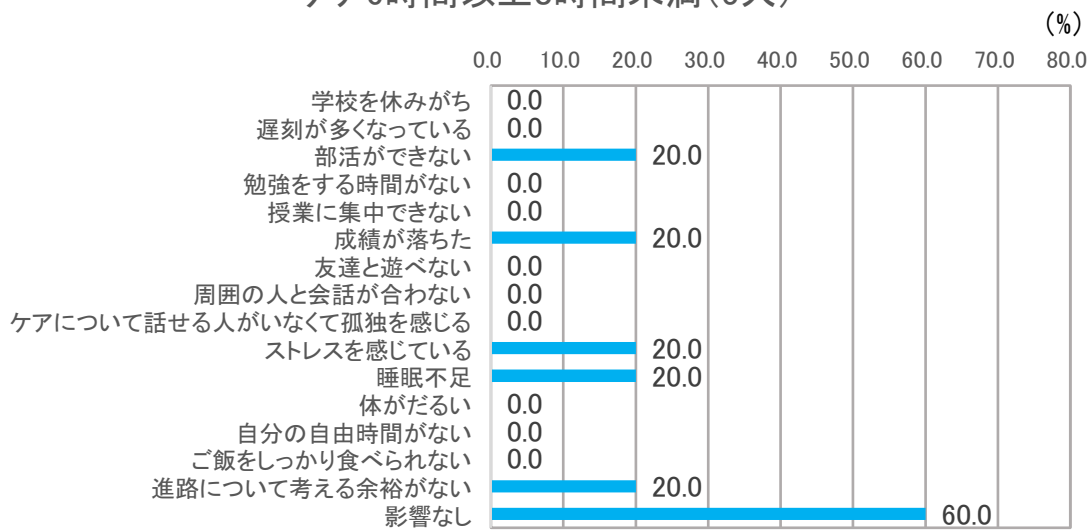
ケア2時間以上4時間未満(11人)



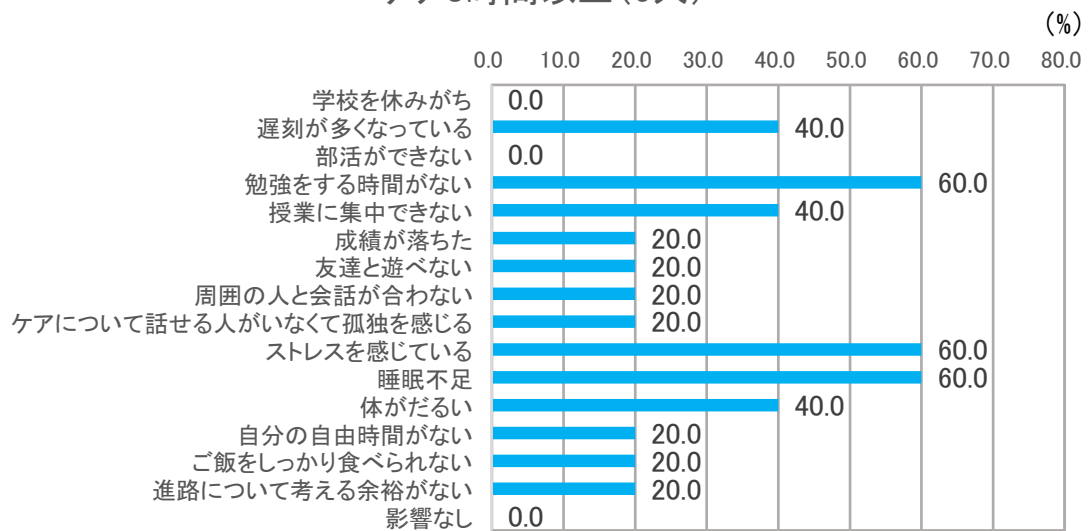
ケア4時間以上6時間未満(3人)



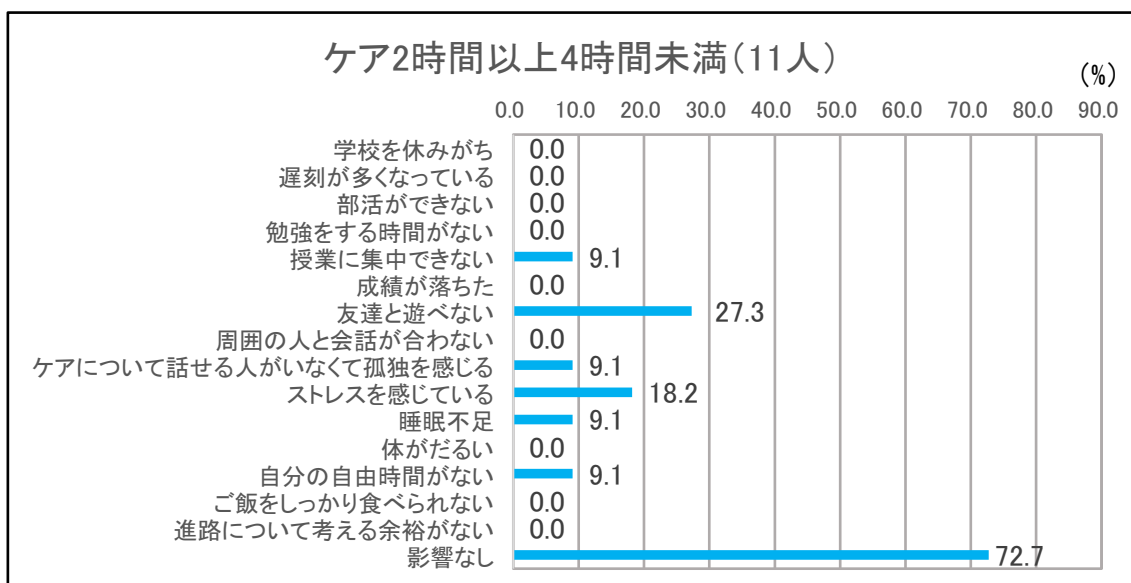
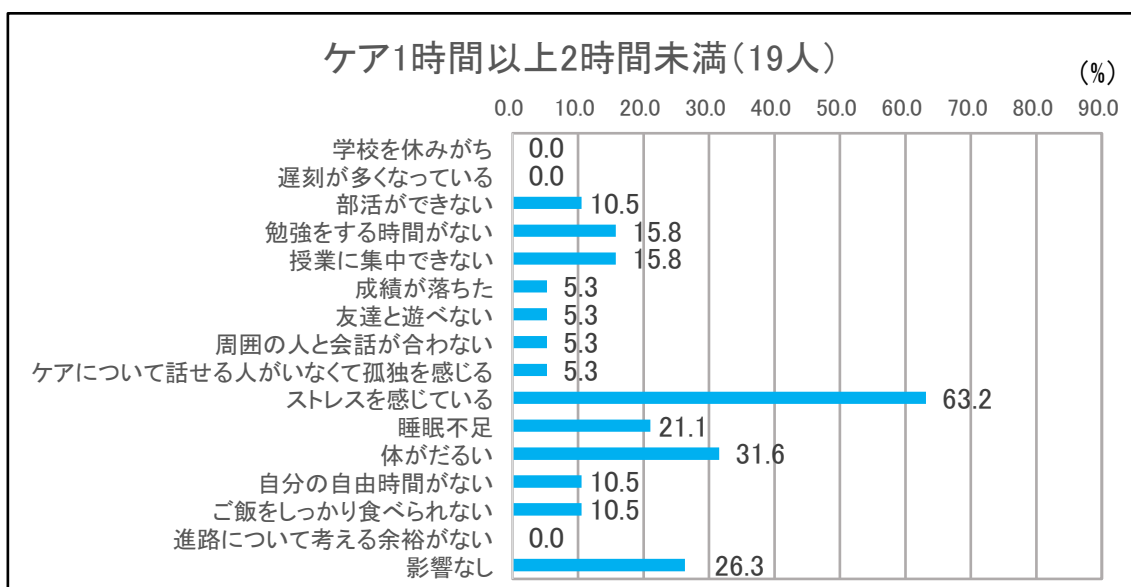
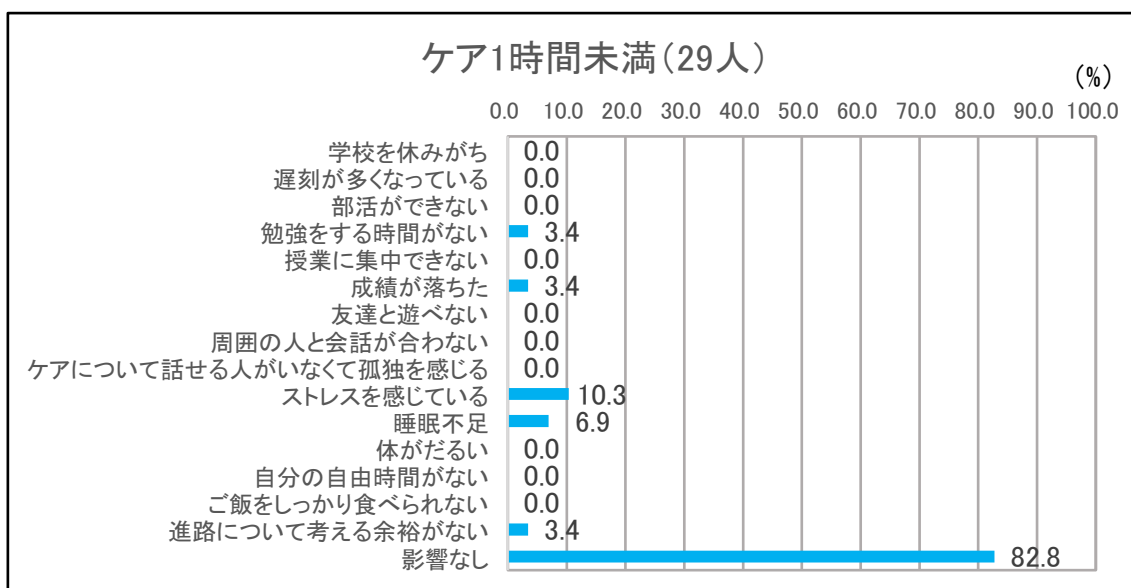
ケア6時間以上8時間未満(5人)



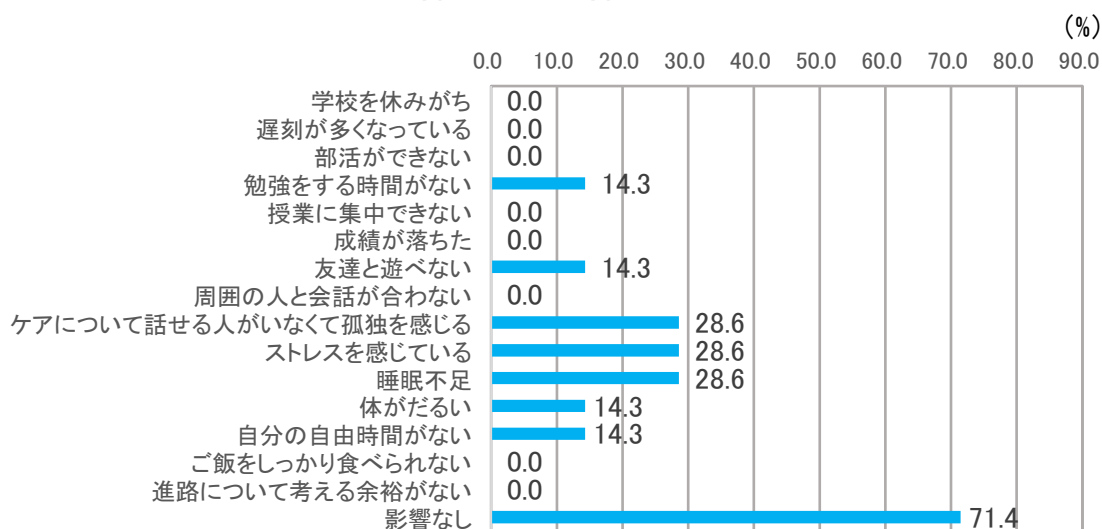
ケア8時間以上(5人)



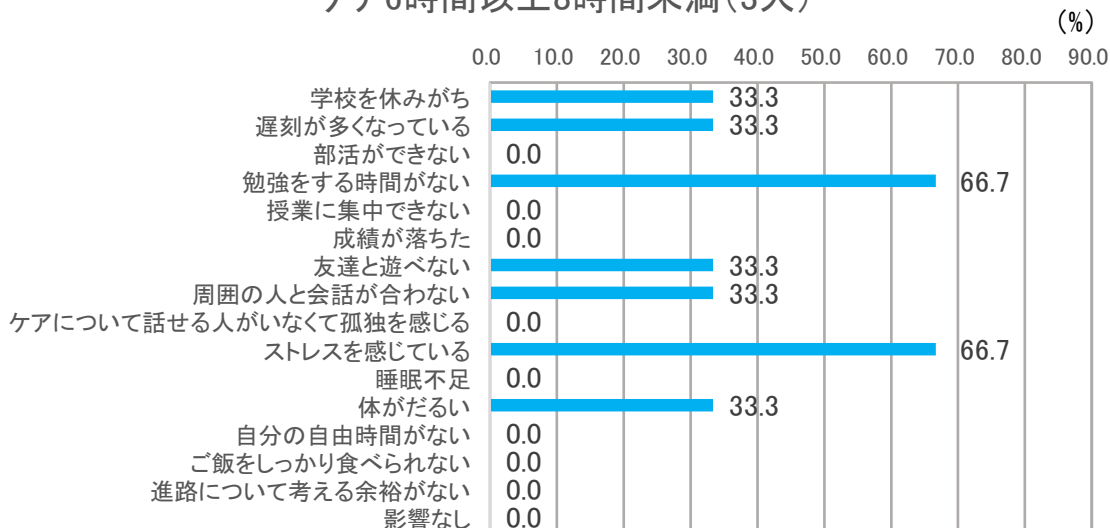
③ 1日あたりのケア時間と生活への影響【休日】(複数回答)



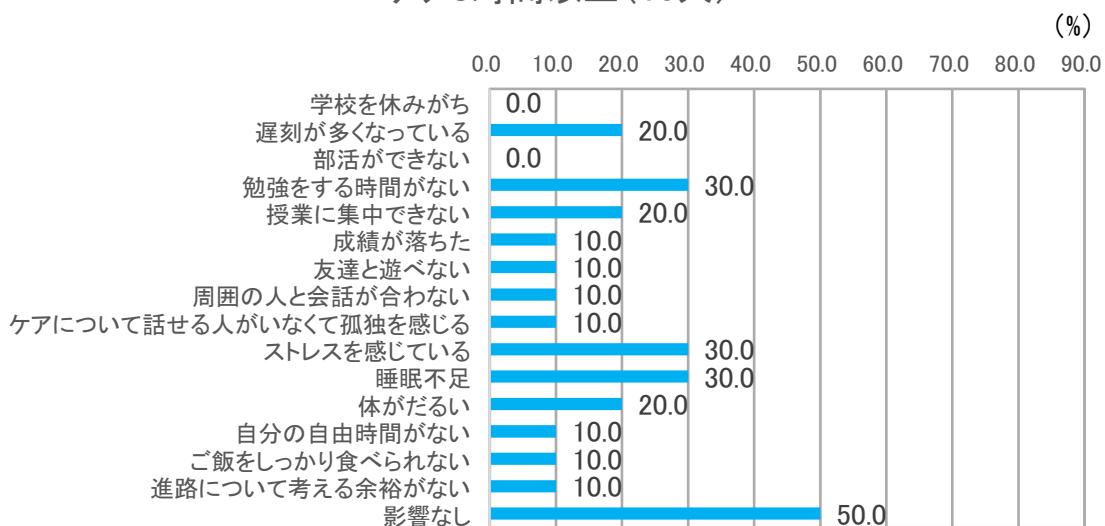
ケア4時間以上6時間未満(7人)



ケア6時間以上8時間未満(3人)



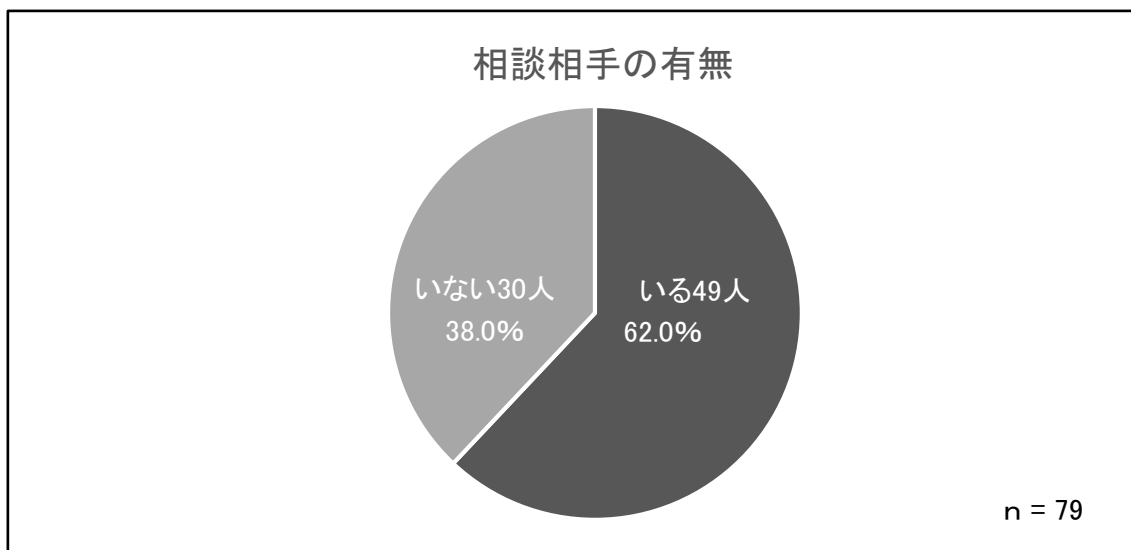
ケア8時間以上(10人)



(5) 相談の状況・必要なサポート

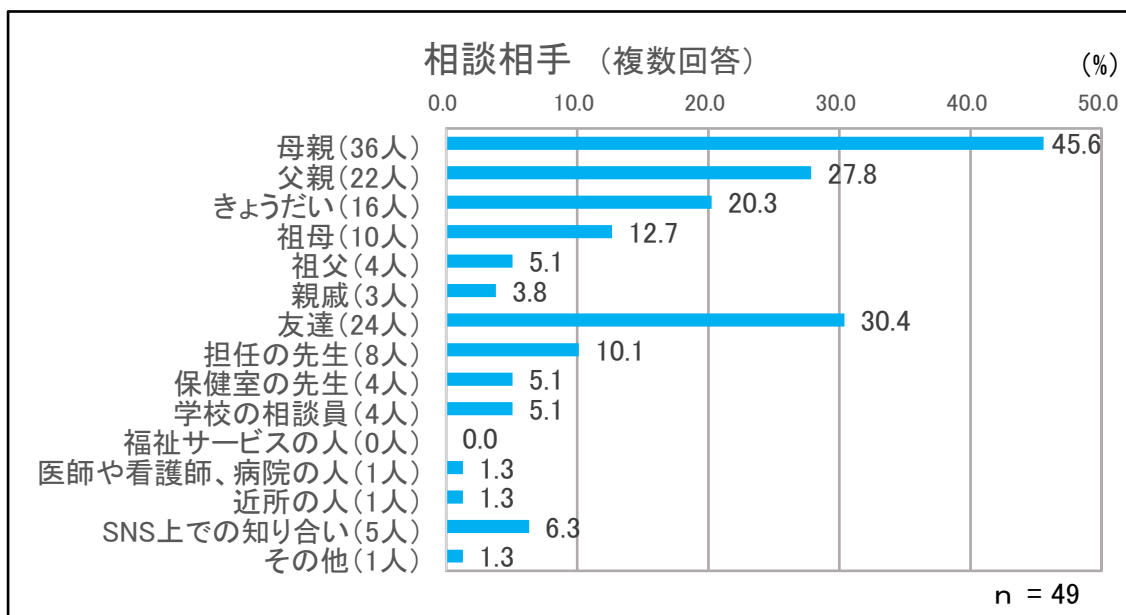
① 相談相手の有無

ケアについての悩みや不満を話せる人の有無については、「いる」が62.0%、「いない」が38.0%であった。



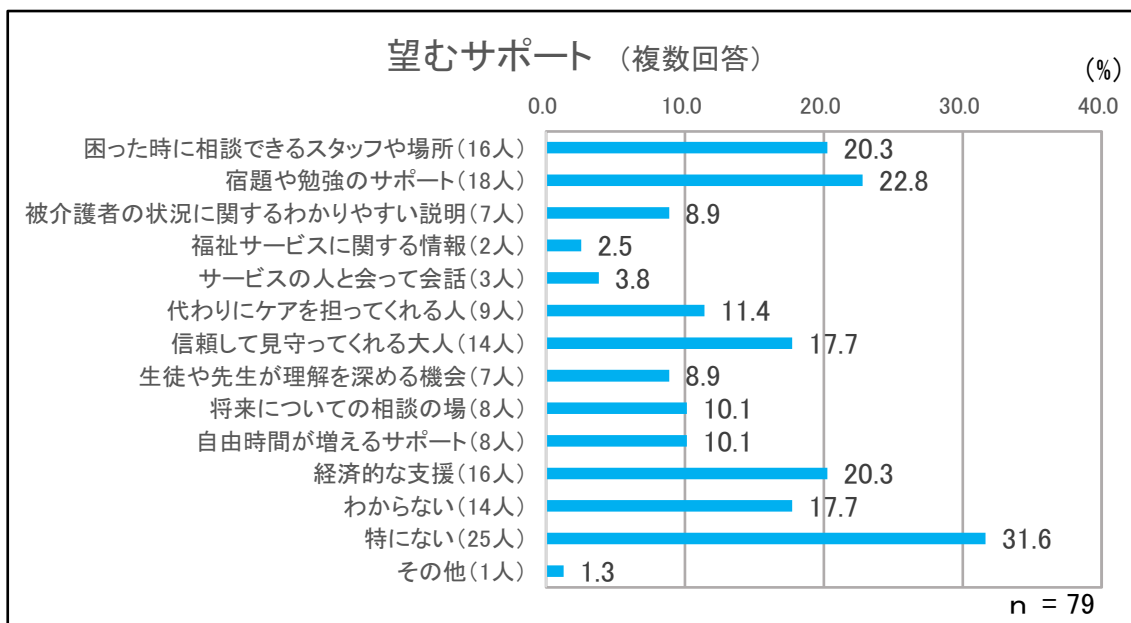
② 相談相手

相談相手は「母親」が45.6%と最も高く、次いで「友達」30.4%、「父親」27.8%の順であった。



③ 望むサポート

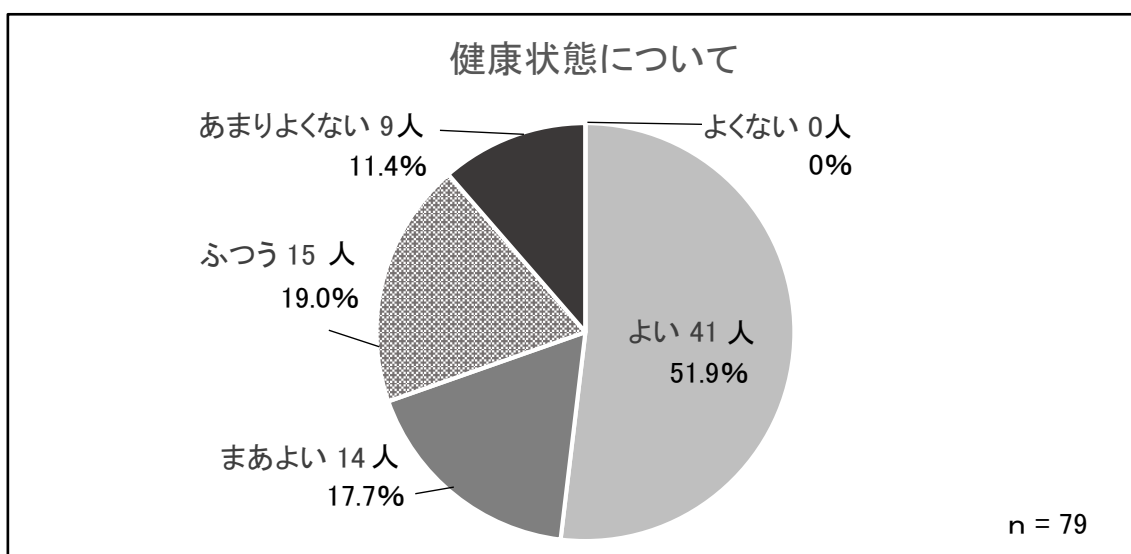
ケアに関してあったらいいと思うサポートは、「特にない」が31.6%と最も高く、次いで「宿題や勉強のサポート」22.8%、「困った時に相談できるスタッフや場所」と「経済的な支援」20.3%の順であった。



(6) ヤングケアラー本人の状況

① 健康状態について

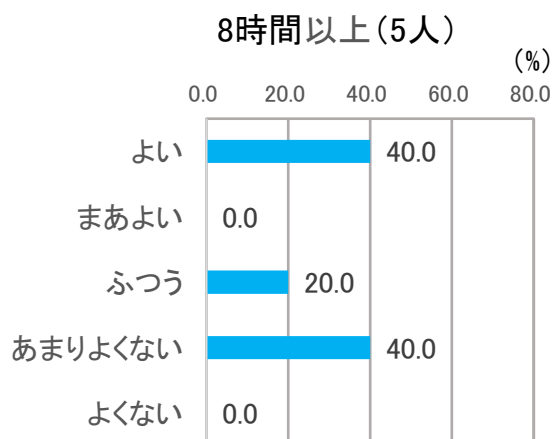
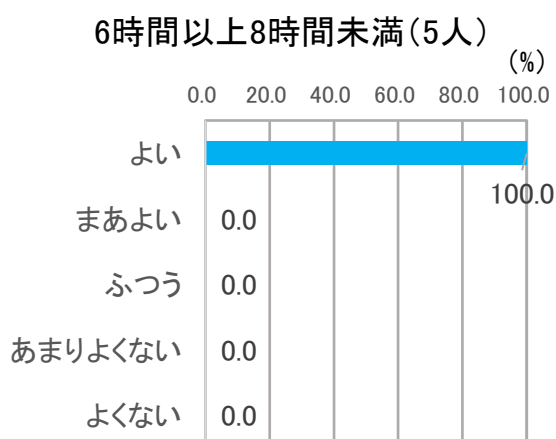
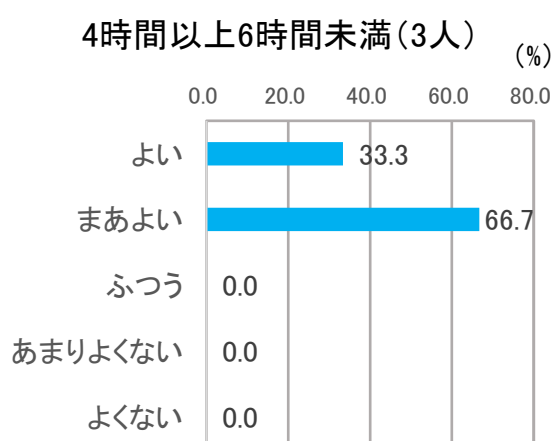
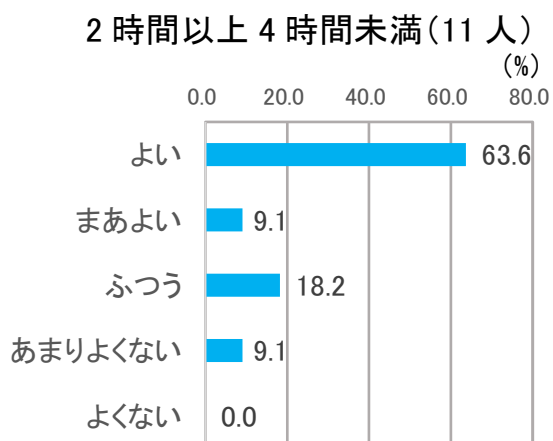
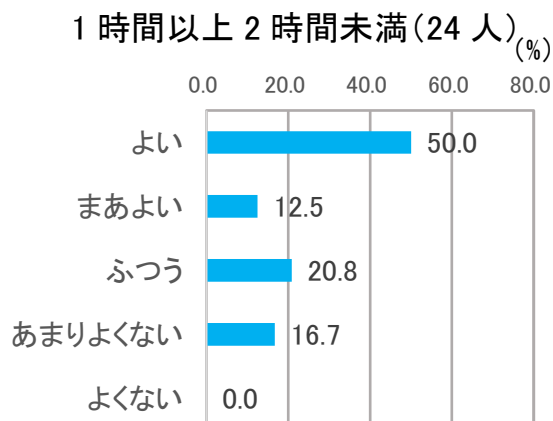
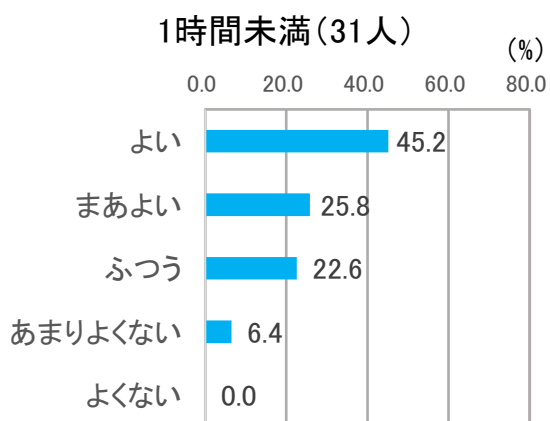
現在の健康状態は、「よい」が51.9%と最も高く、次いで「ふつう」19.0%、「まあよい」17.7%、「あまりよくない」11.4%の順であった。



② ケアにかけた時間別にみた健康状態

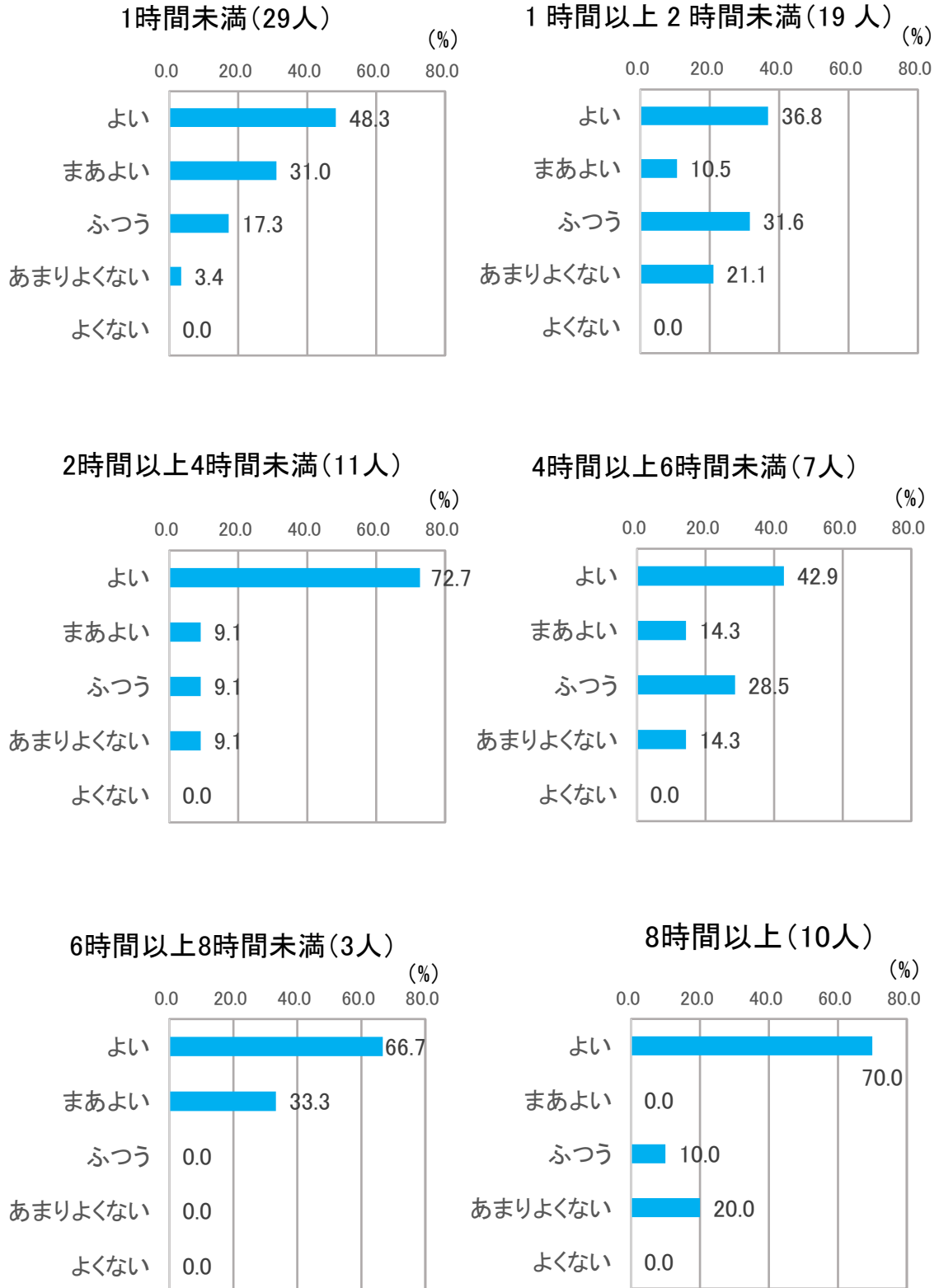
【平日】

健康状態が「よい」、「まあよい」と「ふつう」を合わせると、全てのケア時間において健康状態は概ね良好であった。



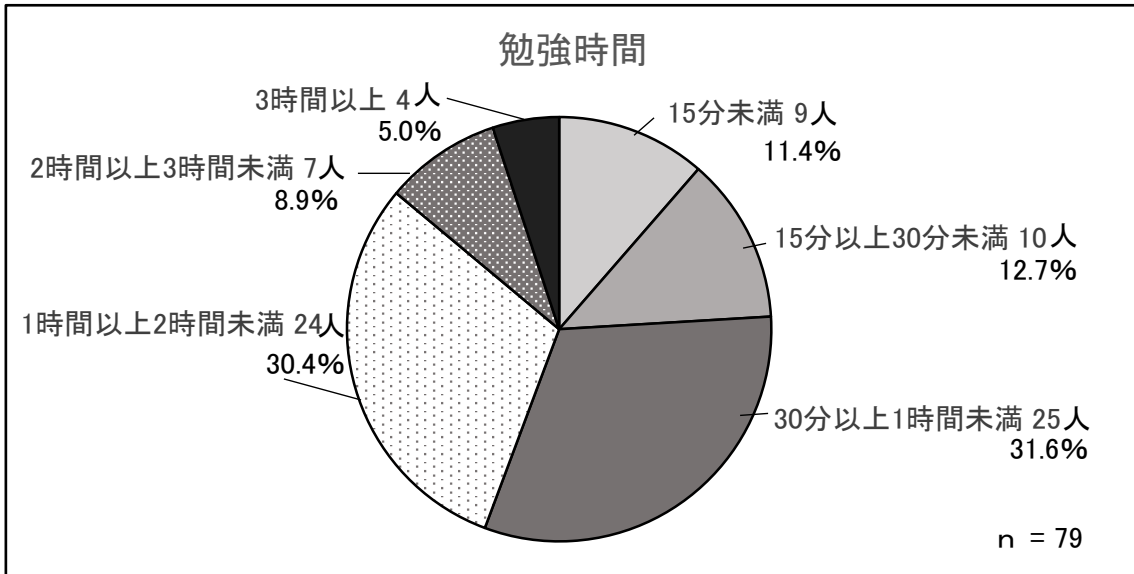
【休日】

健康状態が「よい」、「まあよい」と「ふつう」を合わせると、全てのケア時間において健康状態は概ね良好であった。



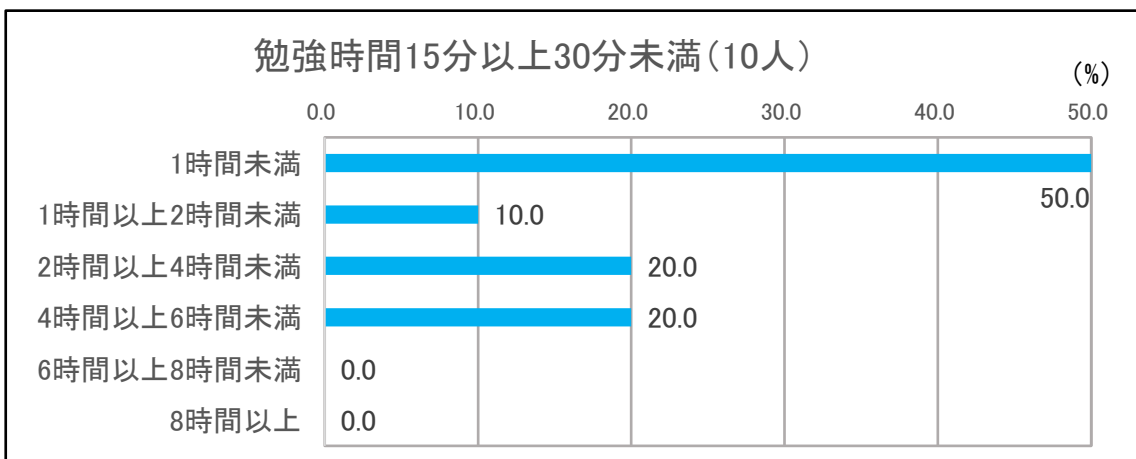
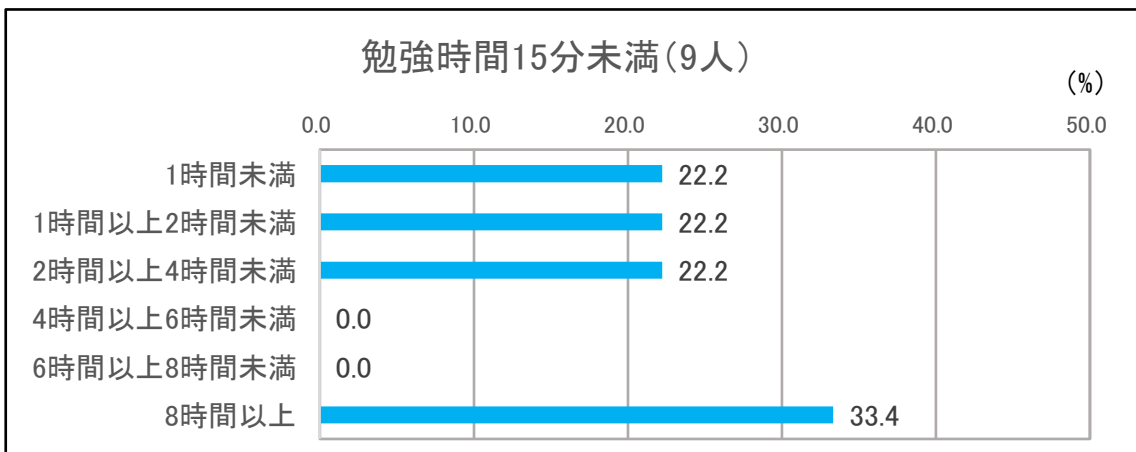
③ 平日の勉強時間

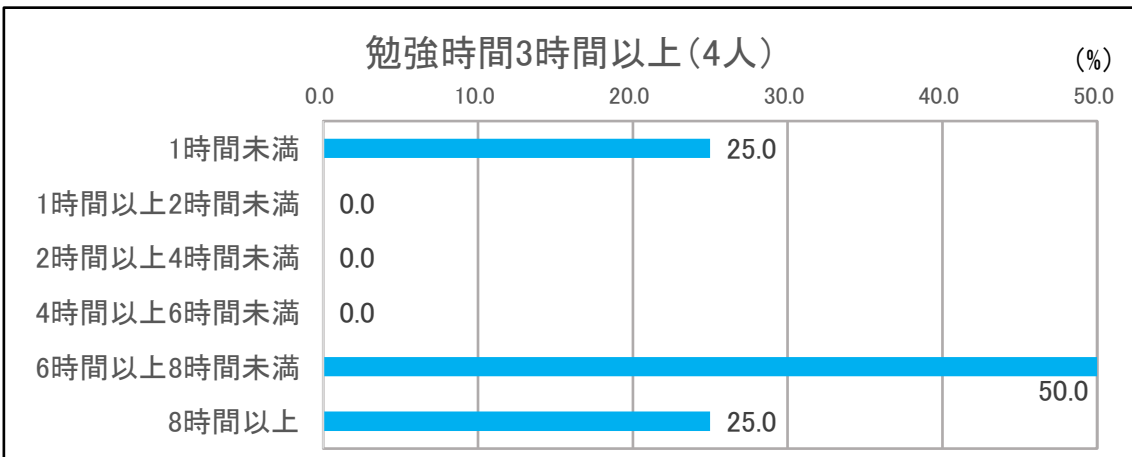
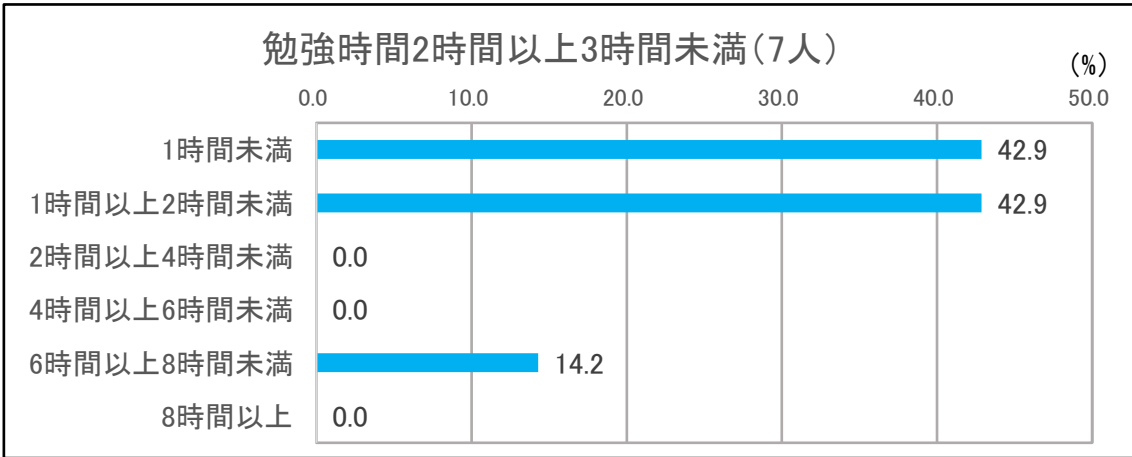
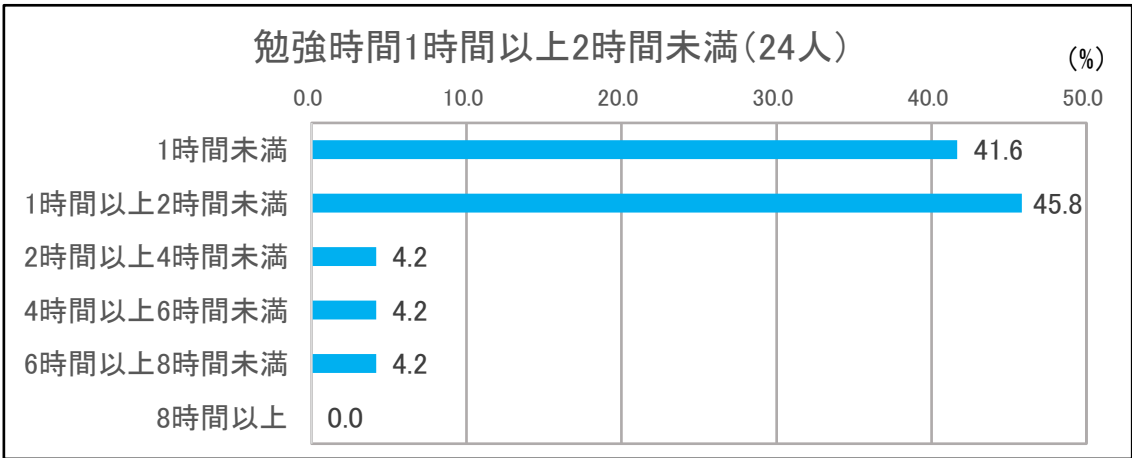
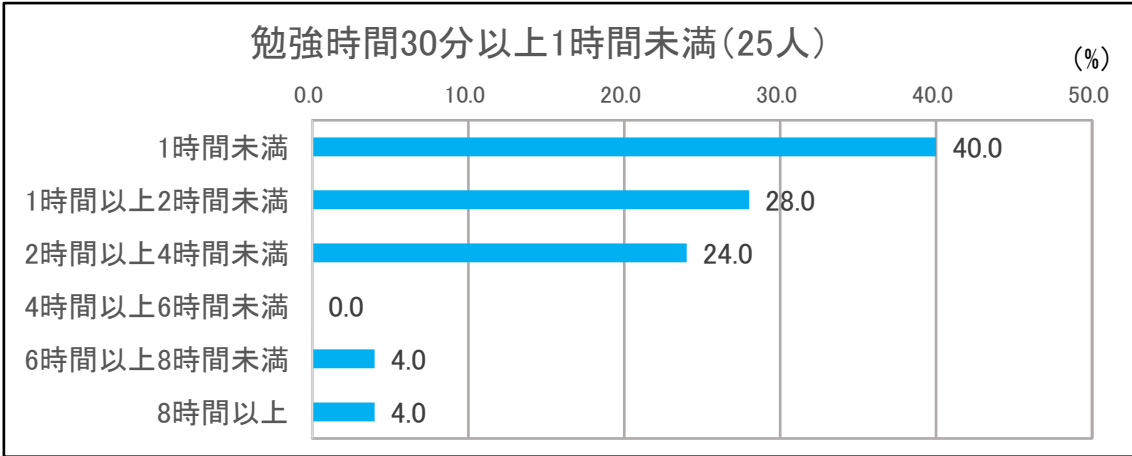
平日の勉強時間は、「30分以上1時間未満」が31.6%と最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」30.4%、「15分以上30分未満」12.7%の順であった。



④ ケア時間別にみた平日の勉強時間

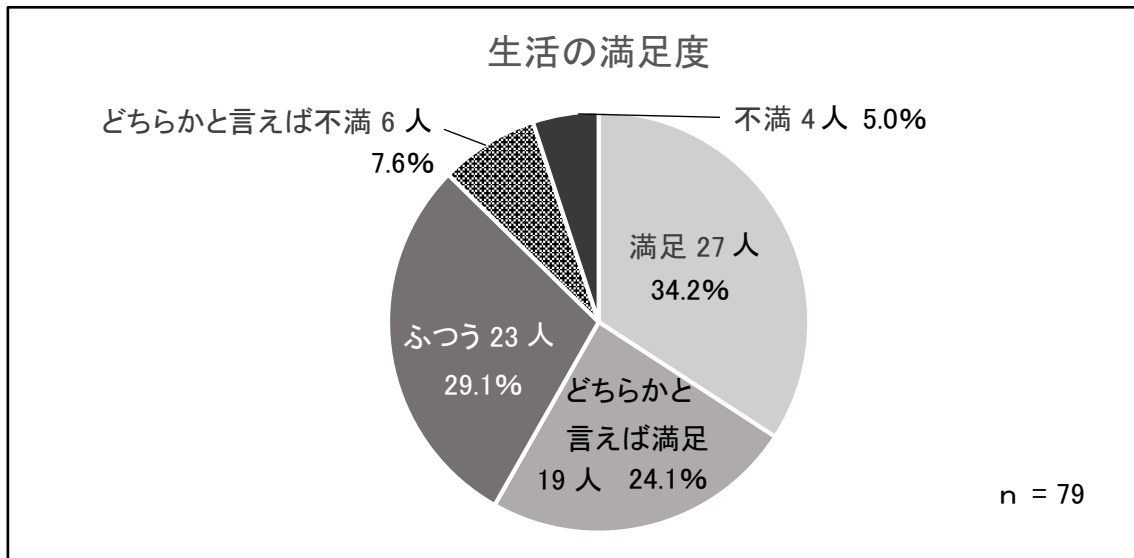
勉強時間別にケアにかけた時間をみると、「勉強時間1時間以上2時間未満」の区分で、ケア時間「1時間以上2時間未満」が45.8%(11人)と最も多く、次いで同区分の「1時間未満」41.6%(10人)、「勉強時間30分以上1時間未満」の区分でケア時間「1時間未満」が40.0%(10人)であった。





⑤ 生活の満足度

今の生活の満足度は、「満足」が 34.2%と最も高く、次いで「ふつう」29.1%、「どちらかと言えば満足」24.1%「どちらかと言えば不満」7.6%の順であった。



(7) 自由意見

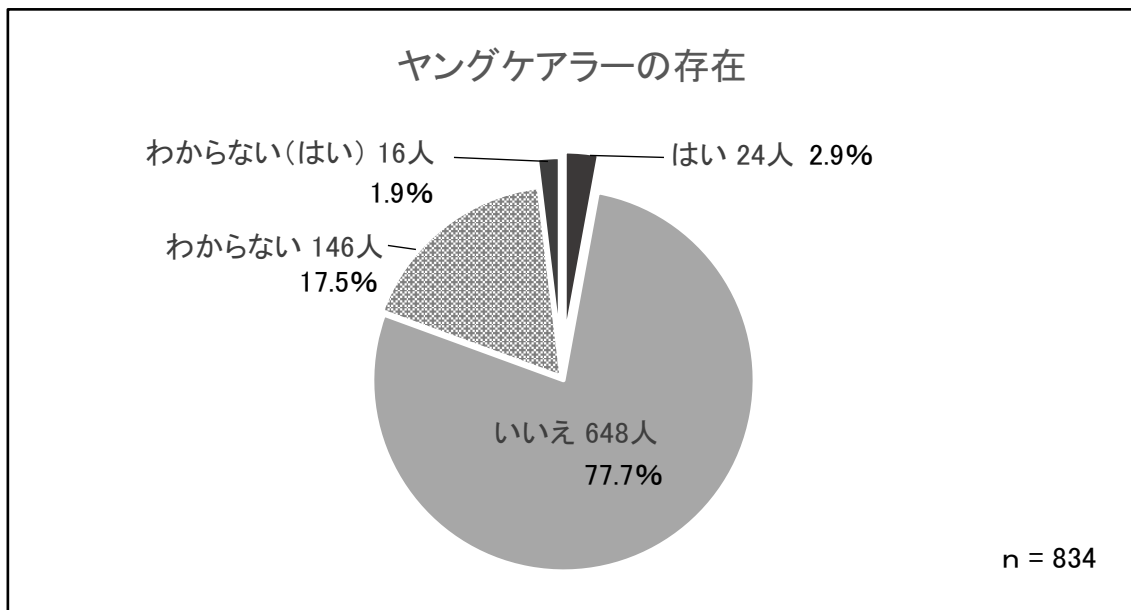
- ヤングケアラーという言葉を知りました。この言葉をもっといろいろな人に浸透させ、ヤングケアラーを理解してもらえるように、もっといろいろな場面でヤングケアラーについて考える時間が必要だと思います。
- ヤングケアラーだけが世話や面倒を見るのではなく、地域や周りの人たちが協力しあってサポートしていけたらいいと思いました。
- ヤングケアラーのことは今まで知らなかったけれど、動画を見て、自分の周りにも実はヤングケアラーがたくさんいるのだと思いました。
- 18歳未満だとまだお世話をしてもらうくらいの歳なのに、家庭の事情でヤングケアラーの負担が少しでも少なくなる制度ができたらいいいと思いました。
- 私みたいな人をヤングケアラーと言うのだと初めて知りました。
- 友達の中に、もしかしたらヤングケアラーがいるかもしれない。そう考えると、その子に何かしてあげたいと思います。ですが、どうすればいいのでしょうか。
- 家族を大切に思うのはいいことだと思います。ですが、それと同じくらい自分も大切だと思います。この調査で少しでも救われる人が増えるといいと思います。
- 耳が聞こえない家族のために通訳などを日々しています。小さいときからしているので不満はないです。会話も手話です。ですが特に支障はないです。楽しい日々です。
- 自分はヤングケアラーではないと思うが、困っている人もいますので相談できる場所があるといいと思いました。
- ヤングケアラーになると、お世話が嫌になって虐待をする人もいないかもしれないから、このような人が減ればいいなと思いました。

4 高校生の調査結果

(1) ヤングケアラーの存在について

自分が「ヤングケアラー」だと思うかの問いに対し、回答者 834 人の内「はい」と回答したのは 24 人(2.9%)、「いいえ」648 人(77.7%)であった。

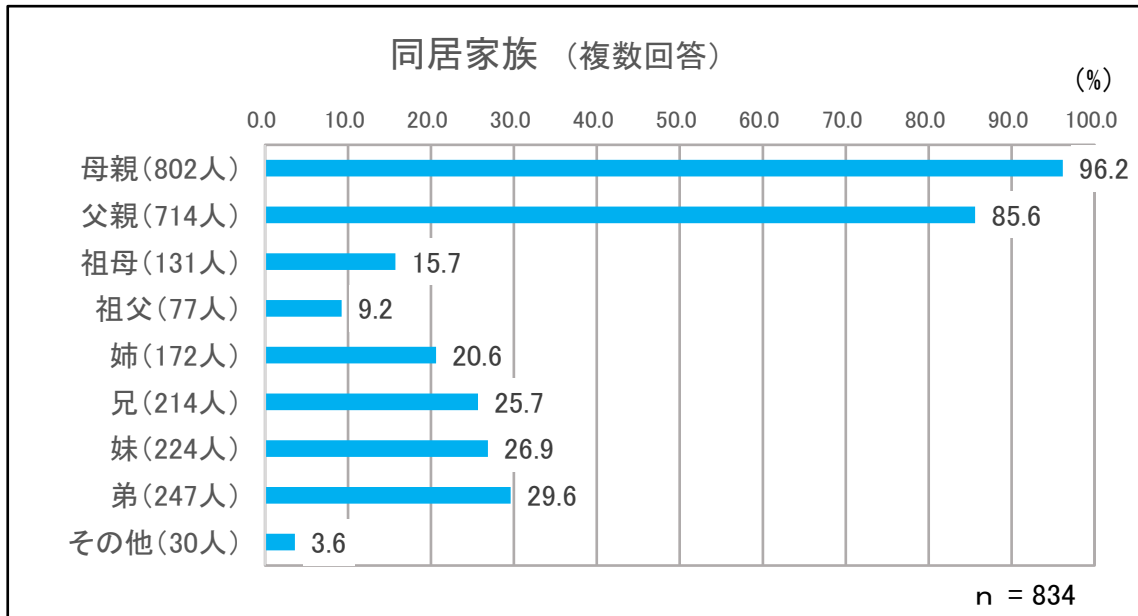
ヤングケアラーか「わからない」と回答した者が、ケアの状況から「ヤングケアラーである」と判断した回答者を含めると高校生におけるヤングケアラーは 40 人(4.8%)であった。



(2) 家族の状況について

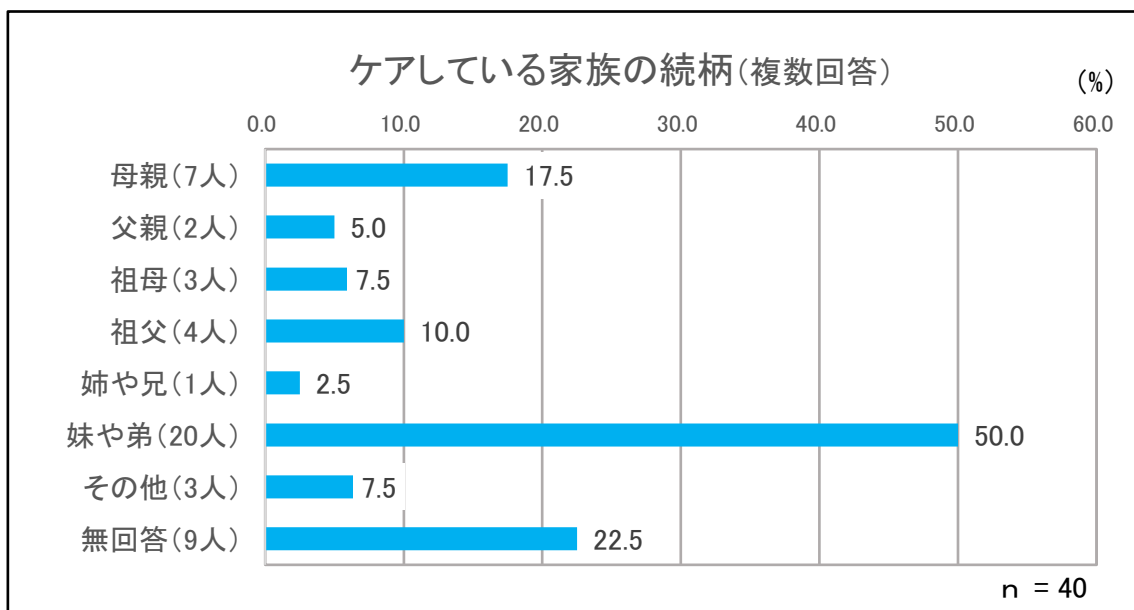
① 同居家族

同居の家族は、「母親」が96.2%と最も高く、次いで「父親」85.6%、「弟」29.6%の順であった。



② ケアしている家族

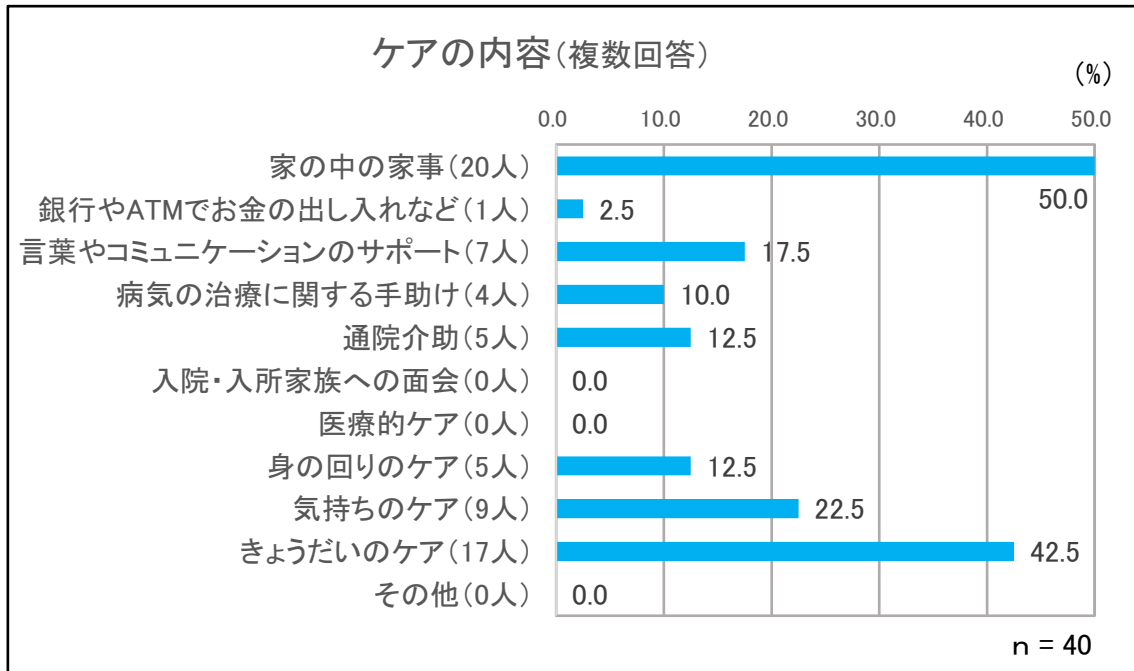
ケアしている家族は、「妹や弟」が50.0%と最も高く、次いで「母親」17.5%、「祖父」10.0%の順であった。



(3) ケアの状況について

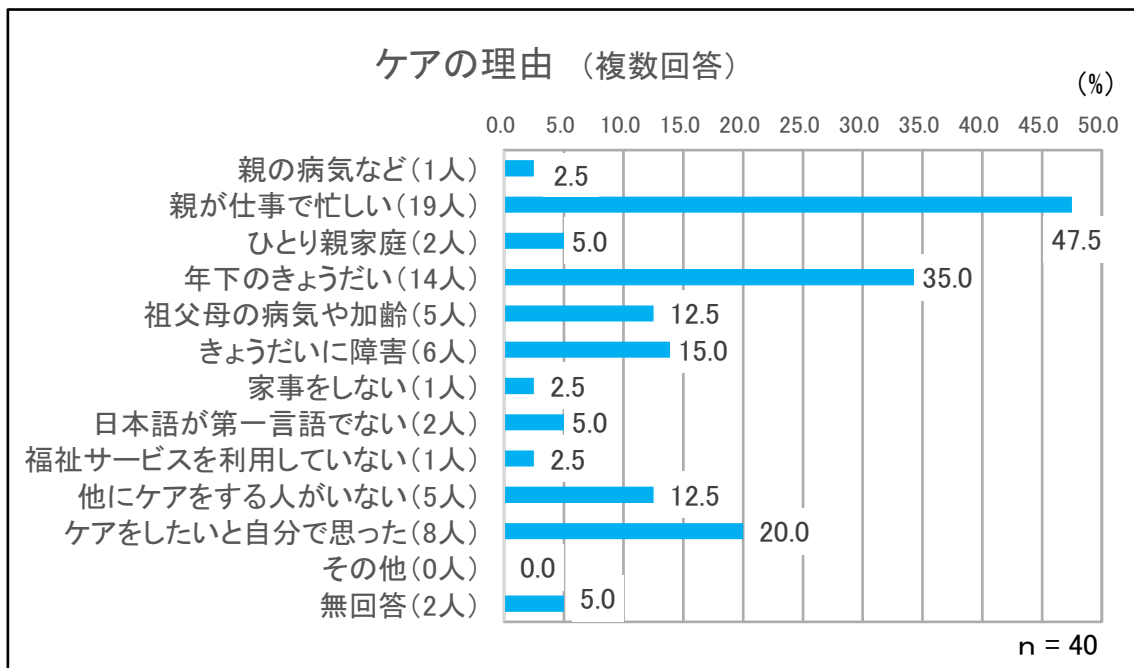
① ケアの内容

ケアの内容は、「家の中の家事」が 50.0%と最も高く、次いで「きょうだいのケア」42.5%、「気持ちのケア(その人のそばにいる、元気づける、話をきく)」22.5%の順であった。



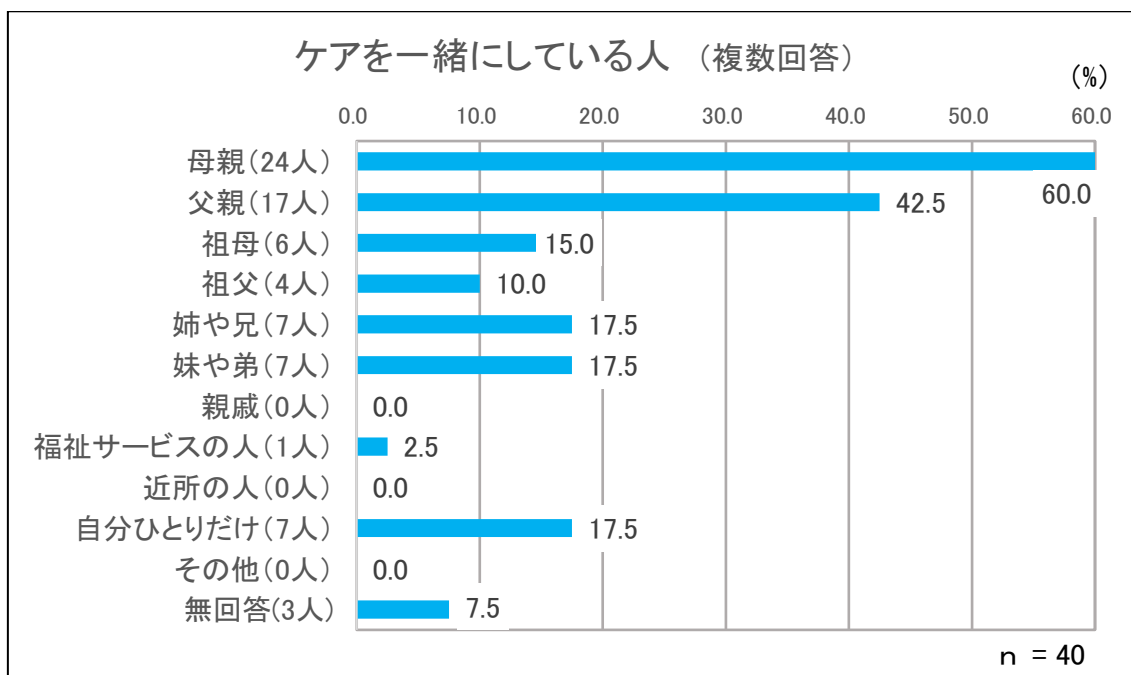
② ケアの理由

ケアの理由については、「親が仕事で忙しい」が 47.5%と最も高く、次いで「年下のきょうだい」35.0%、「ケアをしたいと自分で思った」20.0%の順であった。



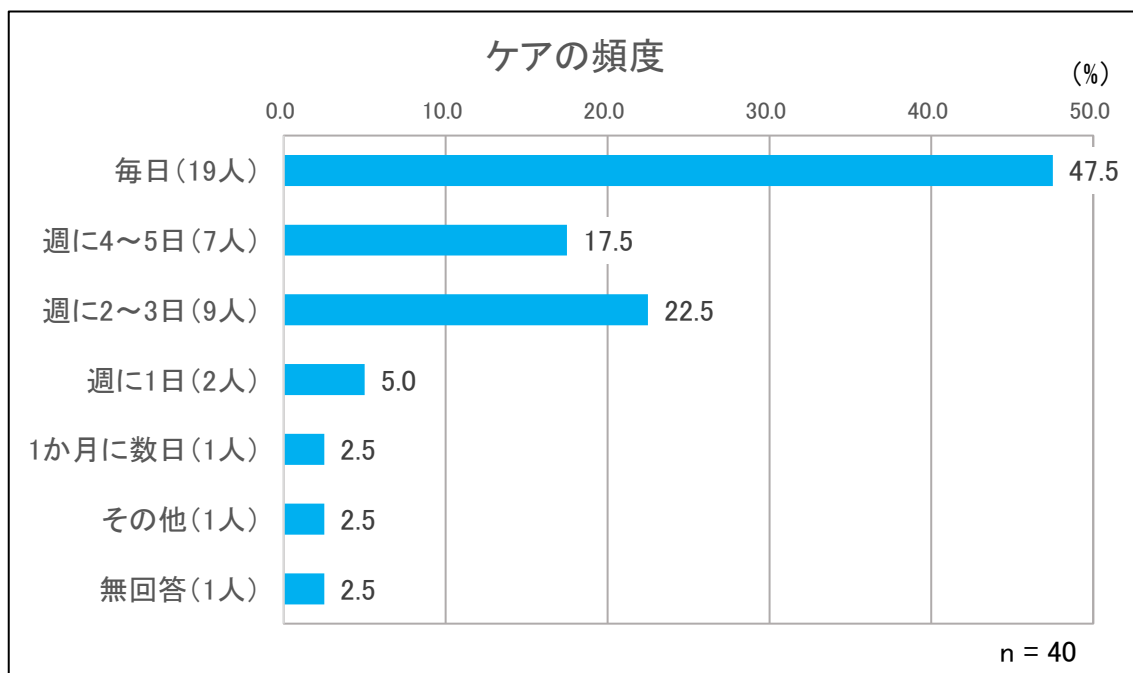
③ ケアを一緒にしている人

ケアを一緒にしている人は、「母親」が 60.0%と最も高く、次いで「父親」42.5%、「姉や兄」、「妹や弟」と「自分ひとりだけ」17.5%の順であった。



④ ケアの頻度

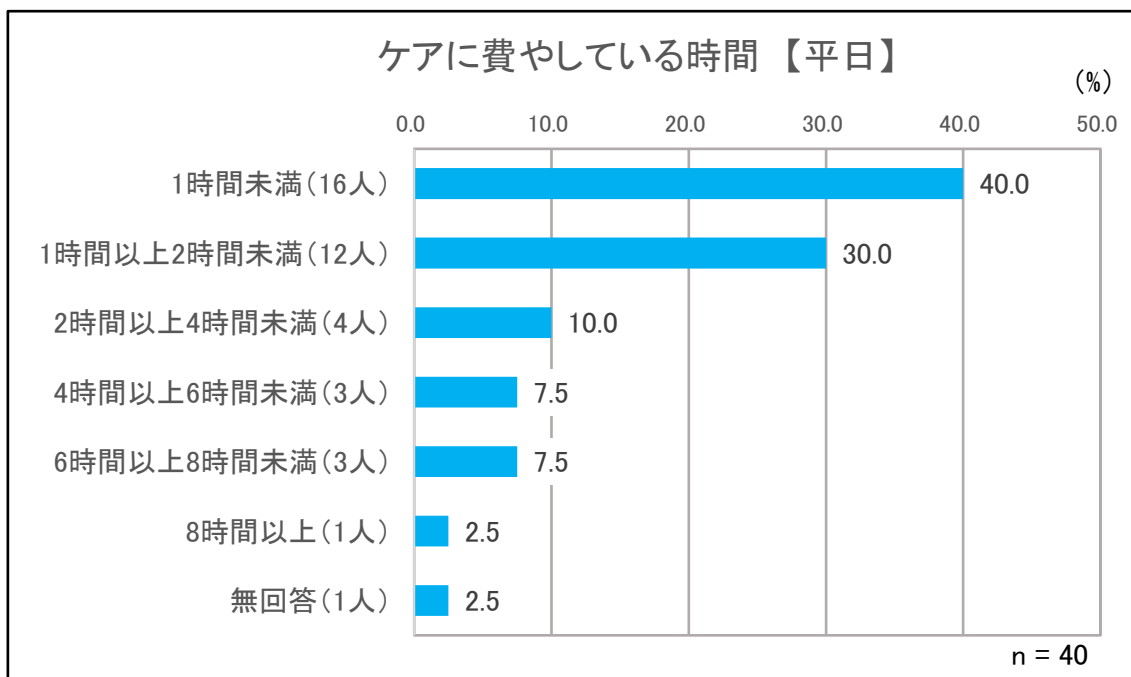
ケアの頻度は、「毎日」が 47.5%と最も高く、次いで「週に 2～3 日」22.5%、「週に 4～5 日」17.5%の順であった。



⑤ ケアに費やしている時間

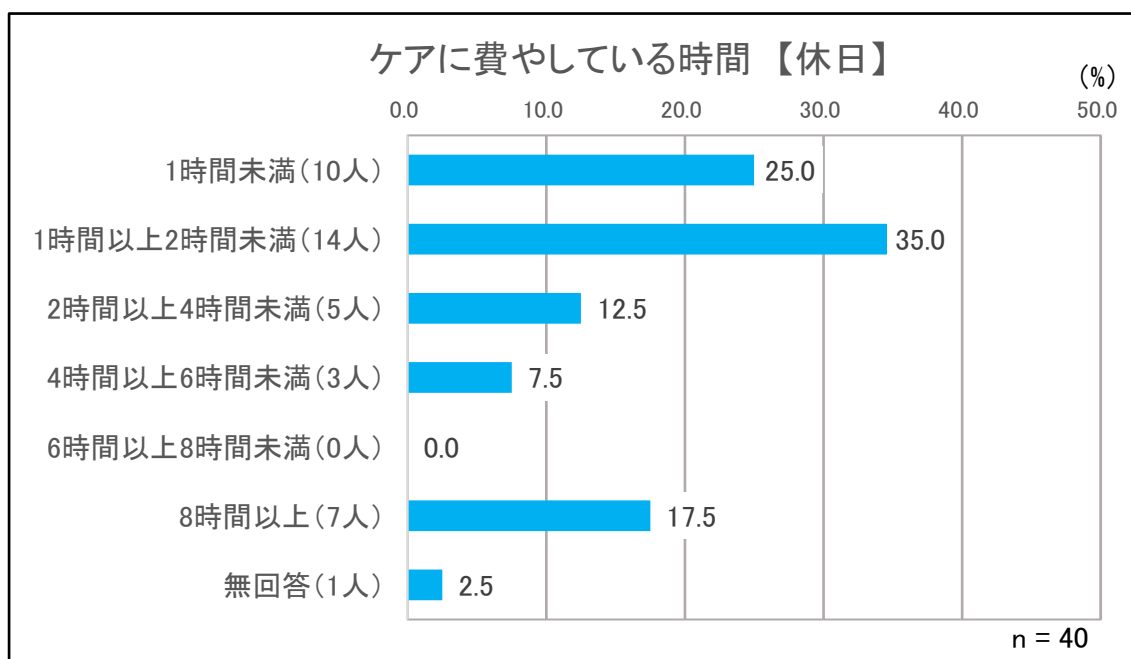
【平日】

学校のある平日にケアに費やしている時間は、「1 時間未満」が 40.0%と最も高く、次いで「1 時間以上 2 時間未満」30.0%、「2 時間以上 4 時間未満」10.0%の順であった。「8 時間以上」ケアを行っているとは回答した児童は 2.5%であった。



【休日】

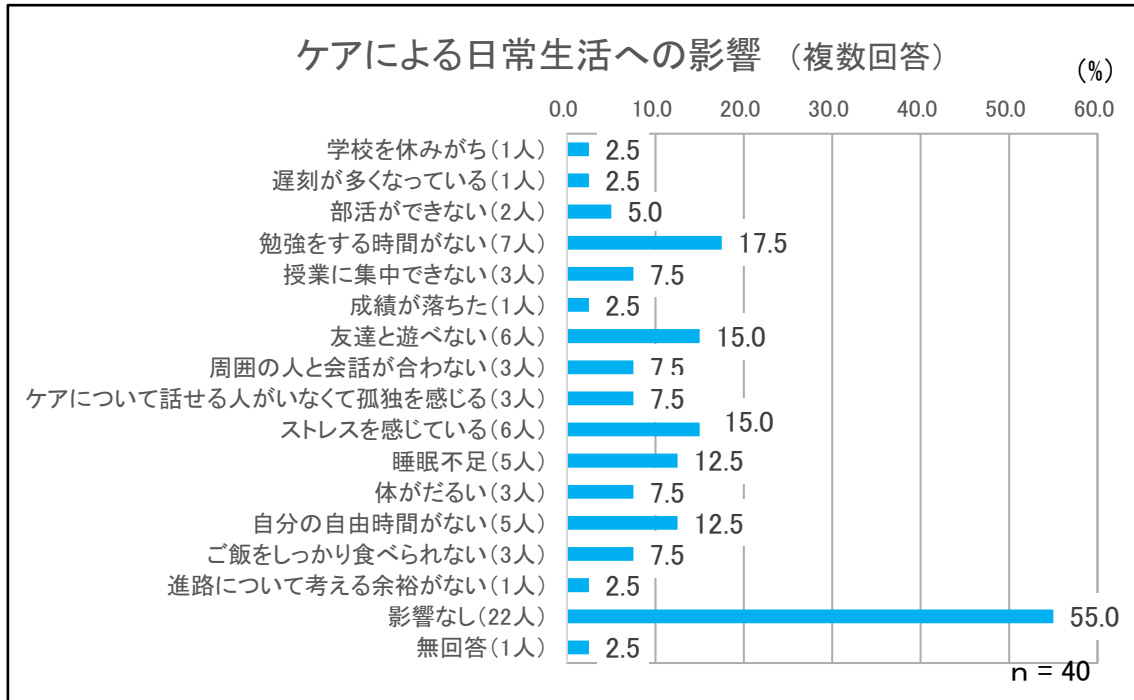
休日にケアに費やしている時間は、「1 時間以上 2 時間未満」が 35.0%と最も高く、次いで「1 時間未満」25.0%、「8 時間以上」17.5%の順であった。



(4) ケアの影響

① ケアによる日常生活への影響

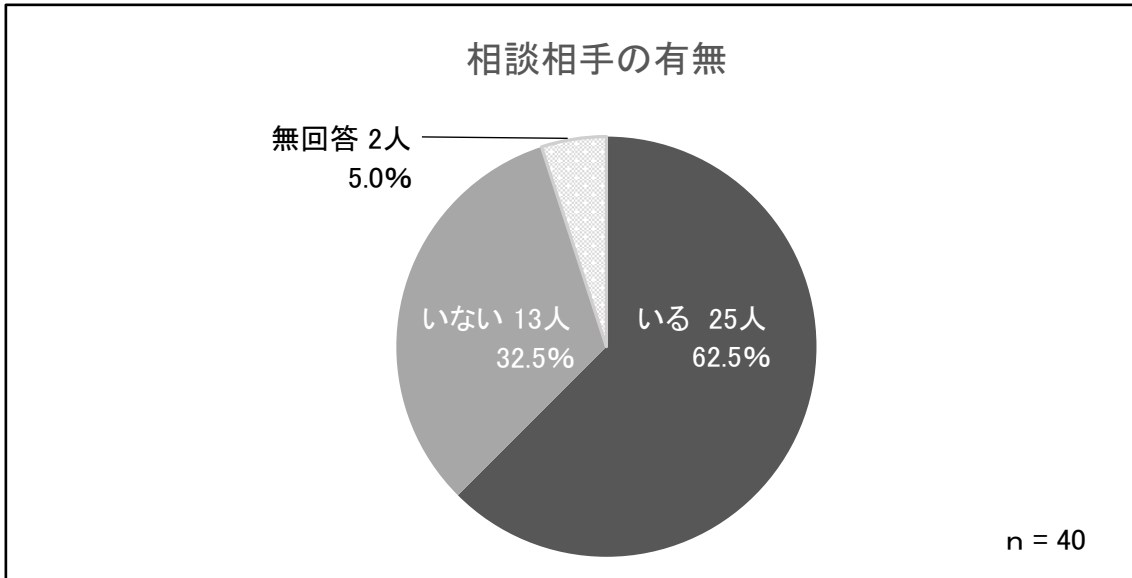
ケアによる日常生活の影響については、「影響なし」が 55.0%と最も高く、次いで「勉強をする時間がない」17.5%、「友達と遊べない」と「ストレスを感じている」15.0%であった。



(5) 相談の状況・必要なサポート

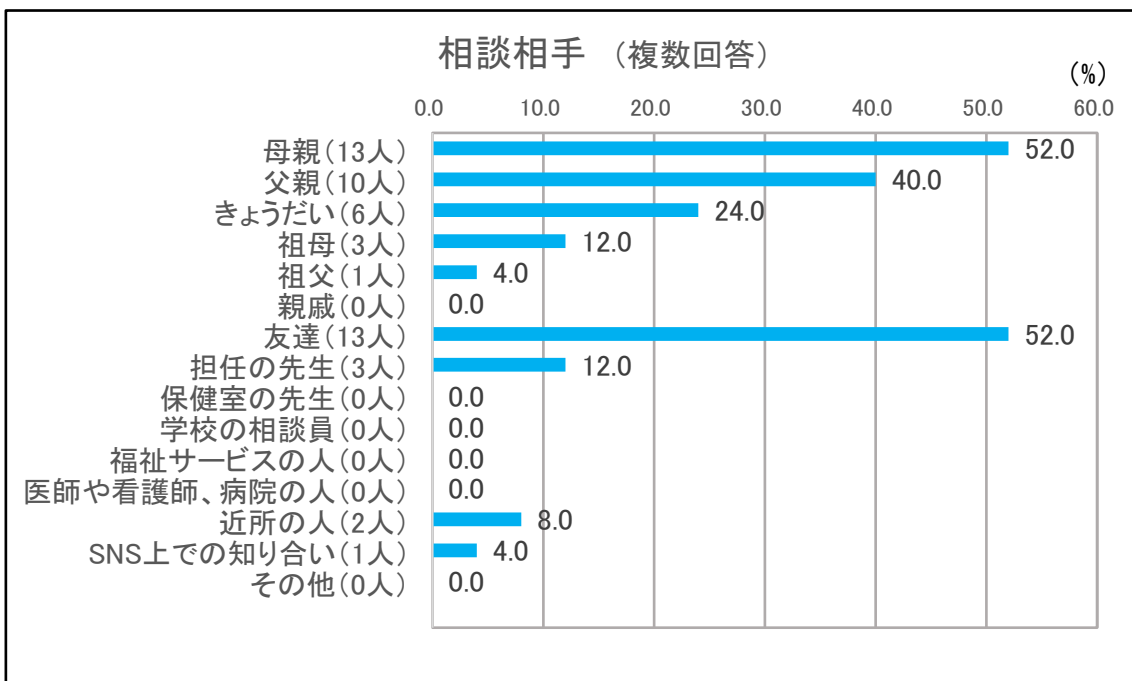
① 相談相手の有無

ケアについての悩みや不満を話せる人の有無については、「いる」が 62.5%、「いない」が 32.5%であった。



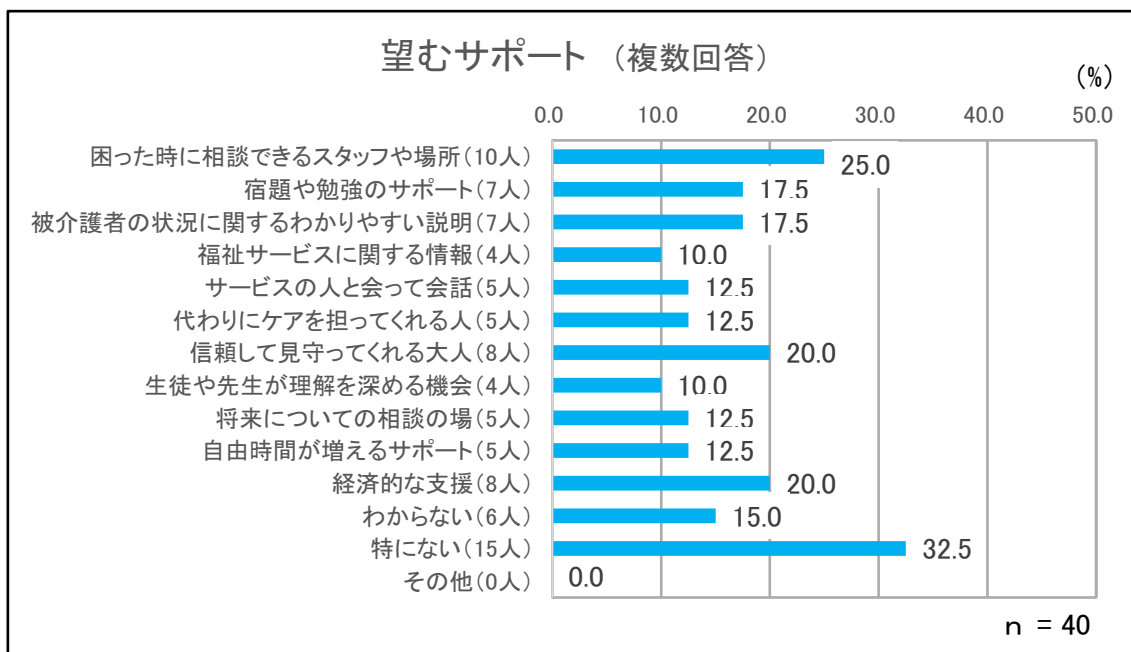
② 相談相手

相談相手は、「母親」と「友達」が 52.0%と最も高く、次いで「父親」40.0%、「きょうだい」24.0%の順であった。



③ 望むサポート

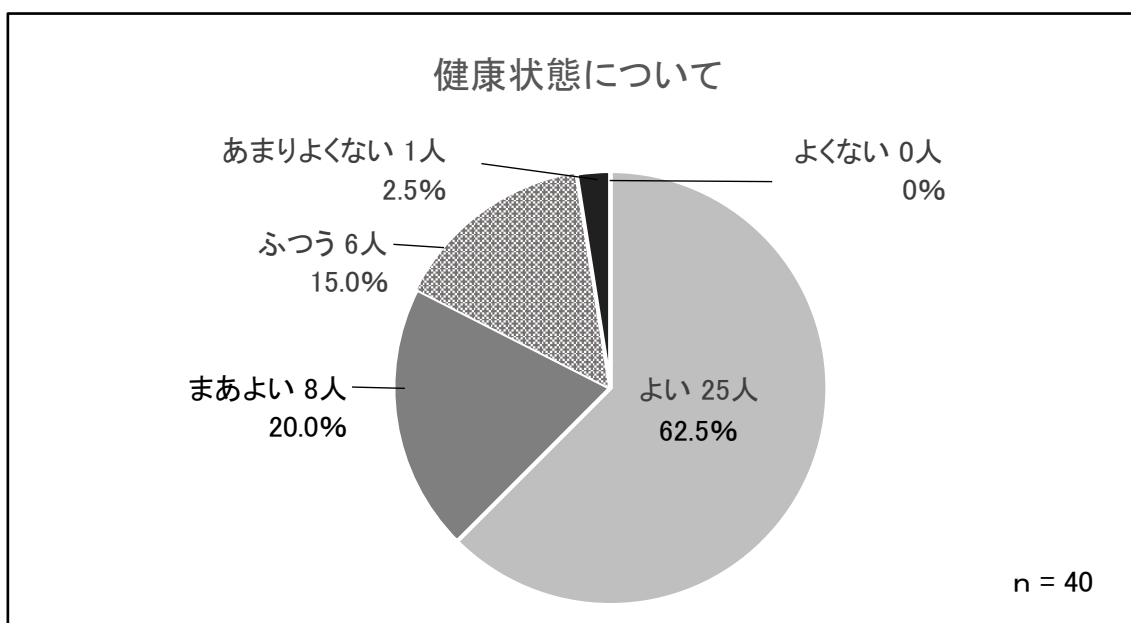
ケアに関してあったらいいと思うサポートは、「特にない」が 32.5%と最も高く、次いで「困った時に相談できるスタッフや場所」25.0%、「信頼して見守ってくれる大人」と「経済的な支援」20.0%の順であった。



(6) ヤングケアラー本人の状況

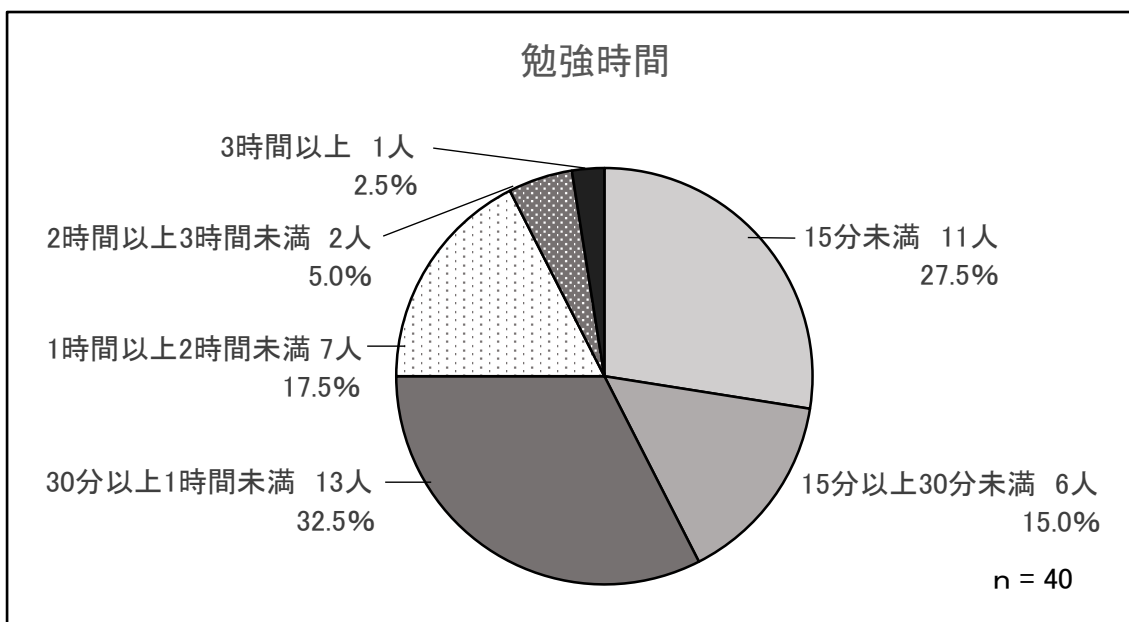
① 健康状態について

現在の健康状態は、「よい」が 62.5%と最も高く、次いで「まあよい」20.0%、「ふつう」15.0%の順であった。



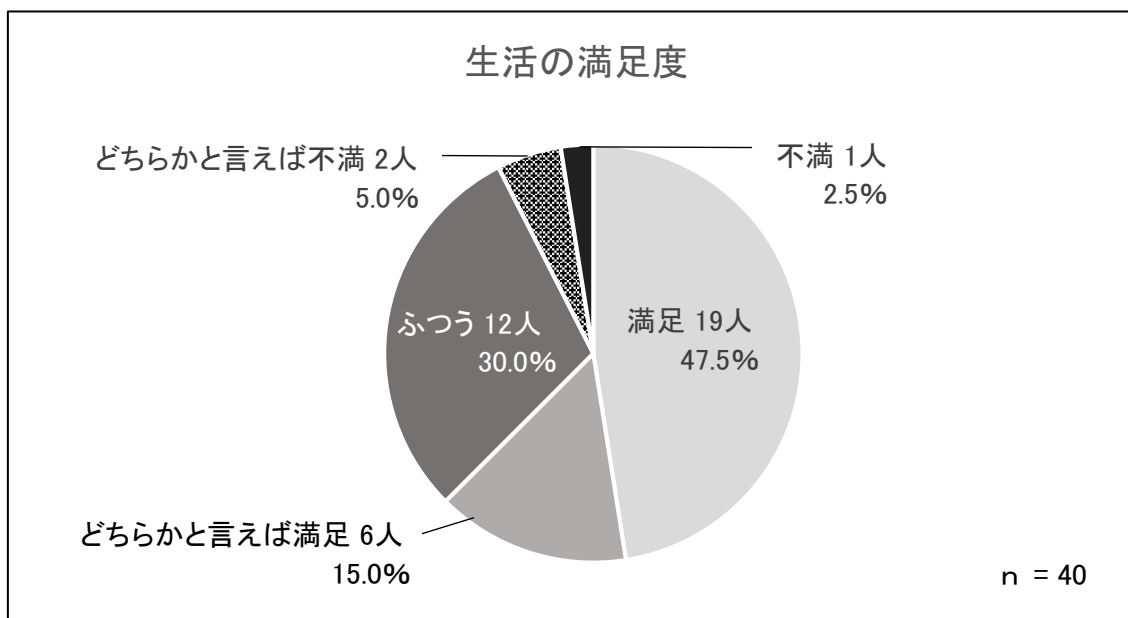
② 平日の勉強時間について

平日の勉強時間は、「30分以上1時間未満」が32.5%と最も高く、次いで「15分未満」27.5%、「1時間以上2時間未満」17.5%の順であった。



③ 生活の満足度について

今の生活の満足度は、「満足」が47.5%と最も高く、次いで「ふつう」30.0%、「どちらかと言えば満足」15.0%の順であった。



(7) 自由意見

- まだ、ヤングケアラーという言葉が広まって定着していない部分があったりするので、みんなに理解を深めてほしいです。そして早く対策をしてほしいと思いました。
- 世の中には、家族のために頑張っている人や、苦しんでいる人がいることを知ることができました。そういうことについて、私自身でももっと考えていきたいと思いました。
- 知っていることでしたが、自分たちに何ができるか分かりません。
- 今の生活が当たり前と思わずに周りにヤングケアラーで悩んでいる人がいたとして私にできる事を考えていきたいです。
- ヤングケアラーへ間接的でも何か支援できる方法はあるのか気になりました。

5 小学校教員・養護教諭の調査結果

(1) 回答者の役職

回答が得られたのは、1年生の担任 11人、2年生の担任 22人、3年生の担任 17人及び養護教諭 6人の合計 56人(回収率 43.4%)であった。

(人)

	1年生	2年生	3年生
担任	11	22	17
養護教諭	6		

(2) 教員のヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーについて、「知らなかった」と回答した教員は 37.5%、「聞いたことはあるが具体的には知らない」は 58.9%であった。

(人)

	知らなかった	聞いたことはあるが 具体的には知らない	講習会に参加したこ とがある	ヤングケアラーの対 応をしたことがある
小学1年生担任 (n=11)	6	5	0	0
小学2年生担任 (n=22)	7	15	0	0
小学3年生担任 (n=17)	3	13	0	1
養護教諭 (n=6)	5	0	0	1
合計 (割合)	21 (37.5%)	33 (58.9%)	0 (0%)	2 (3.6%)

(3) ヤングケアラーの状況把握について

- ① ヤングケアラーと思われる児童(可能性も含めて)を把握している教員は、小学2年生の担任が2人、小学3年生の担任が1人、養護教諭が1人であった。

(人)

	いる	いない	わからない
小学1年生担任	0	9	2
小学2年生担任	2	15	5
小学3年生担任	1	10	6
養護教諭	1	1	4
合計	4	35	17

- ② 学校が把握しているヤングケアラーと思われる児童が行っていると思われるケアは以下のとおりであった。

- ・ 幼いきょうだいのケア
- ・ 外出時の付き添い
- ・ 家族の身の回りのケア
- ・ 通訳や書類の説明

- ③ 学校において、ヤングケアラーと思われる児童の状況把握を以下の方法で行っている。

- ・ 養護教諭や校長・教頭が話を聞くようにしている
- ・ 「ヤングケアラー」の視点を持って対応している

(4) ヤングケアラーへの支援

ヤングケアラーと思われる児童について、この調査では学校が外部(市の教育委員会など)につないだケースはなかった。

(5) 必要なサポート(複数回答)

教員がヤングケアラーのために必要だと思う支援は、「教職員等がヤングケアラーについて知ること」49人、次いで「保護者等がヤングケアラーについて知ること」48人、「スクールソーシャルワーカー等の配置の充実」38人の順であった。

(人)

教職員等がヤングケアラーについて知ること	49
保護者等がヤングケアラーについて知ること	48
スクールソーシャルワーカー等の配置の充実	38
子どもが教員に相談しやすい関係をつくること	37
子ども自身がヤングケアラーについて知ること	33
学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること	27
学校にヤングケアラーの相談ができる窓口があること	26
学校が支援について相談できる機関があること	21
子ども同士で話す機会があること	11
ヤングケアラーの検討組織を校内につくること	8
NPOなどの支援団体が増えること	0
特にない	0
わからない	1

(6) 自由意見

- ヤングケアラーについて知った結果、大なり小なり低学年の子どもたちの中にも存在すると感じました。学校生活の中で見えてこないものも多く、実態の把握が難しい印象を受けました。ただその実態を把握しておくことで、ヤングケアラーの児童の支えとなり寄り添うこともできると思うので、これからはそのような目線も持ちながら教育活動に励みたいと思います。
- 学校が気づいたときや子どもや親から相談があったときに、学校が気軽に相談できる頼れる窓口が市にあると安心だと思います。
- 無意識のうちに、ヤングケアラーと思われることをしてしまっていることが怖いと思いました。ヤングケアラーが世間に知れ渡り、子どもたちが安心して過ごせる社会にしていけたら良いと思います。
- 親の仕事が忙しく、生活が優先されるために子どもの面倒が疎かになるなど、家庭の問題が大きいです。そのため、なかなか学校で踏み込めない事も多いと思いますが、地域や学校が外部機関との橋渡しとなれたらいいと思います。
- 各々が理解を深め、対応できる人員が増えることは理想です。一方で、何でも学校で教員が対応することになってしまうと、手が回らず十分な対応はできなくなることが容易に想像できます。対応できる専門の人員の配置が急務ではないかと考えます。

6 考察

(1) ヤングケアラーの存在について

当市のヤングケアラーの割合は、小学生(4年生～6年生)5.7%、中学生 4.1%、高校生(1・2年生)4.8%であった。国の調査「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書¹⁾」では、中学 2 年生 5.7%、全日制の高校 2 年生 4.1%であった。また、県の調査「埼玉県ケアラー支援計画のためのヤングケアラー実態調査結果²⁾」では、高校 2 年生 4.1%であり、国、県の調査と概ね同様にケアラーが存在することが明らかになった。

(2) 家族の状況について

同居家族については、小・中学生、高校生とも祖父母と同居している割合が低く、核家族が多かった。また、きょうだい(姉・兄・妹・弟)を選択した者がそれぞれ 20%以上いた。

ケアしている家族の続柄については、「妹や弟」が最も多く、次いで「母親」の順であった。また、複数の家族をケアしているヤングケアラーの存在が明らかになった。

(3) ケアの状況について

ケアの内容については、小・中学生、高校生とも「きょうだいのケア」や「家の中の家事」「身の回りのケア」といった日常生活に直結したケアを行っている。

小学校から中学校、中学校から高校へと進むにつれて、「言葉やコミュニケーションのサポート(家族のために通訳をする、手紙や書類などを説明する)」、「気持ちのケア」、「病気の治療に関する手助け(服薬の確認など)」が増加する傾向にある。また、「銀行やATMでお金の出し入れなど」や「医療的ケア(痰の吸引)」など小学生にとって難しいと思われるケアを行っている児童もいる。

ケアの理由については、小学生は自分の意思でケアを行っていたが、中・高生は仕事で忙しい親に代わり、必要に迫られてきょうだいの世話をしている状況がうかがえる。

ケアを一緒にしている人については、小・中学生、高校生とも「母親」が最も多かったが、妹や弟と一緒にケアしていると回答した割合も高かった。一方、「福祉サービスの人」「近所の人」「親戚」との回答は少なかった。家族以外のケアの担い手が少ないことが明らかになった。「自分ひとりだけ」でケアを担っているヤングケアラーもいたため、孤立しないよう家族以外のサポートの在り方を検討していく必要がある。

ケアの頻度については、小・中学生、高校生とも「毎日」が最も多かった。この傾向は、国・県の調査結果と同様であった。

ケアに費やしている時間については、小・中学生、高校生とも平日は「1 時間未満」が最も多かった。休日は、小・中学生は「1 時間未満」が最も多く、高校生は「1 時間以上 2 時間未満」が最も多かった。平日と休日を比較すると、休日に 2 時間以上のケアを行っている割合が増加している。

(4) ケアの影響

ケアによる日常生活の影響については、小・中学生、高校生とも「影響なし」が最も多く、いずれも 50%以上であった。一方、「ストレスを感じている」、「宿題・勉強をする時間がない」などの影響をあげている児童もいる。その他、「睡眠不足」、「体がだるい」、「ごはんをしっかりと食べられない」といった体調への影響が出ている児童もいる。さらに、高校生になると、友人との時間や自由時間など自分の時間を確保したいと感じている児童が増加している。

なお、ケア時間の長さとそれによる生活への影響を分析したところ、相関関係は見られなかった。

(5) 相談の状況・必要なサポート

相談相手の有無については、小・中学生、高校生とも 60%前後の児童が「いる」と回答しており、県の調査と同様の結果であった。

相談相手については、小・中学生、高校生とも「母親」が最も多く、次いで「父親」、「友達」等身近な人に相談している状況がうかがえる。一方、学校関係者や家族以外の大人を相談相手としている回答は少なかった。

望むサポートについては、中・高生は「特になし」が最も多く、小学生も「宿題・勉強のサポート」に次いで「特になし」が多かった。小学校から中学校、中学校から高校へと進むにつれて、相談の場や見守ってくれる人を必要とし、何かサポートしてもらいたいというよりも、見守っていてくれることが重要なサポートになり得ると考えられる。自分自身の存在を認め、尊重してほしい気持ちの表れとも見ることができる。困ったときに相談できる場の整備、信頼して見守ってくれる人材の確保が必要である。

(6) ヤングケアラー本人の状況

健康状態については、「よい」、「まあよい」を合わせると小学生 70.2%、中学生 69.6%、高校生 82.5%であった。また、ケア時間の長さによる健康状態への影響を分析したところ、相関関係は見られなかった。

平日の勉強時間については、小・中学生、高校生とも「30分以上 1時間未満」が最も多く、小・中学生は次いで「1時間以上 2時間未満」が多く、高校生は次いで「15分未満」が多かった。3時間以上勉強しているのは、高校、中学校、小学校の順に少なくなっている。

ケア時間別にみた勉強時間については、ケア時間と勉強時間との相関関係は見られなかった。ケアも勉強も熱心に取り組む児童が、時間を有効に活用し両立していると推察できる。

生活の満足度については、小・中学生、高校生とも「満足」が最も多く、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合はいずれも 60%前後であった。「不満」、「どちらかといえば不満」と回答した者は、小学生 17.1%、中学生 12.6%であった。高校生については、県調査結果において「満足」及び「どちらかといえば満足」が 44.6%、「不満」及び「どちら

かと言えば不満」が 11.4%と比べ、市内高校生の満足度が高いことがうかがえる。

(7) 小学校教員・養護教諭への調査について

今回のヤングケアラー実態調査では、教員の「ヤングケアラー」という言葉に対する認知度は低い割合であった。また、ヤングケアラーと思われる児童を把握している教員の数も決して多いとはいえない状況であった。今後は「ヤングケアラー」という言葉の周知や、ケアラーに対する理解や具体的な支援についての研修が必要かと思われる。

(8) 自由意見

調査を通じ、「ヤングケアラーという言葉を知った」、「アンケートの動画を見て理解することができた」という意見が多く見られ、一定程度、ヤングケアラーについて周知が図られたものと思われる。

7 今後の方向性

(1) 周知・啓発について

ヤングケアラーの認知度は、まだまだ低く、周囲の大人のみならず子どもたち自身もヤングケアラーについて正しく理解することが重要である。研修会や広報等を通じて、ヤングケアラーについて周知・啓発し、全ての子どもが心身ともに健やかに成長できる環境整備を図る。

(2) 相談体制の整備について

親子関係等の悩みに対し、子どもが相談しやすい窓口や場の設置について調査・検討し、相談体制の整備を図る。

(3) 関係機関との連携

ヤングケアラーを早期に発見し適切な支援につなげていくため、教育機関、児童福祉、生活福祉、高齢者福祉、障害者福祉部局などの関係機関との連携を図る。

(4) 条例制定について

社会全体でヤングケアラーを支援するため、支援の基本理念、市の責務、体制の整備等を定める条例の制定を目指す。

8 参考文献

- 1) ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書 令和3年3月
三菱UFJリサーチ&コンサルティング

- 2) 埼玉県ケアラー支援計画のためのヤングケアラー実態調査結果 令和3年3月
埼玉県福祉部地域包括ケア課

付 録

- ヤングケアラー実態調査 調査項目【小学4年生から6年生編】
- ヤングケアラー実態調査 調査項目【中学生編】
- ヤングケアラー実態調査 調査項目【高校生編】
- 入間市ヤングケアラー実態調査 調査へのご協力をお願い

入間市ヤングケアラー実態調査結果報告書

令和3年10月発行

発行:入間市 こども支援部 こども支援課

埼玉県入間市豊岡1-16-1

電話 04-2964-1111

入間市ヤングケアラー実態調査結果 〈概要版〉

1 調査の概要

(1) 調査の目的

潜在化しているヤングケアラーの存在及び実態を把握するため、ヤングケアラー実態調査を行う。併せて、ヤングケアラーが担っているケアの状況、悩みごと、支援ニーズ等を把握し、必要な施策に反映する。

(2) 調査対象

- ・市立小学校 16校の4年生から6年生：3,502人
- ・市立中学校 11校及び私立中学校 1校の1年生から3年生：3,808人
- ・市内高等学校 4校の1年生・2年生：2,588人
- ・小学1年生から3年生の担任及び小学校の養護教諭：129人 計 10,027人

(3) 調査方法

- ・各自のタブレット端末またはスマートフォンにより Web アンケートを無記名で行った。
※ヤングケアラーに関する動画を作成し、ケアとお手伝いの違いを説明してから調査を行った。
- ・調査票各設問の単純集計及びクロス集計を行い、実態調査結果に関する詳細な分析を行った。
- ・市内在住者のヤングケアラーと思われる高校生は 8人と少数であったことから、高校生の調査結果は単純集計のみとし、クロス集計を用いた分析は行わないこととした。

(4) 調査期間

- ・小中学生：令和3年7月7日～7月16日 ※私立中学校の中学生は高校生と同時期に調査
- ・高校生：令和3年7月7日～7月31日
- ・担任教員等：令和3年7月7日～7月16日

(5) 回答状況

調査対象者	回答者数	回収率
小学4～6年生	2,480人	70.8%
中学1～3年生	1,907人	50.1%
高校1・2年生	834人	32.2%
小学1～3年生の担任・養護教諭	56人	43.4%
合計	5,277人	52.6%

2 調査結果

ヤングケアラーの存在について

【小学生】

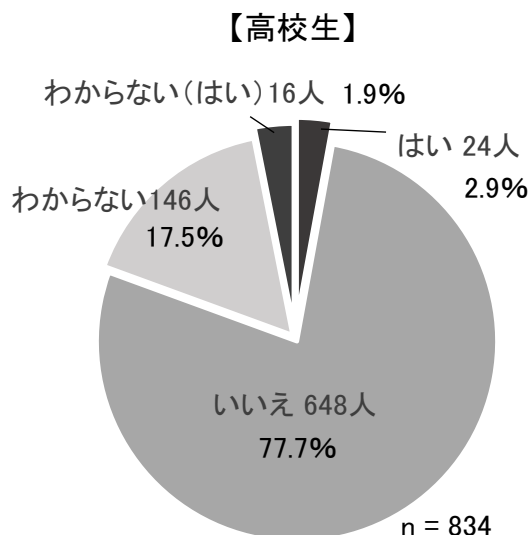
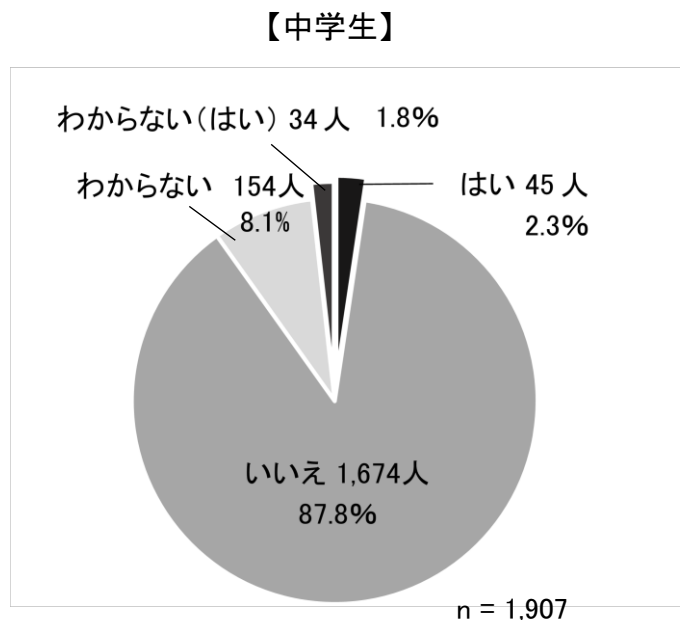
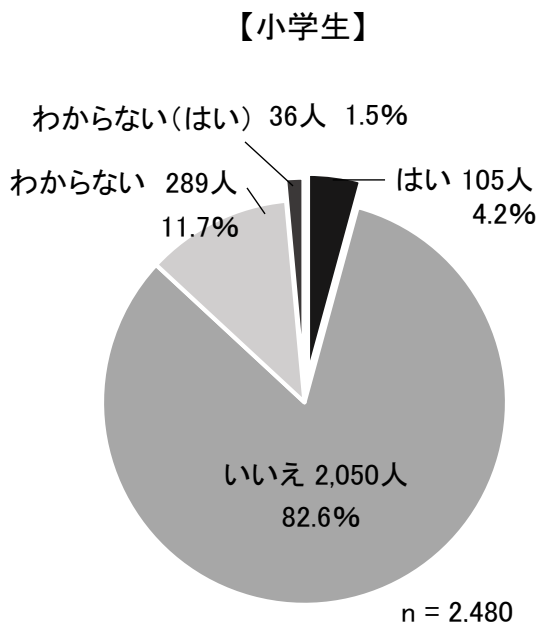
自分が「ヤングケアラー」だと思うかの問いに対し、回答者 2,480 人の内「はい」と回答したのは 105 人(4.2%)であった。

ヤングケアラーが「わからない」と回答したが、ケアの状況から「ヤングケアラーである」と判断した回答者を含めると、小学生のヤングケアラーは 141 人(5.7%)であった。

【中学生】

中学生の回答者 1,907 人の内「はい」と回答したのは 45 人(2.3%)であった。

「わからない」と回答した者の内、ケアの状況から「ヤングケアラーである」と判断した回答者を含めると、中学生のヤングケアラーは 79 人(4.1%)であった。



【高校生】

回答者 834 人の内「はい」と回答したのは 24 人(2.9%)であった。

「わからない」と回答した者の内、「ヤングケアラーである」と判断した回答者を含めると、高校生のヤングケアラーは 40 人(4.8%)であった。

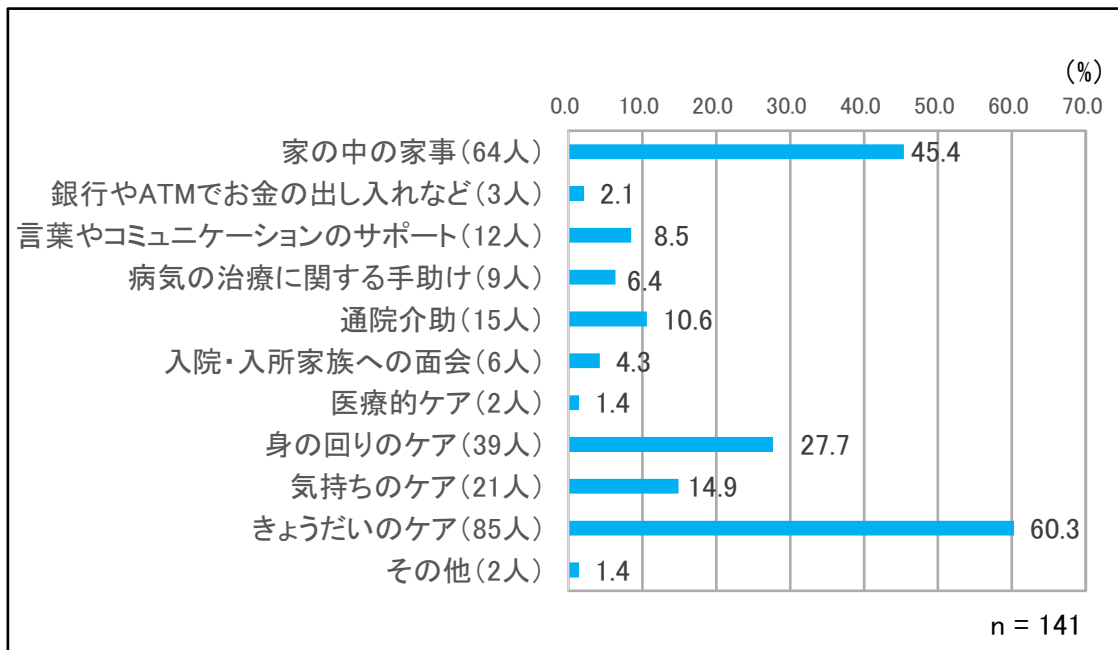
※高校生の調査結果については、ヤングケアラーと思われる市内在住の高校生が 8 人と少数であったため、概要版には高校生のヤングケアラーの割合のみ掲載します。

ケアの内容

(複数回答)

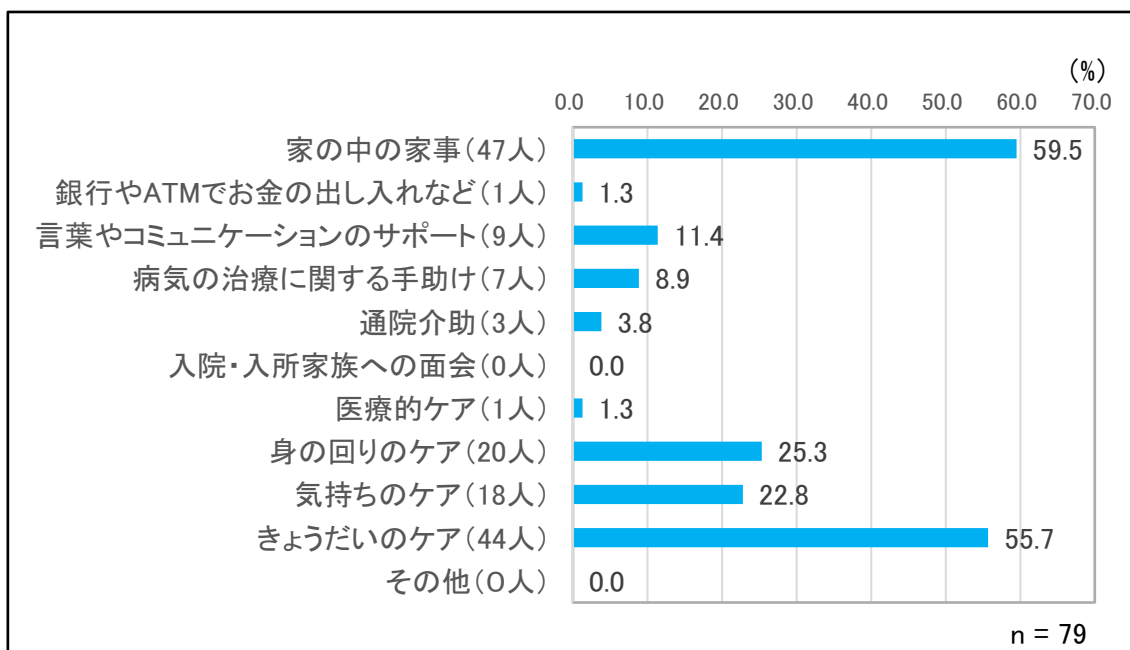
【小学生】

ケアの内容は、「(自分一人で、あるいは親と一緒に)きょうだいのケア」が 60.3%と最も高く、次いで「家の中の家事(食事の片付け、洗濯、掃除、買い物など)」45.4%、「身の回りのケア(衣服の脱ぎ着の手伝い、お風呂やトイレの手伝い、歩行の手助けなど)」27.7%の順であった。



【中学生】

ケアの内容は、「家の中の家事」が 59.5%と最も高く、次いで「きょうだいのケア」55.7%、「身の回りのケア」25.3%の順であった。

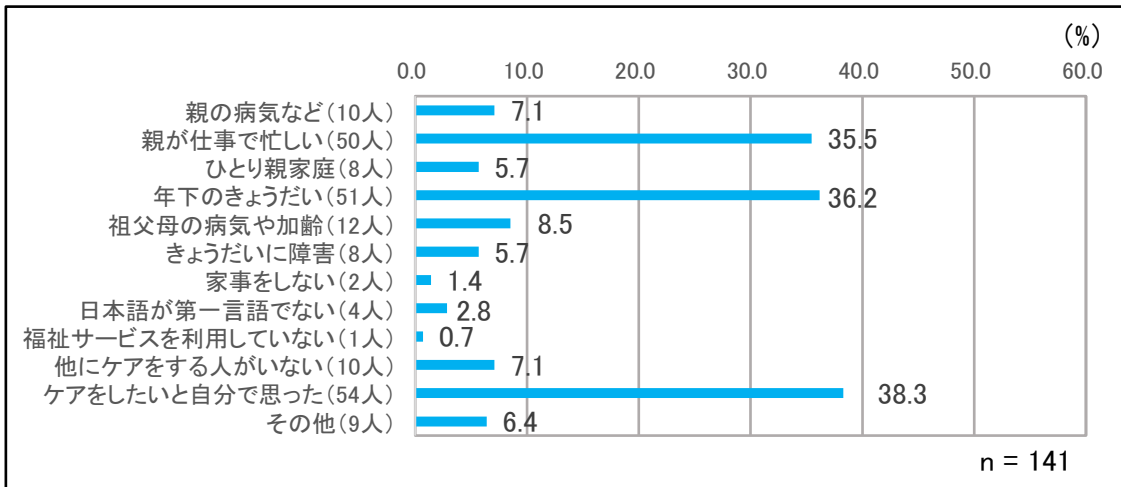


ケアの理由

(複数回答)

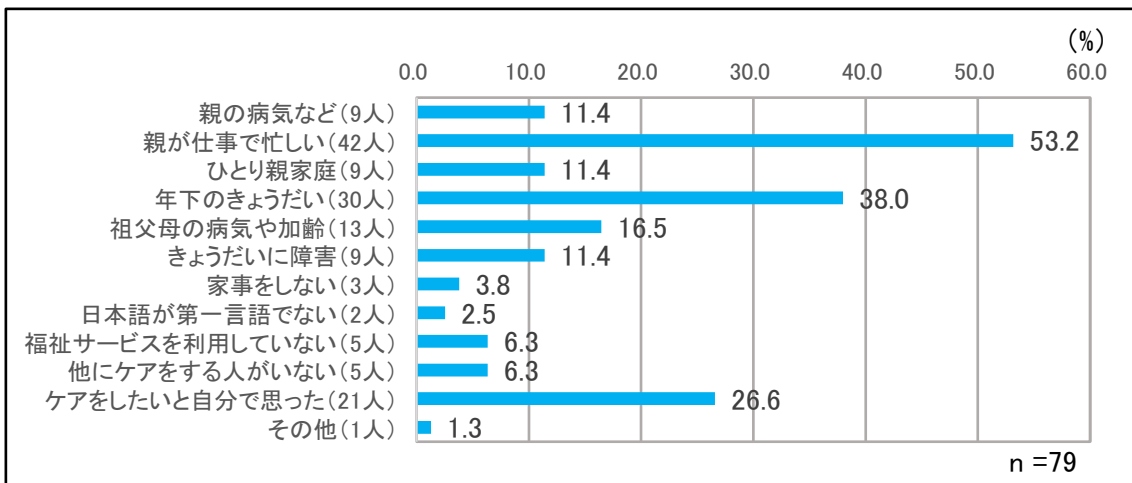
【小学生】

ケアの理由は、「ケアをしたいと自分で思った」が38.3%と最も高く、次いで「年下のきょうだい」36.2%、「親が仕事で忙しい」35.5%の順であった。



【中学生】

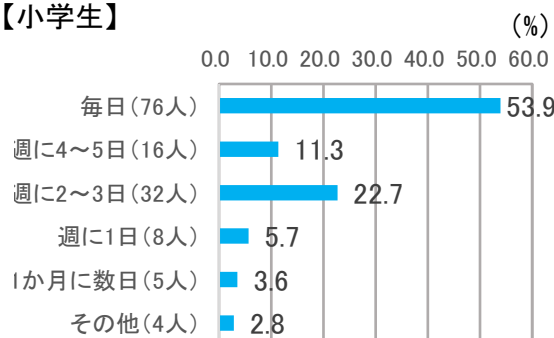
ケアの理由は、「親が仕事で忙しい」が53.2%と最も高く、次いで「年下のきょうだい」38.0%、「ケアをしたいと自分で思った」26.6%の順であった。



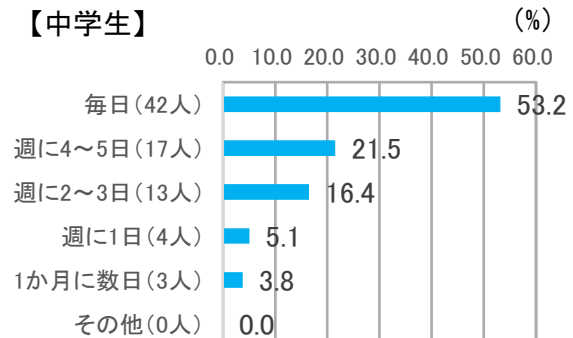
ケアの頻度

ケアを行っている頻度は、小学生、中学生とも「毎日」が最も高かった。

【小学生】



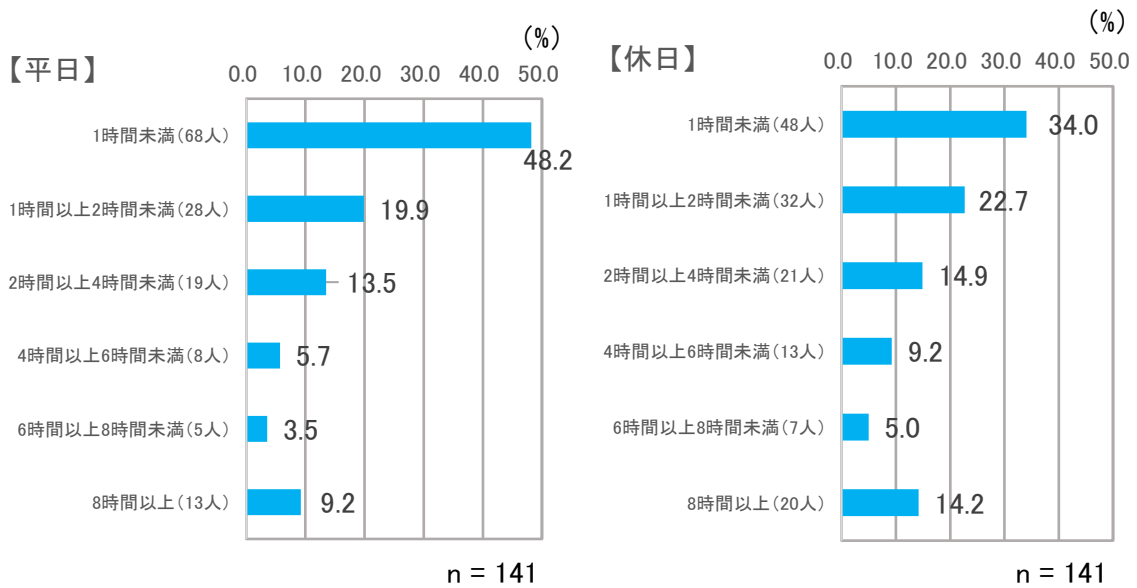
【中学生】



ケアに費やしている時間

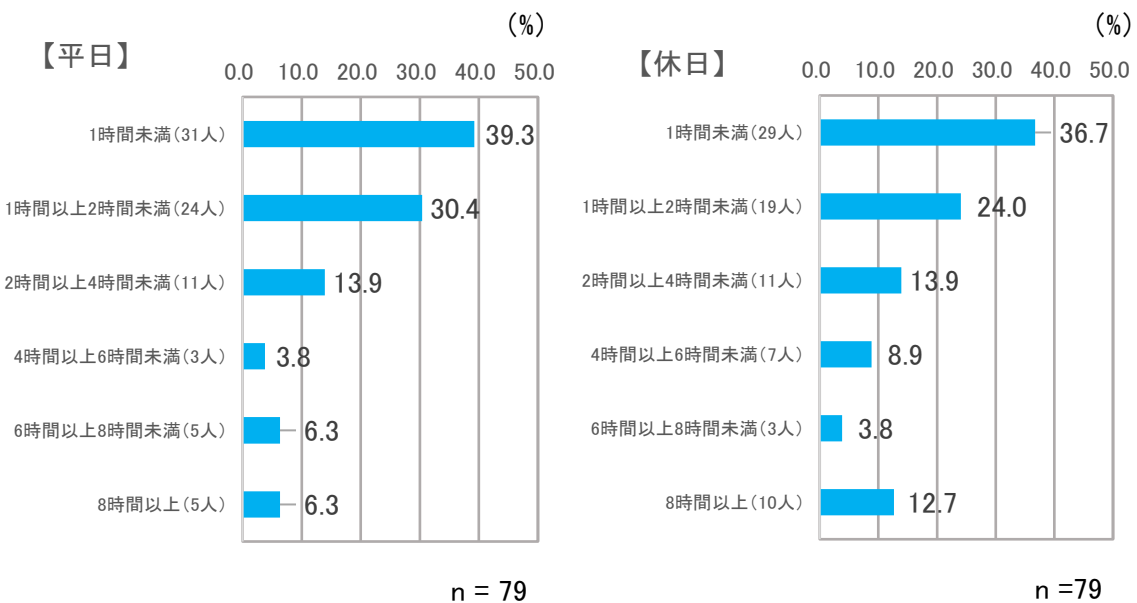
【小学生】

ケアに費やしている時間は、「1 時間未満」が平日・休日とも最も高く、次いで「1 時間以上 2 時間未満」、「2 時間以上 4 時間未満」の順であった。



【中学生】

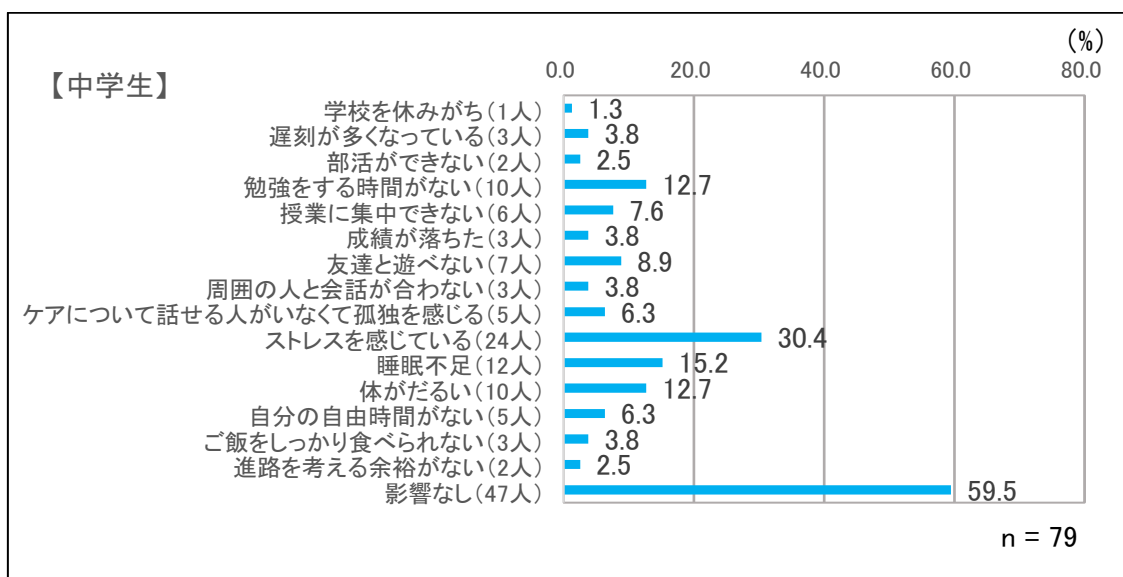
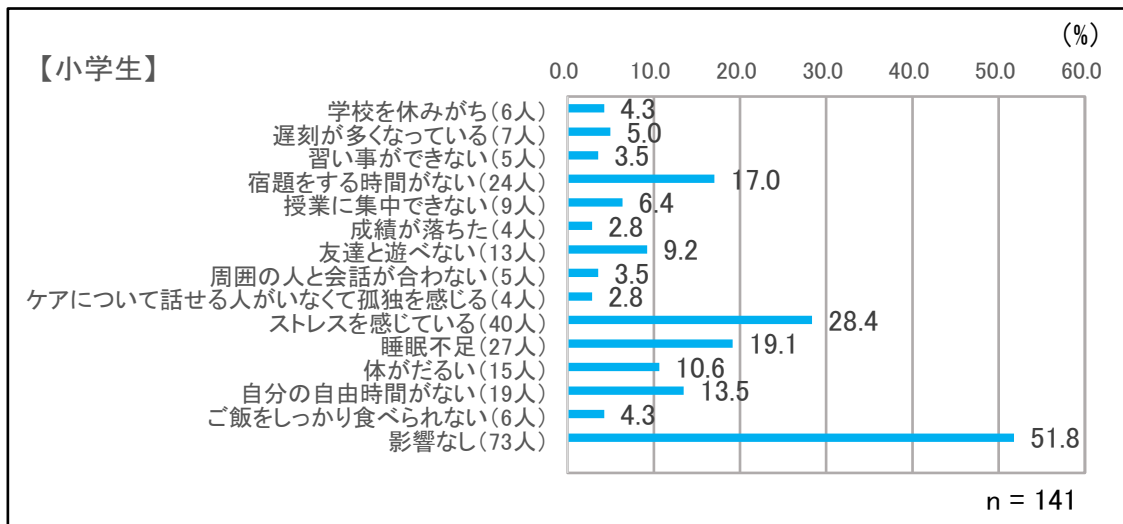
ケアに費やしている時間は、「1 時間未満」が平日・休日とも最も高く、次いで「1 時間以上 2 時間未満」、「2 時間以上 4 時間未満」の順であった。



日常生活への影響

(複数回答)

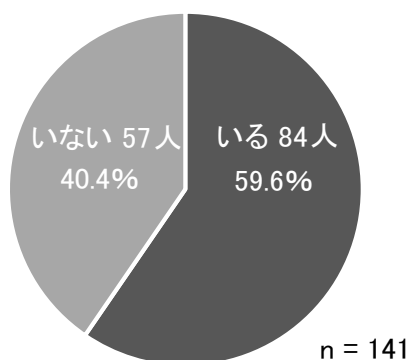
ケアによる日常生活への影響については、小学生、中学生とも「影響なし」が最も高く、次いで「ストレスを感じている」であった。



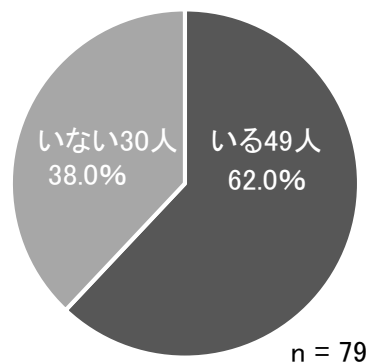
相談相手の有無

ケアについての悩みや不満を話せる人の有無は、「いる」と回答した者が多かった。相談相手は、一緒にケアを行っている「母親」が最も高く、次いで「父親」や「友達」など身近な人たちに相談していた。

【小学生】



【中学生】

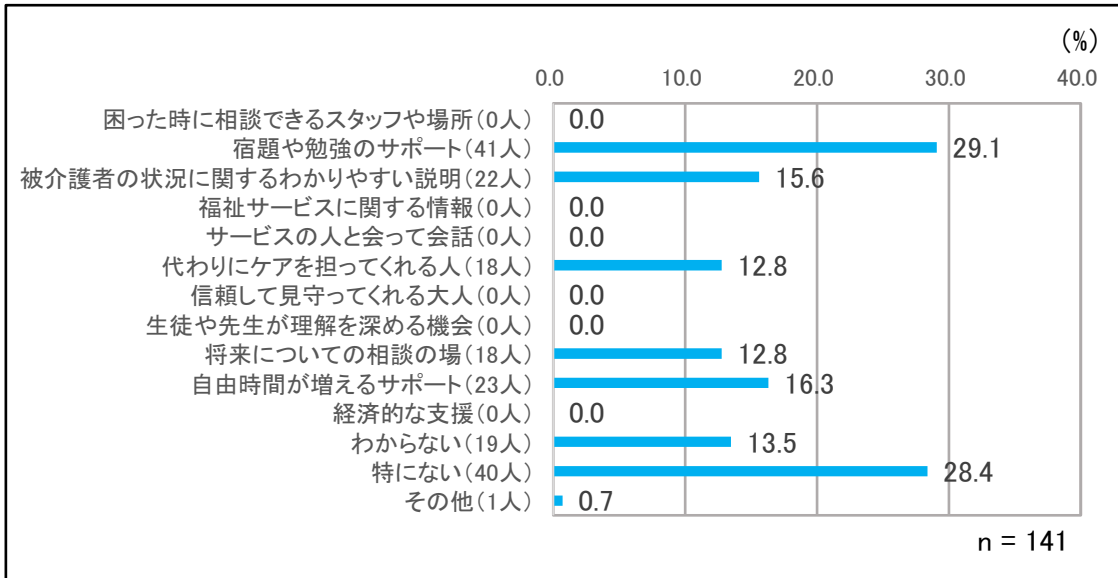


望むサポート

(複数回答)

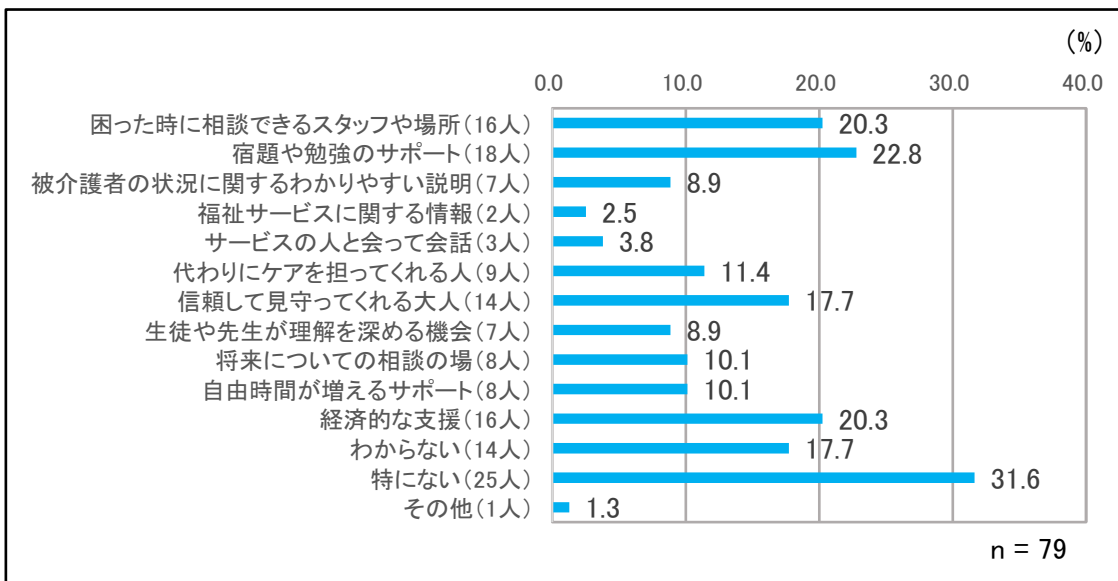
【小学生】

ケアに関して望むサポートは、「宿題や勉強のサポート」が 29.1%と最も高く、次いで「特にな
い」28.4%、「自由時間が増えるサポート」16.3%、「被介護者の状況に関するわかりやすい説
明」15.6%の順であった。



【中学生】

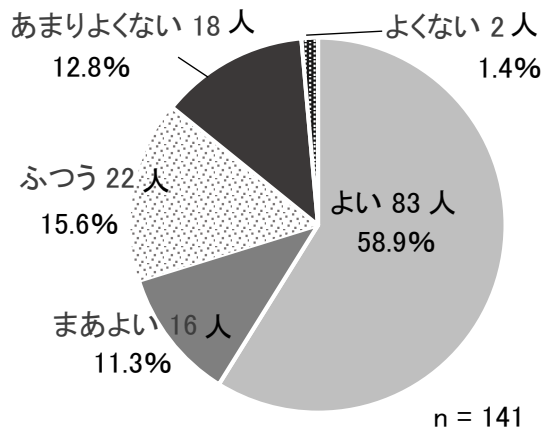
ケアに関して望むサポートは、「特にな」が 31.6%と最も高く、次いで「宿題や勉強のサ
ポート」22.8%、「困った時に相談できるスタッフや場所」と「経済的な支援」20.3%の順であった。



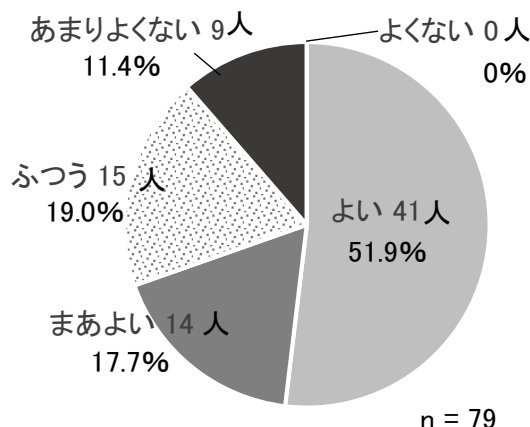
ヤングケアラーの健康状態

ケアの時間が長くなるにつれて、「あまりよくない」と回答するものが増える傾向がうかがえた。

【小学生】



【中学生】



自由記述

【小学生】

- ・ ヤングケアラーについてよく知れて良かったです。
- ・ 自分が、ヤングケアラーだと確信できました。妹、弟をお世話しているため、あまり睡眠がとれていないけれど家族もいっしょにやってくれるので、大丈夫だと思います。
- ・ 私はヤングケアラーではないけれど、動画を見て、お手伝いとお世話には大きな違いがあることが分かりました。また、ヤングケアラーの方々はとても大変だと分かりました。
- ・ ケアによって、「勉強ができない」や「学校に行けない」ということについて、そのような人に対する支援が大切だと思いました。
- ・ ケアしていることについて、あまり話さないことだから、スッキリしました。
- ・ もしクラスにヤングケアラーがいたらその子の悩みなどを聞いて力になりたいです。

【中学生】

- ・ ヤングケアラーという言葉は初めて聞きました。この言葉をもっといろいろな人に浸透させ、ヤングケアラーを理解してもらえるように、もっといろいろな場面でヤングケアラーについて考える時間が必要だと思います。
- ・ ヤングケアラーだけがお世話や面倒を見るのではなく、地域や周りの人たちで協力しあってサポートしていけたらいいと思いました。
- ・ 18歳未満だとまだお世話をしてもらうくらいの歳なのに、家庭の事情でヤングケアラーの負担が少しでも少なくなる制度ができたらいいいと思いました。
- ・ 私みたいな人をヤングケアラーと言うのだと初めて知りました。
- ・ 家族を大切に思うのはいいことだと思います。ですが、それと同じくらい自分も大切だと思います。この調査で少しでも救われる人が増えるといいと思います。
- ・ 耳が聞こえない家族のために通訳などを日々しています。小さいときからなので不満はないです。会話も手話でしていますが、特に支障はないです。楽しい日々です。

3 小学校教員・養護教諭

小学1年生から3年生におけるヤングケアラーの状況把握については、教員へのアンケート調査によって確認することとし、市内小学校16校の小学1年生から3年生の担任及び養護教諭に調査を行った。

教員のヤングケアラーの認知度

	知らなかった	聞いたことはあるが 具体的に知らない	講習会に参加した ことがある	ヤングケアラーの対 応をしたことがある	(人)
小学1年生担任 (n=11)	6	5	0	0	
小学2年生担任 (n=22)	7	15	0	0	
小学3年生担任 (n=17)	3	13	0	1	
養護教諭 (n=6)	5	0	0	1	
合計 (割合)	21 (37.5%)	33 (58.9%)	0 (0%)	2 (3.6%)	

ヤングケアラーの状況把握について

①ヤングケアラーと思われる児童(可能性も含めて)を把握している教員は、小学2年生の担任が2人、小学3年生の担任が1人、養護教諭が1人であった。

	いる	いない	わからない	(人)
小学1年生担任	0	9	2	
小学2年生担任	2	15	5	
小学3年生担任	1	10	6	
養護教諭	1	1	4	
合計	4	35	17	

②学校が把握しているヤングケアラーと思われる児童が行っていると思われるケアは以下のとおりであった。

- | | |
|-------------|-------------|
| ・幼いきょうだいのケア | ・外出時の付き添い |
| ・通訳や書類の説明 | ・家族の身の回りのケア |

4 考察

○ヤングケアラーの存在について

当市のヤングケアラーの割合は、小学生(4年生～6年生)5.7%、中学生 4.1%、高校生(1・2年生)4.8%であった。国、県の調査と概ね同様にケアラーが存在することが明らかになった。

○ケアの内容

ケアの内容については、小・中学生とも「きょうだいのケア」や「家の中の家事」「身の回りのケア」といった日常生活に直結したケアを行っている。

小学校から中学校へと進むにつれて、「言葉やコミュニケーションのサポート(家族のために通訳をする、手紙や書類などを説明する)」、「気持ちのケア(その人のそばにいる、元気づける、話をきく)」、「病気の治療に関する手助け(服薬の確認など)」が増加する傾向にある。

○ケアの理由

ケアの理由については、小学生は自分の意思でケアを行っていたが、中学生は仕事で忙しい親に代わり、必要に迫られてきょうだいの世話をしている状況がうかがえる。

○ケアに費やしている時間

小・中学生がケアに費やしている時間は、平日・休日とも「1時間未満」が最も多かった。休日に長時間のケアを行っている傾向があった。

○日常生活への影響

ケアによる日常生活の影響については、小・中学生とも「影響なし」が最も多かった。一方、「ストレスを感じている」、「宿題・勉強をする時間がない」、「睡眠不足」などの影響をあげている児童もいる。

○相談相手の有無

相談相手の有無については、小・中学生とも60%前後の児童が「いる」と回答しており、県の調査と同様の結果であった。

相談相手については、小・中学生とも「母親」が最も多く、次いで「父親」、「友達」等身近な人に相談している状況がうかがえる。一方、学校関係者や家族以外の大人を相談相手としている回答は少なかった。

○望むサポート

望むサポートについては、中学生は「特になし」が最も多く、小学生も「宿題・勉強のサポート」に次いで「特になし」が多かった。小学校から中学校へと進むにつれて、相談の場や見守ってくれる人を必要とし、何かサポートしてもらいたいというよりも、見守ってあげることが重要なサポートになり得ると考えられる。自分自身の存在を認め、尊重してほしい気持ちの表れとも見ることができる。困ったときに相談できる場の整備、信頼して見守ってくれる人材の確保が必要である。

○小学校教員・養護教諭への調査について

今回のヤングケアラー実態調査では、教員の「ヤングケアラー」という言葉に対する認知度は低い割合であった。また、ヤングケアラーと思われる児童を把握している教員の数も決して多いとはいえない状況であった。今後は「ヤングケアラー」という言葉の周知や、ケアラーに対する理解や具体的な支援についての研修が必要かと思われる。

○自由意見

調査を通じ、「ヤングケアラーという言葉は初めて知った」、「アンケートの動画を見て理解することができた」という意見が多く見られ、一定程度、ヤングケアラーについて周知が図られたものと思われる。

5 今後の方向性

(1) 周知・啓発について

ヤングケアラーの認知度は、まだまだ低く、周囲の大人のみならず子どもたち自身もヤングケアラーについて正しく理解することが重要である。研修会や広報等を通じて、ヤングケアラーについて周知・啓発し、全ての子どもが心身ともに健やかに成長できる環境整備を図る。

(2) 相談体制の整備について

親子関係等の悩みに対し、子どもが相談しやすい窓口や場の設置について調査・検討し、相談体制の整備を図る。

(3) 関係機関との連携

ヤングケアラーを早期に発見し適切な支援につなげていくため、教育機関、児童福祉、生活福祉、高齢者福祉、障害者福祉部局などの関係機関との連携を図る。

(4) 条例制定について

社会全体でヤングケアラーを支援するため、支援の基本理念、市の責務、体制の整備等を定める条例の制定を目指す。